Honeywell

Xenon™ 1900/1902

エリアイメージングスキャナ

ユーザーズガイド

免責事項

Honeywell International Inc. (以下、ハネウェル社) は、本書に記載された仕様およびその他の情報を事前に予告無く変更することがあります。変更の有無について確認するときは、必ずハネウェル社にお問い合わせください。本書の情報について、ハネウェル社では一切の保証をいたしません。

本書に技術的または編集上の誤りや記載漏れがあった場合、また本書の内容の保管、実施、あるいは使用の結果生じた事故や損害については、ハネウェル社では一切の責任を負いません。

本書には著作権で保護された情報が含まれ、著作権法の対象となります。本書のどの部分も、ハネウェル社の文書による事前承諾を得ずに複製、編集、または多言語への翻訳を行うことはできません。

© 2010-2011 Honeywell International Inc. All rights reserved.

本書に記載されたその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を有しています。

ウェブサイト: www.honeywellaidc.com

Xenon（ゼノン）は、Honeywell International Inc. の商標または登録商標です。

Microsoft® Windows®、 Windows NT®、 Windows 2000、 Windows ME、 Windows XP、ならびに Windows ロゴは Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Bluetooth® マークとロゴは Bluetooth SIG, Inc.の所有です。

本書に記載されたその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を有しています。

Xenon 1900 製品のコンプライアンス情報

アメリカ

FCC パート 15 サブパート B クラス B 適合について

この装置は FCC 規制のパート 15 に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

この装置は、FCC 規制のパート 15 に準拠するクラス B デジタル機器に対する制限に適合することがテストで確認されています。これらの制限は、居住地域に設置したときに妨害を適切に防止できるように設定されています。この装置はラジオ周波数のエネルギーを発生、使用、また場合によって放射します。指示通りに設置して使用しなければ、ラジオ受信を妨害することがあります。ただし、個々の設置例で妨害が起きないという保証はありません。この装置がラジオやテレビ受信への妨害の原因になった場合、妨害しているかどうかは装置のオン/オフにて確認可能です。使用者は以下の対策を一つまた複数試して妨害を解消してください。

- 受信アンテナの方向または位置を変える。
- 装置と受信機の間を離す。
- 装置を受信機とは別の回路のコンセントに接続する。
- 販売店あるいは経験のあるラジオ・テレビ技術者に相談する。

必要な場合には、販売店もしくは経験のあるラジオやテレビの技術者にさらなるアドバイスをお受けください。また、「インターフェースについて」というブックレットもご参考ください。これは FCC の現地オフィスにて入手可能です。ハネウェル社は当製品の無断変更やハネウェル社からの指定を受けていない接続ケーブルや機器の置換や取り付けによるラジオやテレビへの妨害についての責任を追いません。その処理はユーザー自身の責任となります。

このシステムにはシールドデータケーブルをお使いください。

注意： ハネウェル社から明確に認可されていない変更や修正を機器に対して行った場合は、この機器の操作に対する FCC の認証が無効になることもあります。

UL について

UL は UL60950-1　2nd Edition に適合しています。

カナダ

Industry Canada ICES-003

このクラス B デジタル装置は Canadian ICES-003 に対応しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

Conformité à la règlementation canadienne

Cet appareil numérique de la Classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada. Son fonctionnement est assujetti aux conditions suivantes :

1. Cet appareil ne doit pas causer de brouillage préjudiciable.
2. Cet appareil doit pouvoir accepter tout brouillage reçu, y compris le brouillage pouvant causer un fonctionnement indésirable.

cUL について

cUL は CSA C22.2 No.60950-1-07 2nd Edition に適合しています。

ヨーロッパ

CE 製品についている CE マークは、EN55022 CLASS B、 EN55024, EN61000-3-2、EN61000-3-3 基準による 2004/108/EC EMC Directive に適合していることを示しています。
また、推奨済みの電源で出荷されている場合は 2006/95/EC Low Voltage Directive に適合しています。

詳細については、以下にお問い合わせください。

Honeywell Imaging & Mobility Europe BV
Nijverheidsweg 9-13
5627 BT Eindhoven
The Netherlands

ハネウェル社は、当社の製品が CE マークの無い、Low Voltage Directive に適合しない機器（電源装置、パーソナルコンピュータなど）と使用された場合の一切の責任を負いません。

廃電気電子機器指令について

ハネウェル製品は 2003 年 1 月 27 日の廃電気電子機器（WEEE）指令、 2002/96/EC OF THE EUROPEAN PARLIAMENT AND OF THE COUNCIL に適合しています。

この製品は製造につき、天然資源の抽出と使用を求められていますが、この製品には、適切に処理しなければ、健康に影響を及ぼすおそれのある有害物質が含まれている場合があります。

有害物質が環境に散布されないよう、また天然資源に対する圧力を軽減するため、製品の廃棄には適切な回収システムを利用されることをお勧めします。そのような回収システムでは、安全な方法で廃棄される製品のほとんどの材料が再使用またはリサイクルされます。

車輪付きゴミ箱にバツ印がついた記号は、製品を都市ゴミとともに廃棄してはならないことを示すものであり、製品の廃棄には適切な分別回収システムの利用が望まれるものです。収集、再使用、およびリサイクルの各システムの詳細が必要な場合は、地方自治体の廃棄物管理局にお問い合わせください。

また、この製品の環境パフォーマンスの詳細については、購入先にお問い合わせください。

ドイツ

お使いの製品に GS マークが付いている場合は、その製品が GS 認証を受け、IEC60950-1　2nd Edition に適合していることを示しています。

オーストラリア/ニュージーランド

C-Tick について

AS/NZS 3548 EMC の要求に合致しています。

メキシコ

NOM-019 に合致しています。

日本

技術基準適合証明 を取得しています。

ロシア

МЛ04 Gost-R 認証を取得しています。

韓国

本製品は、韓国の技術基準認証を取得しています。

台湾

本製品には下記ラベルが貼付されており、認証の取得を意味します。

BSMI Standard: CNS13438, CNS14336
依據標準 : CNS13438, CNS14336

全世界向け

目への安全性について : LED

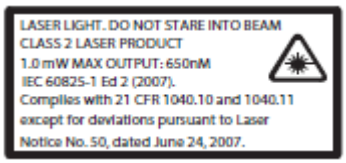
この装置は IEC62471:2006 の LED 安全規格に従ってテストされ、「EXEMPT RISK GROUP」に分類されました。

CB スキーム

IEC60950-1 Second Edition に適合しています。

レーザー安全表示

本製品には下記のラベルが貼付されており、製品にレーザーエンジンまたはレーザーエイマーが含まれていることを示します。



本製品は IEC60825-1 ed2 (2007) パルス長 15.5mSec に従って検査されています。2007 年 6 月 24 日付けのレーザー通知 No. 50 から逸脱するものを除き、21 CFR 1040.10、1040.11 に準拠しています。
本製品はレーザー光、クラス 2 レーザー製品（1.0mW 最大出力 650nM）です。レーザービームを凝視しないでください。

注意 : 本書で記されていない管理、調整、手続きの実行は有害な放射物の露出を引き起こす可能性があります。

特許

特許の一覧については、ウェブサイト（www.honeywellaidc.com/patents)をご覧下さい。

防塵・防水規格

Xenon 1900 は IP41 等級で、外部粒子と水滴に対して耐性があります。

警告

熱による怪我発生の可能性を低くする為、熱を感じられる部分には触らないでください。

製品コンプライアンス
Xenon 1902 ならびに CCB01-010BT について

アメリカ

FCC パート 15 サブパート C

この装置は FCC 規制のパート 15 に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

注意：ハネウェル社から明確に認可されていない変更や修正を機器に対して行った場合は、この機器操作に対する FCC の認証が無効となることもあります。

本システムには、シールド済みデータケーブルのみを使用してください。本製品は、3m 未満のケーブルを接続して検査を行なっています。3m 以上のケーブルを使用した場合、クラス B の性能を満たさない可能性があります。

UL について

UL は UL60950-1　2nd Edition に適合しています。

カナダ

Industry Canada

この装置は Canadian RSS-210 に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

Conformité à la règlementation canadienne

Cet appareil ISM est conforme à la norme CNR-210 du Canada. Son fonc-tionnement est assujetti aux conditions suivantes :

1. Cet appareil ne doit pas causer de brouillage préjudiciable.
2. Cet appareil doit pouvoir accepter tout brouillage reçu, y compris le brouillage pouvant causer un fonctionnement indésirable.

UL について

C-UL については、 I.T.E 製品安全性の CSA C22.2 No.60950-1-07 2nd Edition に適合しています。

ヨーロッパ

製品についている CE マークは 1999/5/EC R&TTE Directive の必須条件を満たしていることを示しています。また、また、推奨される電源で出荷されている場合は 2006/95/EC Low Voltage Directive に適合しています。詳細については、以下にお問い合わせください。

Honeywell Imaging & Mobility Europe BV
International Inc.
Nijverheidsweg 9-13
5627 BT Eindhoven
The Netherlands

ハネウェル社は、当社の製品を CE マークが無く、 Low Voltage Directive に適合しない機器（電源装置、パーソナルコンピュータなど）と使用された場合の一切の責任を負いません。この製品は EC での使用を前提としたもので、以下の基準に適合しています。

EN 300 328
EN 301 489-1
EN 301 489-17
EN60950-1

廃電気電子機器について

ハネウェル l 製品は廃電気電子機器（WEEE）指令、
2002/96/EC OF THE EUROPEAN PAR-LIAMENT AND OF THE COUNCIL に適合しています。

この製品は製造につき、天然資源からの抽出や使用を求められていますが、この製品には、適切に処理しなければ、健康と影響に影響を及ぼすおそれのある有害物質が含まれている場合があります。

有害物質が環境に散布されないよう、また天然資源に対する圧力を軽減するため、製品の廃棄には適切な回収システムを利用されることをお勧めします。そのような回収システムでは、安全な方法で廃棄される製品のほとんどの材料が再使用またはリサイクルされます。

車輪付きゴミ箱にバツ印がついた記号は、製品を都市ゴミとともに廃棄してはならないことを示すものであり、製品の廃棄には適切な分別回収システムの利用が望まれるものです。

収集、再使用、およびリサイクルの各システムの詳細が必要な場合は、地方自治体の廃棄物管理局にお問い合わせください。

また、この製品の環境パフォーマンスの詳細については、購入先にお問い合わせください。

ドイツ

お使いの製品に GS マークが付いている場合は、その製品が GS 認証を受け、IEC60950-1　2nd Edition に適合していることを示しています。

オーストラリア/ニュージーランド

C-Tick

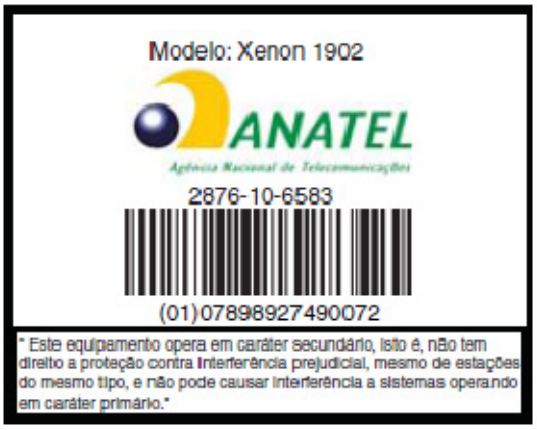
AS/NZS 3548 EMC の要件に適合しています。

ブラジル

本製品は、No. 242/2000 の議決で定められた手続きに従い Anatel によって承認され、技術的要件を満たしています。

Este produto está homologado pela ANATEL, de acordo com os procedimentos regulamentados pela Resolução No. 242/2000 e atende aos requisitos técnicos aplicados.

Para maiores informações, consulte o site da ANATEL – www.anatel.gov.br


Modelo: Xenon 1902
ANATEL
2876-10-6583
(01)07898927490072
* Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário.*

中国

SRRC 無線認証を取得しています。

日本

特定無線機器の技術基準適合証明を取得しています。

韓国

本製品は、韓国の技術基準認証を取得しています。

メキシコ

NOM-019 に準拠しています。本製品は、Cofetel の承認を満たしています。

ロシア

Gost-R 認証を取得しています。

台湾

下のラベルがお使いの製品に貼付されている場合、その製品は台湾における規格基準を満たしています。

BSMI Standard: CNS13438, CNS14336
依據標準 : CNS13438, CNS14336

NCC 基準:低電力周波数電気機械技術基準：LP0002 に準拠しています。

全世界

LED 安全表示

この装置は IEC 62471: 2006 LED 安全規格に従ってテストされ、「EXEMPT RISK GROUP」に分類されました。

無線技術

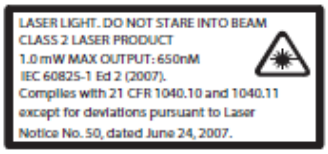
Bluetooth クラスⅡに適合しています。

CB スキーム

CB スキーム IEC 60950-1 Second Edition に適合しています。

レーザー安全表示

本製品には下記のラベルが貼付されており、製品にレーザーエンジンまたはレーザーエイマーが含まれていることを示します。



本製品は IEC60825-1 ed2 (2007) パルス長 15.5mSec に従って検査されています。2007 年 6 月 24 日付けのレーザー通知 No. 50 から逸脱するものを除き、21 CFR 1040.10、1040.11 に準拠しています。

本製品はレーザー光、クラス 2 レーザー製品（1.0mW 最大出力 650nM）です。レーザービームを凝視しないでください。

注意 - 本書で記されていない管理、調整、手続きの実行は有害な放射物の露出を引き起こす可能性があります。

防滴・防塵規格

Xenon 1902 は IP41 等級で、外部粒子と水滴に対して耐性があります。

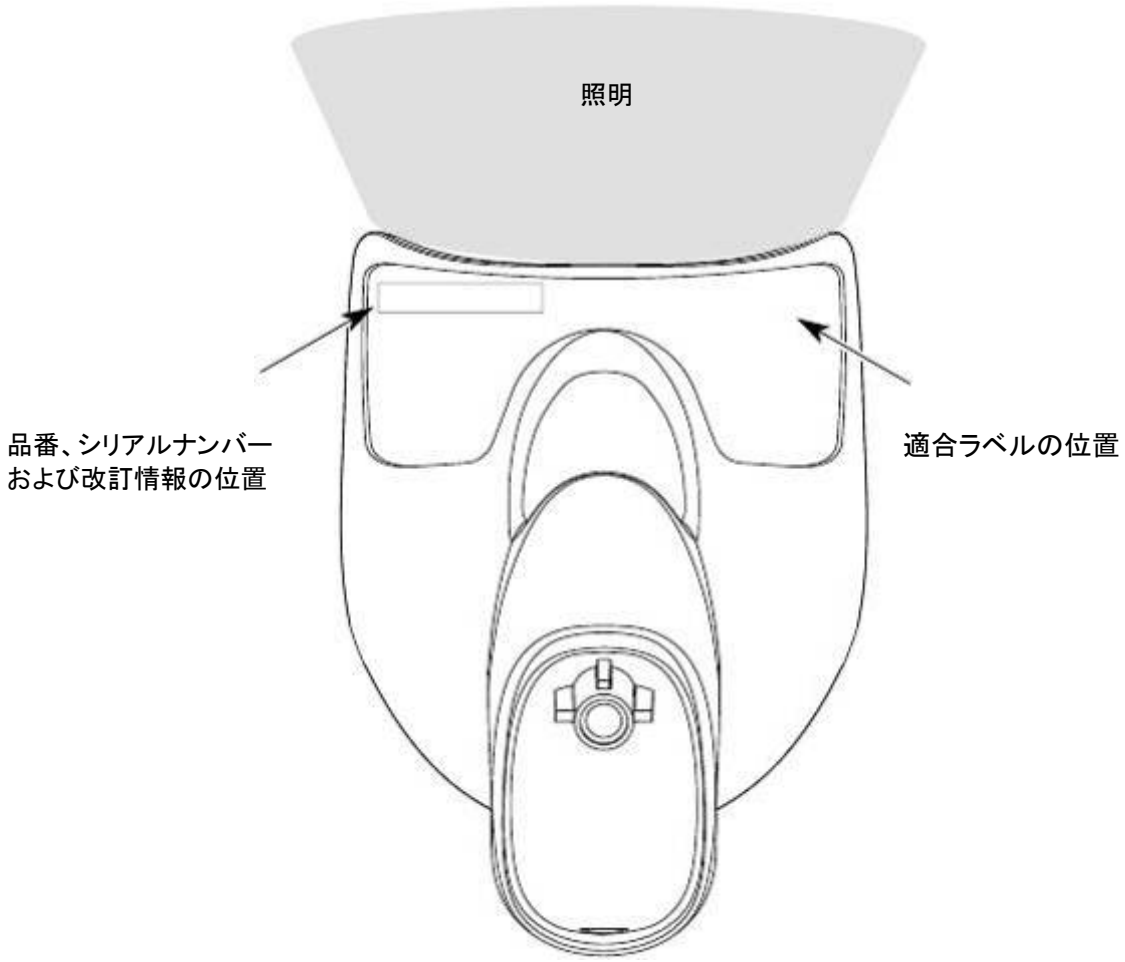
特許

特許の一覧については、製品のパッケージを参照のこと。

警告

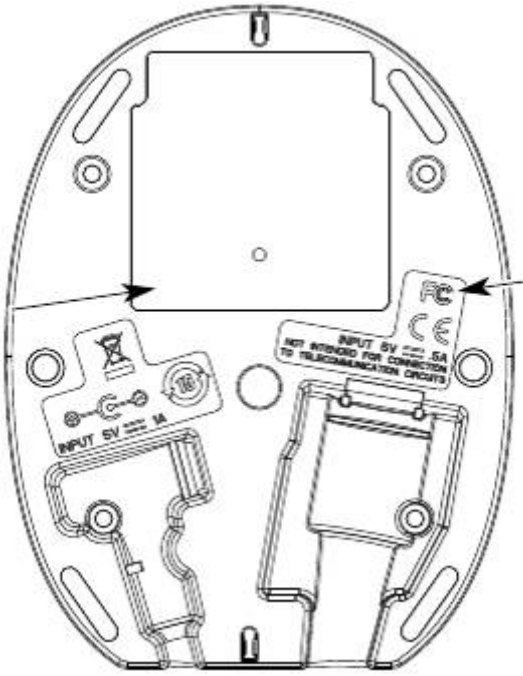
熱による怪我発生の可能性を低くする為、熱を感じられる部分には触らないでください。

製品ラベル
スキャナ



CCB01-010BT ベース

品番、シリアルナンバー
および改訂情報の位置



適合ラベルの位置

目次

はじめに 1
本マニュアルについて 1
製品の開梱 1
接続 2
USB 接続 2
キーボードウェッジ接続 3
RS232C シリアルポート接続 4
RS485 接続 5
読み取り方法 6
メニューバーコードのセキュリティ設定 7
カスタムデフォルトの設定 7
カスタムデフォルトの再設定 8
初期設定 8
インターフェースの設定 1
はじめに 1
インターフェースの設定 – プラグ＆プレイ 1
キーボードウェッジ 1
ノート型 PC との直接接続 1
RS232 シリアルポート 2
RS485 2
RS485 パケットモード 3
RS485　パケットの長さ 3
USB IBM SurePOS 4
パソコン USB もしくはマッキントッシュのキーボード 4
USB HID 5
USB シリアル 5
CTS/RTS エミュレーション 5
ACK/NAK モード 6
Verifone® Ruby 端末の初期設定 6
Gilbarco® 端末の初期設定 7
Honeywell ２面式カウンタースキャナの補助ポート設定 7
Datalogic™ Magellan© 2 面式カウンタースキャナの補助ポート設定 7
NCR 2 面式カウンタースキャナの補助ポート設定 8
Wincor Nixdorf 端末の初期設定 8
Wincor Nixdorf Beetle™ 端末の初期設定 8
国別キーボード 9
キーボードスタイル 18
キーボードスタイル２ 19
キーボードの変換 19
コントロールキャラクタの出力 20
キーボード設定 20
RS232C　ボーレート 22
RS232 ワード長: データビット、ストップビット、パリティ 23
RS232 レシーバタイムアウト 24
RS232 ハンドシェイク 24
RS232C タイムアウト 25
XON/XOFF 25
ACK/NAK 25
スキャナから 2 面式カウンタースキャナへの通信 26

2 面式カウンタースキャナパケットモード....26
2 面式カウンター式スキャナ　ACK/NAK モード....26
2 面式カウンタースキャナ ACK/NAK タイムアウト....27
コードレスシステムの操作....1
コードレスチャージベースの仕組....1
スキャナのチャージベースへの接続....1
コードレスシステムとホストデバイス間の通信....2
RF (無線周波) モジュールの操作....2
システム条件....2
通信プロセス....2
スキャナが通信可能範囲外にあるとき....3
スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき....3
バッチモード有効時での通信可能範囲への出入り....3
ページ（呼出し）ボタン....3
バッテリーについて....3
充電について....4
バッテリーについての推奨事項....4
リチウム電池の安全に関する注意事項....4
バッテリーの適切な処分....5
ブザー・LED のシーケンスと意味....5
スキャナの LED シーケンスと意味....5
ベースユニットの LED シーケンスと意味....6
ベースのパワーインジケーター....6
スキャナのリセット....7
スキャナをベースに置いた状態での読み取り....7
ページング（スキャナの呼び出し）....8
ページングモード（スキャナの呼び出し）....8
ページング（呼び出し）音の音程....8
エラーインジケーター....9
ブザー音の音程：ベースのエラー発生時....9
ブザー音の回数：ベースのエラー発生時....9
スキャナレポート....10
スキャナのアドレス....10
ベースのアドレス....10
スキャナモード....11
充電限定モード....11
通信モード....12
通信固定モード：スキャナ 1 台の場合....12
通信オープンモード....12
スキャナとの通信解除....13
通信の上書き....13
通信範囲外アラーム....13
アラーム音の種類....14
スキャナパワータイムアウトタイマー....15
出力管理....16
スキャナとベースのリセット....17
バッチモード....17
バッチモード：ブザー音....18
バッチモード：保存形式....18
バッチモード：個数....19
個数の入力....19
個数コード....20
バッチモード：出力順序....21
レコードの合計件数....21
最後のコードを削除....21

すべてのコードを削除 21
保存したデータをホストシステムへ送信 22
バッチモード：送信ディレー（間隔） 23
複数スキャナでの操作 23
スキャナ名 24
アプリケーションワークグループ 25
アプリケーションワークグループセレクション 26
初期設定へのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ 26
カスタムデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ 27
Bluetooth 対応機器との併用 28
Bluetooth HID キーボード 通信切断 30
Bluetooth シリアルポート：デスクトップ型 PC/ノート型 PC 30
PDA/ハンディターミナル 31
スキャナの Bluetooth 暗証コード変更 31
Bluetooth/ISM 帯域ネットワーク干渉の最小化 31
自動再接続モード 32
再接続試行最高限度回数 33
再接続タイムアウト 33
Bluetooth / ISM ネットワークアクティビティの例 34
ホストコマンドの認知 35
ホスト ACK 36
ホスト ACK のレスポンス 36
入力・出力設定 1
起動ブザー 1
トリガークリック音 2
読み取り成功インジケーター 2
ブザー：読み取り成功時 2
ブザーの音量：読み取り成功時 3
ブザーの音程：読み取り成功時 3
ブザーの音程：読み取り失敗時およびエラー発生時 4
ブザーの長さ：読み取り成功時 4
LED：読み取り成功時 4
ブザーの回数：読み取り成功時 5
ブザーの回数：読み取り失敗時およびエラー発生時 5
読み取り成功ディレー 6
ユーザー定義の読み取り成功ディレー 6
マニュアルトリガーモード 7
LED 照明：マニュアルトリガーモード 7
シリアルトリガーモード 8
読み取りタイムアウト 8
プレゼンテーションモード 8
LED 照明：プレゼンテーションモード 9
デコード後のプレゼンテーション LED の動作 9
プレゼンテーション感度 10
プレゼンテーションセンタリング 10
Presentation Centering On（プレゼンテーションセンタリング　有効）を読み取った後、 12
スタンド使用時のセンサーモード 12
CodeGate® 13
ストリーミングプレゼンテーション™ モード 13
スタンド使用時のストリーミングプレゼンテーション設定 14
携帯端末読み取りモード 14
画像撮影と送信 14
ハンズフリータイムアウト 15
再読み取りディレー 15
ユーザー定義の再読み取りディレー 16

照明設定 16
エイマーディレー 16
ユーザー定義のエイマーディレー 17
スキャナタイムアウト 17
エイマーモード 17
センタリング 18
優先シンボル 20
高優先度シンボル 20
低優先度シンボル 21
優先シンボルのタイムアウト 21
優先シンボルのデフォルト 21
アウトプットシーケンスの概要 22
アウトプットシーケンスの条件 22
アウトプットシーケンスエディタ 22
アウトプットシーケンスの追加 22
他の設定 23
アウトプットシーケンス　設定例 23
アウトプットシーケンスエディタ 24
パーティカルシーケンス 25
アウトプットシーケンスの要求 25
複数シンボル 26
No Read 26
ビデオリバース（反転コード） 27
ワーキングオリエンテーション 28
データ編集 1
プリフィクス/サフィックスについて 1
キャリッジリターン（CR）サフィックスをすべてのシンボルに追加 3
プリフィクスの設定 3
サフィックスの設定 4
ファンクションコードの送信 4
キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレー 5
キャラクタ間ディレー（間隔） 5
ユーザー定義のキャラクタ間ディレー（間隔） 6
ファンクション間ディレー（間隔） 7
メッセージ間ディレー（間隔） 7
データフォーマット 1
データフォーマットエディタについて 1
データフォーマットの追加 2
他の設定 3
ターミナルＩＤテーブル 4
データフォーマットエディタコマンド（編集コマンド） 4
移動コマンド 6
検索コマンド 7
その他のコマンド 8
データフォーマッター 9
データフォーマット非適合エラーブザー 11
基準／代用 データフォーマット 11
データフォーマットの切り替え 12
シンボル 1
すべてのシンボル 2
読み取り桁数について 2
Codabar 3
Codabar　有効/無効 3
Codabar　スタート/ストップキャラクタ 3
Codabar チェックキャラクタ 4

Codabar の連結 5
Codabar の読み取り桁数 5
Code 39 6
Code 39 の有効/無効 6
Code 39 スタート/ストップキャラクタ 6
Code 39 チェックキャラクタ 7
Code 39 読み取り桁数 7
Code 39 の連結 8
Code 32 Pharmaceutical（PARAF） 8
Full ASCII 9
Code 39 コードページ 9
Interleaved 2 0f 5 (ITF) 10
Interleaved 2 0f 5 (ITF) の有効/無効 10
Interleaved 2 of 5（ITF） チェックデジット 10
Interleaved 2 of 5 (ITF) の読み取り桁数 11
NEC 2 of 5 12
NEC 2 of 5 有効/無効 12
NEC 2 of 5 チェックデジット 12
NEC 2 of 5 読み取り桁数 13
Code 93 14
Code 93 有効/無効 14
Code 93 読み取り桁数 14
Code 93 連結機能 15
Code 93 コードページ 15
Straight 2 of 5 Industrial（3 バースタート/ストップ） 16
Straight 2 of 5 Industrial 有効/無効 16
Straight 2 of 5 Industrial 読み取り桁数 16
Straight 2 of 5 IATA（2 バースタート/ストップ） 17
Straight 2 of 5 IATA 有効/無効 17
Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数 17
Matrix 2 of 5 18
Matrix 2 of 5 有効/無効 18
Matrix 2 of 5 読み取り桁数 18
Code 11 19
Code 11 有効/無効 19
チェックデジットの要求 19
Code 11 読み取り桁数 19
Code 128 20
Code 128 有効/無効 20
ISBT 128 連結機能 20
Code 128 読み取り桁数 21
Code 128 連結機能 21
Code 128 コードページ 21
GS1-128 22
GS1-128 有効/無効 22
GS1-128 読み取り桁数 22
Telepen 23
Telepen 有効/無効 23
Telepen 出力 23
Telepen 読み取り桁数 24
UPC-A 25
UPC-A 有効/無効 25
UPC-A チェックデジット 25
UPC-A システム番号 25
UPC-A アドオン 26
UPC-A アドオンの要求 26

UPC-A アドオンセパレータ 27
拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13 27
クーポン GS1 データバー 出力 28
UPC-E0 29
UPC-E0 有効/無効 29
UPC-E0 の拡張 29
UPC-E0 アドオン要求 30
UPC-E0 アドオンセパレータ 30
UPC-E0　チェックデジット 30
UPC-E0 システム番号 31
UPC-E0 アドオン 31
UPC-E1 31
EAN/JAN-13 32
EAN/JAN-13 有効/無効 32
EAN/JAN-13 チェックデジット 32
EAN/JAN-13 アドオン 33
EAN/JAN-13 アドオン要求 33
EAN/JAN-13 アドオンセパレータ 34
ISBN 変換 34
EAN/JAN-8 35
EAN/JAN-8 有効/無効 35
EAN/JAN-8 チェックデジット 35
EAN/JAN-8 アドオン 36
EAN/JAN-8 アドオン要求 36
EAN/JAN-8 アドオンセパレータ 36
MSI 37
MSI 有効/無効 37
MSI チェックキャラクタ 37
MSI 読み取り桁数 38
GS1 データバー 標準型（オムニディレクショナル） 39
GS1 データバー標準型　有効/無効 39
GS1 データバー限定型（リミテッド） 39
GS1 データバー限定型　有効/無効 39
GS1 データバー拡張型（エクスパンデッド） 40
GS1 データバー拡張型　有効/無効 40
GS1 データバー拡張型　読み取り桁数 40
Trioptic コード 41
Trioptic コード　有効/無効 41
Codablock A 42
Codablock A　有効/無効 42
Codablock A　読み取り桁数 42
Codablock F 43
Codablock F　有効/無効 43
Codablock F　読み取り桁数 43
PDF 417 44
PDF417　有効/無効 44
PDF417　読み取り桁数 44
MacroPDF417 44
MicroPDF417 45
MicroPDF417　有効/無効 45
MicroPDF417　読み取り桁数 45
GS1 コンポジットシンボル 45
UPC/EAN バージョン 46
GS1 コンポジットシンボル　読み取り桁数 46
GS1 エミュレーション 47
TCIF Linked Code 39（TLC39） 48

QR コード 49
QR コード　有効/無効 49
QR コード　読み取り桁数 49
QR コード　連結機能 50
QR コード　コードページ 50
Data Matrix 51
Data Matrix　有効/無効 51
Data Matrix　読み取り桁数 51
Data Matrix　連結機能 52
Data Matrix　コードページ 52
Maxi コード 53
Maxi コード　有効/無効 53
Maxi コード　読み取り桁数 53
Aztec コード 54
Aztec コード　有効/無効 54
Aztec コード　読み取り桁数 54
Aztec　連結機能 55
Aztec　コードページ 55
中国漢信（Han Xin）コード 56
漢信コード　有効/無効 56
漢信コード　読み取り桁数 56
2 次元郵便コード 57
2 次元郵便コード（単独） 57
2 次元郵便コード（組み合わせ） 58
Planet コード　チェックデジット 60
Postnet　チェックデジット 60
オーストラリア郵便　判読 60
1 次元郵便コード 61
中国郵便コード（Hong Kong 2 of 5） 61
中国郵便コード（Hong Kong 2 of 5）　有効/無効 61
中国郵便コード（Hong Kong 2 of 5） 読み取り桁数 62
韓国郵便 63
韓国郵便　有効/無効 63
韓国郵便　読み取り桁数 63
韓国郵便　チェックデジット 63
イメージングコマンド 1
シングル使用ベース 1
コマンドシンタクス 1
Step1 - IMGSNAP を用いて写真を撮影する 2
IMGSNP モディファイア 2
Step 2 - IMGSHP を使った画像送信 5
画像送信- IMGSHP 5
画像サイズの互換性 14
署名の取り込み 14
署名取り込みの最適化 14
IMGBOX モディファイア 16
RF　初期設定のイメージングデバイス 19
インターフェースキー 1
サポートされるインターフェースキー 3
ユーティリティ 1
すべてのシンボル体系へのテストコード ID プリフィクス追加 1
デコーダーの改訂情報の表示 1
ドライバー改訂情報の表示 1
ソフトウェアの改訂情報表示 1
データフォーマットの表示 2

テストメニュー 2
TotalFreedom（トータルフリーダム） 2
プラグインアプリケーション 3
EZConfig について 4
EZConfig の操作 4
ウェブサイトからの EZConfig のインストール 5
シリアルプログラミングコマンド....1
記述上の語句....1
メニューコマンドシンタックス（構文） 1
質問コマンド....2
:Name:フィールドの使い方 (オプション)....2
Tag フィールドの使い方 2
SubTag フィールドの使い方....2
Data フィールドの使い方....2
複数コマンドの連結機能 2
レスポンス....3
質問コマンドの例....3
トリガーコマンド 4
読み取りタイムアウト....4
標準の製品初期設定へのリセット....4
メニューコマンド表 5
製品仕様....1
Xenon 1900/1910 スキャナ製品仕様....1
Xenon 1902 スキャナ製品仕様 2
CCB01-010BT　チャージャーホームベース製品仕様 3
読取深度 4
モノクロスキャナ　標準性能....4
モノクロスキャナ　保証性能....4
カラースキャナ　標準性能 5
カラースキャナ　保証性能 5
CCB01-010BT 充電ベース取り付け部 5
標準ケーブルのピン配列....6
キーボードウェッジ 6
シリアルアウトプット....7
RS485 アウトプット 8
USB アウトプット....9
保守....1
修理 1
保守 1
機器の清掃....1
ウィンドウの清掃....1
ヘルスケアハウジング（殺菌洗浄可能ハウジング）について 2
ケーブルとコネクタの点検 2
ケーブル交換 3
コードレスシステムのケーブルおよびバッテリーの交換 3
Xenon スキャナのトラブルシューティング 4
コードレスシステムのトラブルシューティング 5
ベースユニットのトラブルシューティング 5
コードレススキャナのトラブルシューティング....6
カスタマーサポート 1
テクニカルサポート....1
オンラインでのテクニカルサポート 2
製品のサービスと修理 2
オンラインでの製品のサービスと修理....3
条件付保証 3

付録チャート **1**
シンボルチャート 1
ASCII 変換チャート（コードページ 1252） 3
印刷バーコードのコードページマッピング 6
ユニコードキーマップ 7
サンプルシンボル 8
プログラミングチャート **12**

1

はじめに

本マニュアルについて

本書では、Xenon™ 1900 ならびに 1902 シリーズエリアイメージングスキャナの使用方法と設定の手順について説明しています。また、製品の仕様、外形寸法、保証内容、およびカスタマーサポートに関する情報も含まれています。
ハネウェル社のバーコードスキャナは、工場出荷時に一般的な端末および通信装置用にプログラム設定されています。設定変更が必要な場合は、本書記載のバーコードを読み取ってプログラム設定してください。アスタリスク(*)がついているオプションは工場出荷時の設定を示しています。

製品の開梱

梱包箱開封後、以下の手順に従ってください。

- 出荷時の損傷がないか、確認します。損傷があった場合は、すみやかに配送した運送会社へ連絡してください。
- 箱の中身に間違いがないか確認します。
- 返却もしくは保管用に、梱包箱はそのまま保管ください。

接続

USB 接続

スキャナもしくはベースをホストデバイスの USB ポートに接続します。

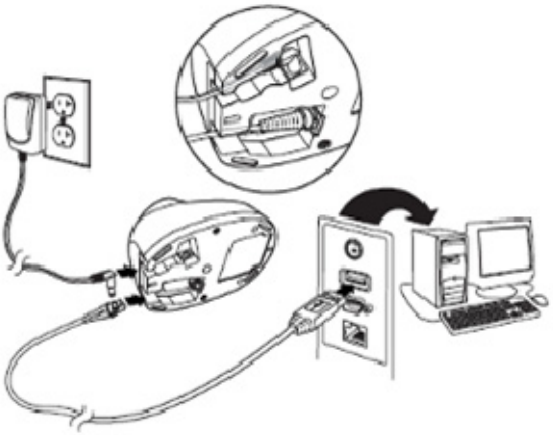
1. まず、適切なインターフェースケーブルとスキャナを接続し、次にホストデバイスと接続します。
2. ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上にまっすぐ置かれているか確認します。
3. スキャナからピーッという起動音がします。
4. 本書記載のサンプルシンボルページにあるバーコードを読み取り、スキャナもしくはコードレスベースの動作を確認してください。

この機器は PC　USB キーボード用に初期設定されています。その他の USB 端末との接続については本書の 2-4 ページを参照ください。

その他の USB のプログラム設定と技術情報については、ウェブサイト（www.honeywellaidc.com）の『USB Application Note』をご参照ください。

Xenon 1900　コード付きスキャナの USB 接続

Xenon 1902　コードレスベースの USB 接続



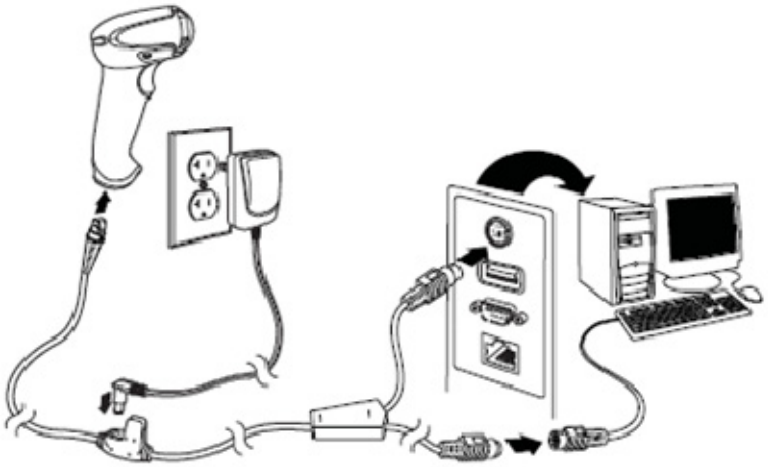
キーボードウェッジ接続

スキャナもしくはコードレスベースはキーボードとホストデバイスの間をキーボードウェッジで接続できます。他にもシリアルポートとの接続や、またはワンドエミュレーションモードや非デコード出力モードでポータブルデータ端末に接続できます。以下は、キーボードウェッジ接続の一例です。

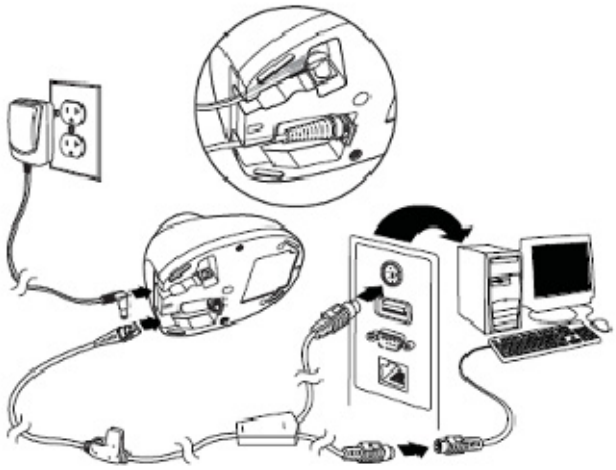
1. ホストデバイスの電源をオフにし、裏側のキーボードケーブル接続をはずします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナおよびホストデバイスに接続します。
3. ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上にまっすぐ置かれているか確認します。
4. ホストデバイスの電源をオンにします。スキャナからピーッという起動音がします。
5. 本書記載のサンプルシンボルページにあるバーコードを読み取り、スキャナもしくはベースの動作を確認してください。

お使いのスキャナもしくはベースは、IBM PC　AT でのキーボードウェッジインターフェース用に設定されています。バーコードデータにはキャリッジリターン（CR）サフィックスが追加されます。

Xenon 1900　コード付きスキャナのキーボードウェッジ接続



Xenon 1902　コードレスベースのキーボードウェッジ接続

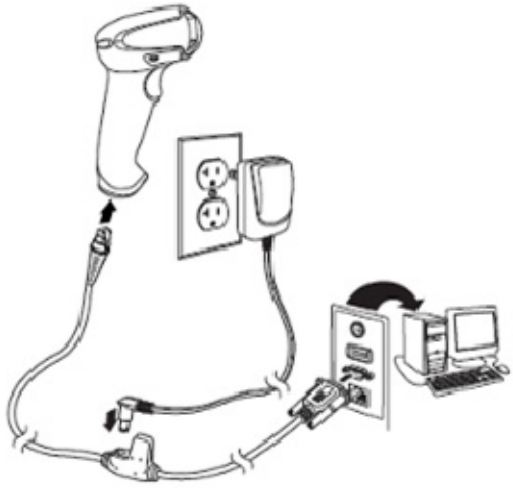


RS232C シリアルポート接続

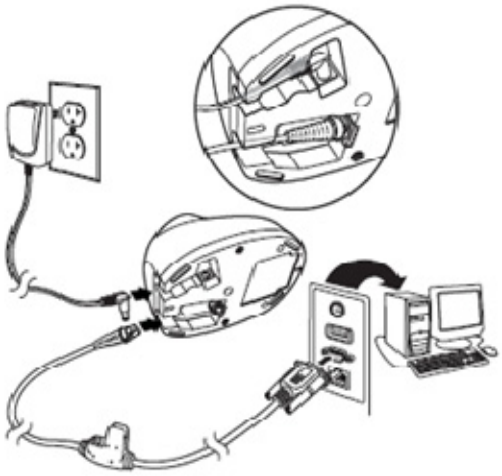
1. ホストデバイスの電源をオフにします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続します。
   注意：スキャナもしくはコードレスベースが正常に作動するようにお使いのホストデバイスに適したケーブルをご用意ください。
3. ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上にまっすぐ置かれているか確認します。
4. シリアルコネクタをホストデバイスのシリアルポートに差し込みます。2 本のネジを締めてコネクタをポートに固定します。
5. スキャナもしくはコードレスベースの接続が完了したら、コンピュータの電源を入れます。

このインターフェースはボーレート 115,200 、 8 データバイト、パリティ無し、1 ストップビットに設定されています。

コード付きスキャナの RS232 シリアルポート接続



コードレスベースの RS232 シリアルポート接続



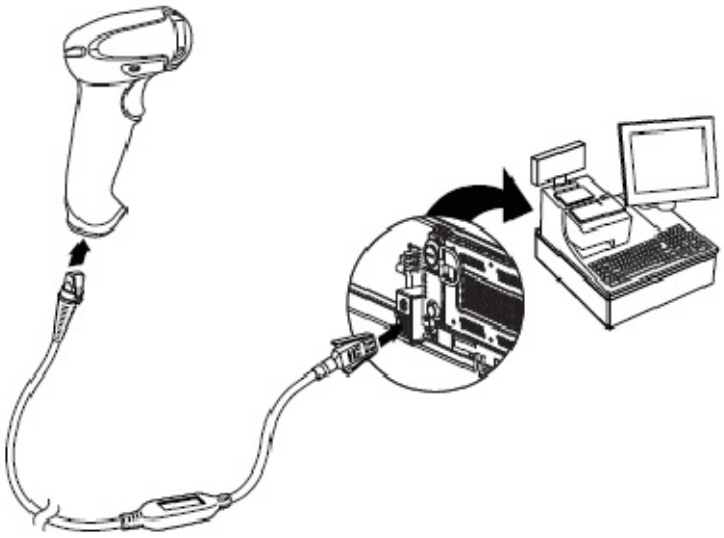
注意：True 232C (12V) で接続する場合は、インターフェースケーブルに電源アダプタを追加で接続する必要がある場合があります。

RS485 接続

スキャナまたはコードレスベースを IBM POS 端末と接続します。

1. まず、適切なインターフェースケーブルをスキャナ/コードレスベースに接続した後、ホストデバイスに接続します。
2. ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上にまっすぐ置かれているか確認します。
3. ホストデバイスの電源をオンにします。スキャナからピーッという起動音がします。
4. 本書記載のサンプルシンボルページにあるバーコードを読み取り、スキャナもしくコードレスベースの動作を確認してください。スキャナが一度鳴ります。

詳しい RS485 の設定については、2-2 ページ の RS485 の項を参照してください。

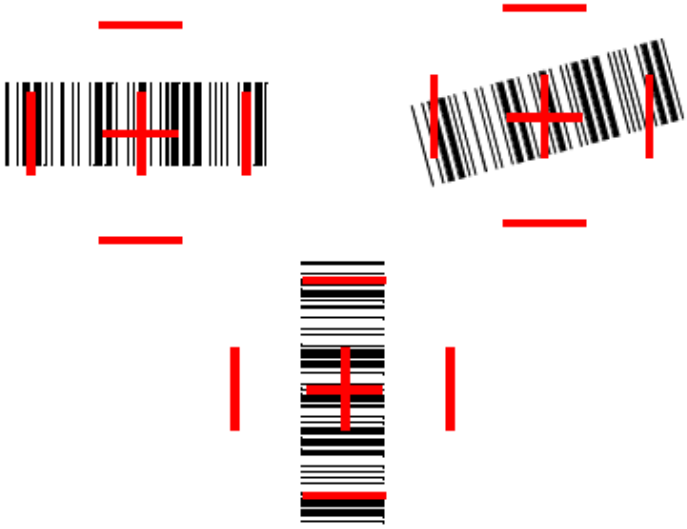


読み取り方法

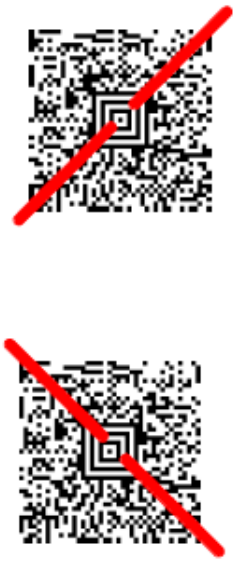
スキャナにはスキャナの横方向の視界に相当する明るい赤のエイミングビームを投射するビューファインダがあります。エイミングビームはバーコードの中央に合わせてください。ただし、読み取りやすくするためにどの方向にしてもかまいません。

1 次元バーコード
（エイミングビームあり）

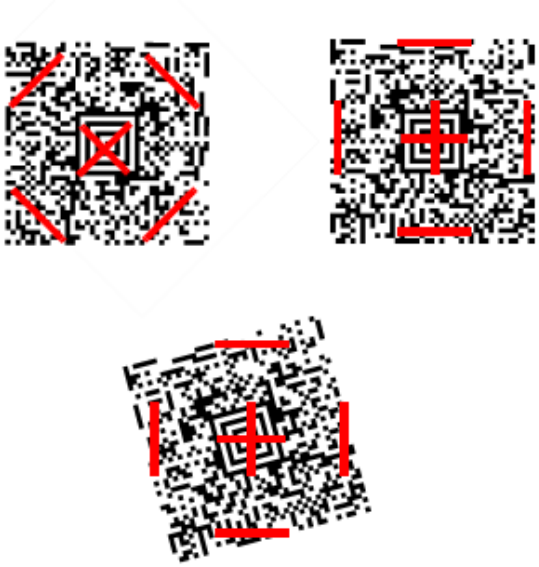
2 次元シンボル
（エイミングパターンつき）



2 次元シンボル
（エイミングビームあり）



2 次元シンボル
（エイミングパターンあり）



エイミングビームは、スキャナがバーコードに近づくと小さくなり、遠ざかると大きくなります。バーまたはエレメントが小さなシンボル（ミルサイズ/分解能）はスキャナを近づけて読み取り、大きなシンボル（ミルサイズ/分解能）は離して読み取ってください。１個または複数のシンボル（１ページまたは１個の物体の）を読み取るときは、目標から適切な距離でスキャナを保持し、トリガーを引き、エイミングビームをシンボルの中心に合わせます。読み取るバーコードの反射が大きい場合は（ラミネートされている場合など）、無用な反射を避けるため、バーコードを 15 度～18 度傾けることが必要な場合があります。

メニューバーコードのセキュリティ設定

ハネウェル社のスキャナ製品はメニューバーコードを読み取るか、シリアルコマンドをスキャナに送るよう設計されています。メニューコード読み取りを規制したい場合は、メニューバーコードのセキュリティ設定をご利用可能です。詳しくは、お近くのテクニカルサポートオフィス（14-1 ページの『テクニカルサポート』を参照）にご連絡ください。

カスタムデフォルトの設定

お客様自身のカスタムデフォルトのメニューコマンドをお作りになることができます。そのためには、以下の保存したいメニューコマンドもしくはシーケンスの前に **Set Custom defaults（カスタムデフォルトの設定）**バーコードを読み取ってください。コマンドが裏表紙から数字のコードを読み取る必要がある場合は、そのあとに **Save（保存）**のコードを読み取ればシーケンス全体がカスタムデフォルトとして保存されます。次のカスタムデフォルトのためのコマンドを保存する前に **Set Custom defaults（カスタムデフォルトの設定）**コードを再度読み取ります。

保存したいカスタムデフォルトをすべて入力したあと、 **Save Custom defaults（カスタムデフォルトの保存）**バーコードを読み取ります。

Set Custom defaults
（カスタムデフォルトの設定）

Save Custom defaults
（カスタムデフォルトの保存）

*注意：Xenon 1902 コードレススキャナを **Save Defaults** バーコードを読み取ると、スキャナとベースにもリセットを実行し、非接続となってしまいます。リンクを再確立するには、セットアップコードが入力される前にスキャナをベースに置かれなければなりません。詳細については、3-1 ページの『コードレスシステム操作』を参照してください。*

複数のカスタムデフォルトがあり、そのうち１つの設定を変えたい場合は、古い設定を上書きするだけです。例えば、ブザーの音量をカスタムデフォルトでは「低」に設定しており、「高」に変更しようと思う場合、 **Set Custom defaults** バーコードを読み取り、それから **Beeper Volume High（ブザー音量　大）**バーコードを読み取った後に **Save Custom defaults** を読み取るだけです。他のカスタムデフォルトは残り、ブザー音量の設定は更新されます。

カスタムデフォルトの再設定

ご使用のスキャナでカスタムデフォルトを修復したい場合、 以下の **Activate Custom Defaults（カスタムデフォルトを起動）**バーコードを読み取ってください。これはスキャナの設定をカスタムデフォルト設定に再設定するものです。

カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時の初期設定値になります。カスタムデフォルトによって指定されていない設定はすべて工場出荷時設定になります。

Activate Custom defaults
（カスタムデフォルトを起動）

注意：コードレスシステムをご使用の場合、 ***Save Defaults*** *バーコードを読み取ると、スキャナとベースにもリセットを実行し、非接続となってしまいます。*
リンクを再構築するには、セットアップコードが入力される前にスキャナをベースに置かれなければなりません。詳細については、3-1 ページの『コードレスシステムの操作』を参照してください。

初期設定

これを選択するとスキャナの設定を消去し、元々の工場出荷時の初期設定値に再設定されます。またすべてのプラグインも消去されます。

お使いのスキャナの設定状態が判らない場合や、オプションを変更しスキャナの工場出荷時初期設定を修復したい場合は、まず、**Remove Custom defaults（カスタムデフォルトの消去）**バーコードを読み取った後、**Activate Defaults（初期設定に戻す）**バーコードを読み取ります。これでスキャナの工場出荷時設定に再設定されます。

Remove Custom defaults
（カスタムデフォルトの消去）

Activate Defaults
（初期設定に戻す）

注意：コードレスシステムをご使用の場合、 ***Save Defaults*** *バーコードを読み取ると、スキャナとベースにもリセットを実行し、非接続となってしまいます。リンクを再構築するには、セットアップコードが入力される前にスキャナをベースに置かれなければなりません。詳細については、3-1 ページの『コードレスシステムの操作』を参照してください。*

11-5 ページのメニューコマンド表には、各コマンドの初期設定値が一覧で表示（設定ページのアスタリスク（ * ）で表示）されていますので、ご確認ください。

2

インターフェースの設定

はじめに

この章では、最適なインターフェースのためのシステム設定についてご紹介します。

インターフェースの設定 - プラグ＆プレイ

プラグ＆プレイバーコードにより一般的に用いられるインターフェース向けの簡易スキャナセットアップを行うことができます。
注意：コードの 1 つを読み取った後、ホスト端末インターフェースを有効にするため、再起動する必要があります。

キーボードウェッジ

ご使用のシステムを IBM PC AT 互換機 やアメリカ向けのキーボードと互換性のあるキーボードウェッジインターフェースで設定される場合は、以下のバーコードを　　読み取ってください。キーボードウェッジは初期設定のインターフェースです。

注意：以下のバーコードを読み取ると、キャリッジリターン（CR）サフィックスも有効になります。

IBM PC AT and Compatibles with　CR suffix
（IBM PC AT と互換機、CR サフィックスつき）

ノート型 PC との直接接続

ほとんどのノート型 PC の場合、Laptop Direct Connect バーコードを用いれば、内蔵キーボードとの同時操作が可能になります。以下の Laptop Direct Connect バーコードもまたキャリッジリターン（CR）サフィックスの設定を行い、外付けキーボード (2-17 ページ)の使用を有効にします。

Laptop Direct Connect with CR suffix
（ラップトップ直接接続、CR サフィックスつき）

RS232 シリアルポート

RS232 Interface バーコード はパソコンもしくは端末のシリアルポートとの接続に用います。以下の **RS232 Interface** バーコード もキャリッジリターン（CR）やラインフィード（LF）サフィックス、ならびに以下で示されるようなボーレートやデータフォーマット設定を行います。またトリガーモードもマニュアルに変換します。

オプション	設定
ボーレート	115,200bps
データフォーマット	8 データビット、パリティビットなし、1 ストップビット

RS232C Interface
（RS232C インターフェース）

RS485

IBM POS の端末インター フェースへスキャナを接続する場合は、以下のいずれかの設定バーコードを読み取ってください。

注意：コード読み取りの後、キャッシュレジスターを再起動してください。

IBM Port 5B Interface
（IBM ポート 5B インターフェース）

IBM Port 17 Interface
（IBM ポート 17 インターフェース）

IBM Port 9B HHBCR-1 Interface
（IBM ポート 9B HHBCR-1 インターフェース）

HHBCR-2 Interface
（HHBCR-2 インターフェース）

前述の各バーコードは以下のそれぞれのシンボルへのサフィックスを設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN-8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN-13	16	Interleaved 2 of 5 (ITF)	00 0D 0B
UPC-A	0D	Code 128*	00 00A 0B
UPC-E	0A	Code 128**	00 18 0B
		Maxi Code	00 2F 0B

* サフィックスは IBM 4683 Port 5B、IBM 4683 Port 9B、HHBCR-1、ならびに IBM 4683 Port 17 インターフェース用の Code 128 に設定されています。
** サフィックスは IBM 4683 Port 9 HHBCR-2 インターフェース Code 128 用に設定されています。

RS485 パケットモード

以下を選択すると、 IBM POS 端末上で大きいバーコードデータを小さいパケットへと分割することができます。大きいバーコードデータを小さいパケットへと分割するには、以下の Packet Mode On バーコードを読み取ってください。大きいバーコードデータを 1 つのかたまりとしてホストへ送りたい場合は、 Packet Mode Off バーコードを読み取ってください。
初期設定= Packet Mode Off（パケットモード　無効）

*** Packet Mode Off**
（パケットモード　無効）

Packet Mode On
（パケットモード　有効）

RS485　パケットの長さ

パケットモード使用の際は、ホストに送られる「パケット」データのサイズを指定することができます。 **Packet Length** バーコードを読み取り、次に本書の裏表紙にあるプログラミングチャートからパケットサイズ（20～256 の間）を選び、 **Save** を読み取ります。
初期設定= 40

Packet Length
（パケットの長さ）

USB IBM SurePOS

以下の「プラグ＆プレイ」コードのうち一つを読み取り、IBM SurePos (USB ハンドヘルドスキャナ)もしくは IBM SurePos （USB 卓上スキャナ ）インターフェースの設定を行ってください。

注意：設定バーコード読み取り後、キャッシュレジスターを再起動して、インターフェースを有効にしてください。

USB IBM SurePos USB Handheld Scanner Interface
（USB IBM SurePOS USB ハンドヘルドスキャナ インターフェース）

USB IBM SurePos USB Tabletop Scanner Interface
（USB IBM SurePos USB 卓上スキャナ インターフェース）

上記の各バーコードはそれぞれのシンボルに対するサフィックスも設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN-8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN-13	16	Interleaved 2 of 5 (ITF)	00 0D 0B
UPC-A	0D	Code 128	00 18 0B
UPC-E	0A	Code 39	00 0A 0B

パソコン USB もしくはマッキントッシュのキーボード

以下のコードのうち一つを読み取り、パソコンの USB キーボードもしくはマッキントッシュの USB キーボード U の設定を行ってください。これらのコードを読み取ると、CR ならびに LF も追加されます。

USB Keyboard – PC
（USB キーボード – PC）

USB Keyboard – Mac
（USB キーボード – Mac）

USB Japanese Keyboard – PC
（USB 日本語キーボード – PC）

USB HID

以下のコードのうち一つを読み取り、USB HID バーコードスキャナのスキャナ設定を行ってください。

USB HID Bar Code Scanner
（USB HID バーコードスキャナ）

USB シリアル

以下のコードを読み取り、 標準の RS232 ベースの COM Port にエミュレートするようスキャナを設定してください。お客様が Microsoft® Windows® のパソコンをお使いの場合は当社ウェブサイト（www.honeywellaidc.com）からドライバーをダウンロードしていただく必要がございます。ドライバーは次に空いている COM ポートに接続します。Apple® マッキントッシュコンピュータの場合は、スキャナを USB CDC クラスデバイスとして認識し、自動でクラスドライバーを使用します。

USB Serial
（USB シリアルエミュレーション）

注意：その他の機器構成(ボーレートなど) は必要ありません。

CTS/RTS エミュレーション

CTS/RTS Emulation On
（CTS/RTS エミュレーション　有効）

CTS/RTS Emulation Off
CTS/RTS エミュレーション　無効）

ACK/NAK モード

ACK/NAK Mode On
（ACK/NAK モード　有効）

*** ACK/NAK Mode Off**
（ACK/NAK モード　無効）

Verifone® Ruby 端末の初期設定

Verifone Ruby 端末の場合は、以下のプラグ＆プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 1200 bps 、データフォーマットを 8 データビット、パリティビット無し、１ストップビットにします。また、ラインフィード (LF)サフィックスならびに各シンボル用に以下のようなプリフィクス設定を行います。

シンボル	プリフィクス
UPC-A	A
UPC-E	A
EAN-8	FF
EAN-13	F

Verifone Ruby Settings
（Verifone Ruby の設定）

Gilbarco® 端末の初期設定

Gilbarco 端末の場合は、以下のプラグ＆プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 2400 bps に、データフォーマットを 7 データビット、偶数パリティビット、2 ストップビットにします。また、キャリッジリターン（CR）サフィックスならびに各シンボル用に以下のようなプリフィクス設定を行います。

シンボル	プリフィクス
UPC-A	A
UPC-E	E0
EAN-8	FF
EAN-13	F

Gilbarco Settings
（Gilbarco の設定）

Honeywell ２面式カウンタースキャナの補助ポート設定

Honeywell 2 面式カウンタースキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ＆プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 38400 bps 、データフォーマットを 8 データビット、パリティビット無し、１ストップビットにします。

Honeywell Bioptic Settings
（Honeywell2 面式カウンタースキャナの設定）

Datalogic™Magellan© 2 面式カウンタースキャナの補助ポート設定

Datalogic Magellan 2 面式カウンタースキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ＆プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 9600 bps 、データフォーマットを 8 データビット、パリティビット無し、１ストップビットにします。

Datalogic Magellan Bioptic Settings
（Datalogic Magellan2 面式カウンタースキャナの設定）

NCR 2 面式カウンタースキャナの補助ポート設定

NCR 2 面式カウンタースキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ＆プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。各シンボル用に以下のようなプリフィクス設定も行います。

シンボル	プリフィクス	シンボル	プリフィクス
UPC-A	A	Code 39	B1
UPC-E	E0	Interleaved 2 of 5（ITF）	B2
EAN-8	FF	その他すべての バーコード	B3
EAN-13	F		

NCR Bioptic Setting
（NCR2 面式カウンタースキャナの設定）

Wincor Nixdorf 端末の初期設定

Wincor Nixdorf 端末の場合は、以下のプラグ＆プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを 9600 bps 、データフォーマットを 8 データビット、パリティビット無し、１ストップビットに設定します。

Wincor Nixdorf Terminal Settings
（Wincor Nixdorf 端末の設定）

Wincor Nixdorf Beetle™端末の初期設定

Wincor Nixdorf Beetle 端末の場合は、以下のプラグ＆プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。各シンボルに以下のようなプリフィクス設定も行います。

シンボル	プリフィクス	シンボル	プリフィクス
Code 128	K	EAN-13	A
Code 93	L	GS1-128	P
Codabar	N	Interleaved 2 of 5 (ITF)	I
UPC-A	A0	Plessey	O
UPC-E	C	Straight 2 of 5 IATA	H
EAN-8	B	その他	M

Wincor Nixdorf Beetle Settings
（Wincor Nixdorf Beetle の設定）

国別キーボード

以下から該当する国コードを読み取り、自国もしくは自言語用のキーボードを設定します。原則として、以下の記号をサポートしますが、米国以外の国では特別な留意が必要です。
@ | $ # { } [ ] = / ‘ \ < > ~

KBDCTY0.

*** United States**
（アメリカ）

KBDCTY88.

United States (Dvorak left)
（アメリカ　Dvorak 左）

KBDCTY30.

United States (International)
（アメリカ　インターナショナル）

KBDCTY81.

Azeri (Cyrillic)
（アゼリー　キリル文字)

KBDCTY82.

Belarus
（ベラルーシ）

KBDCTY87.

United States (Dvorak)
（アメリカ　Dvorak）

KBDCTY89.

United States (Dvorak right)
（アメリカ　Dvorak 右）

KBDCTY35.

Albania
（アルバニア）

KBDCTY80.

Azeri (Latin)
（アゼリー　ラテン)

KBDCTY1.

国別キーボード（続き 1）

KBDCTY33.

Bosnia
（ボスニア）

KBDCTY52.

Bulgaria (Cyrillic)
(ブルガリア　キリル文字)

KBDCTY54.

Canada (French legacy)
カナダ（フランス語 Legacy）

KBDCTY55.

Canada (Multilingual)
（カナダ　多言語）

KBDCTY15.

Czech
（チェコ）

KBDCTY40.

Czech (Programmers)
（チェコ　プログラマー）

Belgium
（ベルギー）

KBDCTY16.

Brazil
（ブラジル）

KBDCTY59.

Brazil（MS）
（ブラジル　MS）

KBDCTY53.

Bulgaria（Latin）
（ブルガリア　ラテン）

KBDCTY18.

Canada（French）
（カナダ　フランス語）

KBDCTY32.

Croatia
（クロアチア）

KBDCTY39.

Czech（QWERTY）
（チェコ　QWERTY）

国別キーボード（続き 2）

KBDCTY8.

Denmark
（デンマーク）

KBDCTY83.

Faeroese
（フェロー語）

KBDCTY3.

France
（フランス）

KBDCTY84.

Gaelic
（ゲール語）

KBDCTY17.

Greek
（ギリシャ）

KBDCTY38.

Czech (QWERTZ)
（チェコ　QWERTZ）

KBDCTY11.

Dutch（Netherland）
（オランダ）

KBDCTY41.

Estonia
（エストニア）

KBDCTY2.

Finland
（フィンランド）

KBDCTY4.

Germany
（ドイツ）

KBDCTY64.

Greek（220 Latin）
（ギリシャ　220 ラテン）

国別キーボード（続き 3）

KBDCTY65.

Greek (319 Latin)
（ギリシャ　319 ラテン）

KBDCTY63.

Greek (Latin)
（ギリシア　ラテン）

KBDCTY12.

Hebrew
（ヘブライ語）

KBDCTY50.

Hungarian (101 key)
（ハンガリー語　101 キー）

KBDCTY75.

Iceland
（アイスランド）

KBDCTY61.

Greek (220)
（ギリシャ　220）

KBDCTY62.

Greek (319)
（ギリシャ　319）

KBDCTY66.

Greek (MS)
（ギリシャ　MS）

KBDCTY60.

Greek (Polytonic)
（ギリシャ　Polytonic）

KBDCTY19.

Hungary
（ハンガリー）

KBDCTY73.

Irish
（アイルランド）

国別キーボード（続き 4）

KBDCTY5.

Italy
（イタリア）

KBDCTY78.

Kazakh
（カザフスタン）

KBDCTY14.

Latin America
（ラテンアメリカ）

KBDCTY43.

Latvia(QWERTY)
（ラトビア QWERTY）

KBDCTY45.

Lithuania (IBM)
（リトアニア　IBM）

KBDCTY56.

Italian (142)
（イタリア語　142）

KBDCTY28.

Japan ASCII
(日本語）

KBDCTY79.

Kyrgyz (Cyrillic)
（キルギスタン　キリル文字）

KBDCTY42.

Latvia
（ラトビア）

KBDCTY44.

Lithuania
（リトアニア）

KBDCTY34.

Macedonia
（マケドニア）

国別キーボード（続き 5）

KBDCTY74.

Malta
（マルタ）

KBDCTY86.

Mongolian (Cyrillic)
（モンゴル　キリル文字）

KBDCTY9.

Norway
（ノルウェー）

KBDCTY20.

Poland
（ポーランド）

KBDCTY57.

Polish (214)
（ポーランド語　214）

KBDCTY58.

Polish (Programmers)
（ポーランド語　プログラマー）

KBDCTY13.

Portugal
（ポルトガル語）

KBDCTY25.

Romania
（ルーマニア）

KBDCTY26.

Russia
（ロシア）

KBDCTY67.

Russia (MS)
（ロシア　MS）

国別キーボード（続き５）

KBDCTY68.

Russia （Typewriter）
（ロシア　タイプライター）

KBDCTY37.

Serbia (Cyrillic)
（セルビア　キリル文字）

KBDCTY22.

Slovakia
（スロヴァキア）

KBDCTY48.

Slovakia (QWERTZ)
（スロヴァキア　QWERTZ）

KBDCTY10.

Spain
（スペイン）

KBDCTY21.

SCS

KBDCTY36.

Serbia (Latin)
（セルビア　ラテン）

KBDCTY49.

Slovakia (QWERTY)
（スロヴァキア　QWERTY）

KBDCTY31.

Slovenia
（スロヴェニア）

KBDCTY51.

国別キーボード（続き 6）

KBDCTY23.

Sweden
（スェーデン）

KBDCTY6.

Switzerland (German)
（スイス　ドイツ語）

KBDCTY27.

Turkey F
（トルコ　F）

KBDCTY76.

Ukraine
（ウクライナ）

KBDCTY77.

Uzbek (Cyrillic)
（ウズベキスタン　キリル文字）

Spanish Variation
（スペイン語　変動）

KBDCTY29.

Switzerland (French)
（スイス　フランス語）

KBDCTY85.

Tartar
（タタール語）

KBDCTY24.

Turkey Q
（トルコ　Q）

KBDCTY7.

United Kingdom
（イギリス）

国別キーボード（続き６）

国別キーボードの全サポート情報および適用されるインターフェースについては、ハネウェルウェブサイト (www.honeywellaidc.com) をご参照ください。上記以外のキーボードを設定する必要がある場合は、下の **Program Keyboard Country（国別キーボードの設定）**バーコードを読み取った後、裏表紙にある該当国の数値バーコードを読み取り、次に **Save（保存）**バーコードを読み取ります。

Program Keyboard Country
（国別キーボード設定）

キーボードスタイル

Caps Lock や Shift Lock などのキーボードスタイルを設定します。Keyboard Conversion 設定を行った場合は、以下のキーボードスタイル設定すべてを上書きします。
初期設定 = Regular（レギュラー）

通常、 Caps Lock キーがオフの場合は、Regular を使用します。

*** Regular（レギュラー）**

通常、 Caps Lock キーがオンの場合は Caps Lock を使用します。

Caps Lock

通常、 Shift Lock キーがオンの場合は、Shift Lock を使用します。 (U.S. キーボードでは通常不使用。)

Shift Lock

Caps Lock キーのオン／オフを切り換える場合は、 Automatic Caps Lock を使用します。Caps Lock キーをオン／オフすると、ソフトが追跡反応確認して自動的に対応します。この設定を使用できるのは、 Caps Lock の状態を確認する LED があるシステム（ AT キーボード）の場合のみです。

Automatic Caps Lock
（自動 Caps Lock ）

Caps Lock の切り換えに Caps Lock キーを使用できない国（ドイツ、フランスなど）では Autocaps via NumLock のバーコードを読み取ります。 NumLock オプションは、通常の Autocaps と同じ働きをしますが、 Caps Lock の現在の状態を確認するには、 NumLock を使用します。

KBDSTY7.

Autocaps via NumLock

外付けキーボード(IBM AT または相当品)を使用していない場合は、Emulate External Keyboard を読み取ります。

KBDSTY5.

External Keyboard Emulation Mode

注意： Emulate External Keyboard のバーコードを読み取った後は、コンピュータを必ず再起動してください。

キーボードの変換

アルファベットのキーボード文字を強制的にすべて大文字またはすべて小文字にできます。例えば、「 abc569GK 」というバーコードの場合、 Convert All Characters to Upper Case バーコードを読み取ると、「 ABC569GK 」と出力させることができます。また、 Convert All Characters to Lower Case バーコードを読み取ると、「 abc569gk 」と出力します。この設定はキーボードスタイルでの設定を上書きします。

注意：お使いのインターフェースがキーボードウェッジの場合は、 自動 Caps Lock （2-16 ページ）のメニューコードをまず読み取ってください。そうでない場合はご希望と違う出力になることがあります。
初期設定 = Keyboard Conversion Off（キーボードの変換　無効）

KBDCNV0.

*** Keyboard Conversion Off**
（キーボード変換　無効）

KBDCNV1.

Convert All Characters to Upper Case
（すべてのキャラクタを大文字に変換）

KBDCNV2.

Convert All Characters to Lower Case
（すべてのキャラクタを小文字に変換）

コントロールキャラクタの出力

この機能を選択すると、コントロールキャラクタの代わりにテキスト文字列を送信します。例えば、キャリッジリターンのためのコントロールキャラクタが必要なとき、 ASCII コードの 0D の代わりに、「CR」と出力表示されます。A-4.ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。00 から 1F までが変換されます（チャートの最初の列）。
注意：Control + ASCII モードはこのモードを上書きします。
初期設定 =Off（無効）

Control Character Output On
（コントロールキャラクタ出力　有効）

***Control Character Output Off**
（コントロールキャラクタ出力　無効）

キーボード設定

ここでは、 CTRL+ ASCII コードやターボモードといった特別なキーボードの機能調節を行います。

Control + ASCII Mode On: 00～１Ｆの値について、 ASCII 制御キャラクタ用にキーを組み合わせて送信します。Windows は推薦モードで、すべてのキーボードの国別コードがサポートされています。 DOS モードはレガシーモードであり、すべてのキーボードの国別コードをサポートしているわけではありません。新規ユーザーは Windows モードをお使いください。 CTRL+ ASCII の値については、9-1 ページのキーボードファンクションの対応を参照してください。

Windows Mode Prefix/Suffix Off: 00～１Ｆの値について ASCII 制御キャラクタ用にキーを組み合わせて送信しますが、 プリフィクスならびにサフィックスの情報転送は一切行いません。

初期設定 = Control + ASCII Mode Off（Control + ASCII モード　無効）

Windows Mode Control + ASCII Mode On
（Windows モードの Control + ASCII モード 有効）

DOS Mode Control + ASCII Mode On
（DOS モードの Control + ASCII モード　有効）

***** Control + ASCII Mode Off**
（Control + ASCII モード　無効）

Windows Mode Prefix/Suffix Off
（Windows モード
プリフィクス/サフィックス　無効）

Turbo Mode:

ターミナルへのキャラクタ送信を高速化します。ターミナルでキャラクタの読み落としがある場合は使用しないでください。

初期設定 = Off（無効）

Turbo Mode On
（ターボモード　有効）

*** Turbo Mode Off**
（ターボモード　無効）

Numeric Keypad Mode:

テンキーで入力したように数字を送信します。

初期設定 = Off（無効）

Numeric Keypad Mode On
（数字キーパッドモード　有効）

*** Numeric Keypad Mode Off**
（数字キーパッドモード　無効）

Automatic Direct Connect Mode:

IBM AT 型のターミナルを使用し、システムでキャラクタの読み落としがある場合に使用できます。

初期設定 = Off（無効）

Automatic Direct Connect Mode On
（自動直接接続モード　有効）

Automatic Direct Connect Mode Off
（自動直接接続モード　無効）

RS232C　ボーレート

スキャナからターミナルに指定の速度でデータを送信します。ホストターミナルはスキャナと必ず同じボーレートに設定してください。
初期値 =115200

232BAD0.

300

232BAD2.

1200

232BAD4.

4800

232BAD6.

19200

232BAD8.

57600

232BAD1.

600

232BAD3.

2400

232BAD5.

9600

232BAD7.

38400

232BAD9.

*** 115200**

RS232 ワード長: データビット、ストップビット、パリティ

データビットはワード長をキャラクタあたり 7 または 8 データビットに設定します。アプリケーションで必要なのが ASCII Hex キャラクタの 0～７Ｆ（文字、数値、句読点）だけの場合は、7 データビットを選択してください。フルセットの ASCII キャラクタを使用するアプリケーションの場合は、キャラクタあたり 8 データビットを選択します。

初期設定 = 8

ストップビットは 1 または 2 に設定します。

初期設定 = 1

パリティはキャラクタビットパターンが適正かどうかをチェックします。

初期設定= None（なし）

7 Data, 1 Stop, Parity Even
(7 データビット、1 ストップビット、偶数パリティ)

7 Data, 1 Stop, Parity Odd
(7 データビット、1 ストップビット、奇数パリティ)

7 Data, 2 Stop Parity None
(7 データビット、2 ストップビット、パリティ無し)

8 Data, 1 Stop, Parity Even
(8 データビット、1 ストップビット、偶数パリティ)

8 Data, 1 Stop, Parity Odd
(8 データビット、1 ストップビット、奇数パリティ)

7 Data, 1 Stop, Parity None
(7 データビット、1 ストップビット、パリティ無し)

7 Data, 2 Stop, Parity Even
(7 データビット、2 ストップビット、偶数パリティ)

7 Data, 2 Stop, Parity Odd
(7 データビット、2 ストップビット、奇数パリティ)

*** 8 Data, 1 Stop, Parity None**
(8 データビット、1 ストップビット、パリティ無し)

RS232 レシーバタイムアウト

スキャナは RS232 レシーバータイムアウトが切れるまで、データを受信するために待機しています。マニュアルまたはシリアルトリガーでタイムアウトをリセットします。RS232 レシーバーがスリープ中の場合、キャラクタを送信してレシーバーを起動し、タイムアウトをリセットすることができます。CTS ライン上のトランザクションでも、レシーバーを起動します。

レシーバーが完全に起動するのには 300 ミリ秒かかります。次のバーコードを読み取って **RS232 Receiver Timeout（RS232 レシーバータイムアウト）**を変更し、本書の裏表紙内側から数字を読み取り、次に **Save（保存）**を読み取ります。設定範囲は 0～300 秒です。
初期値＝0 秒（タイムアウトなし—常時オン）

RS232 Receiver Time-Out
（RS232 レシーバータイムアウト）

RS232 ハンドシェイク

RS232 ハンドシェイクとは、ホストデバイスから送信されるソフトウェアコマンドを利用して、スキャナからのデータ送信を制御するものです。RTS/CTS を無効にすると、データのフロー制御はできません。

Flow Control, No Timeout（フロー制御、タイムアウト無し）：送信するデータがある場合、スキャナは RTS をアサートし、無期限にホストからアサートされた CTS を待ちます。

Two-Direction Flow Control（二方向 フロー制御）：スキャナはホストへの送信が可能な場合、RTS をアサートし、ホストはデバイスへの送信が可能な場合 CTS をアサートします。

Flow Control with Timeout（タイムアウトつきフロー制御）：スキャナは送信するデータがある場合、RTS をアサートし、ホストにアサートされた CTS をディレー（遅延）分（2-23 ページの RS232 タイムアウトを参照）待ちます。
もしディレータイムが過ぎても CTS がアサートされていない場合、デバイスが送るバッファは取り消され、読み取りを再開します。

初期設定 = RTS/CTS Off（RTS/CTS　無効）

Flow Control, No Timeout
（フロー制御、タイムアウト無し）

Flow Control with Timeout
（タイムアウトつきフロー制御）

Two-Direction Flow Control
（二方向フロー制御）

*** RTS/CTS Off**
（RTS/CTS　無効）

RS232C タイムアウト

タイムアウトつきのフロー制御を用いる場合は、ホストからの CTS 待機時間の長さを設定しなければなりません。以下のバーコードを読み取り、タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定し、裏表紙にある数字を読み取ってタイムアウト（1～5100 ミリ秒）を設定し、 **Save（保存）**を読み取ってください。

RS232 Timeout
（RS232 タイムアウト）

XON/XOFF

スキャナへデータ送信(XON/XOFF On)や送信中止(XON/XOFF Off)を行わせる際には標準 ASCII コントロールキャラクタが用いられます。ホストデバイスが XOFF キャラクタ(DC3, hex 13)をスキャナに送信することで送信を一時中断します。送信を再開するには、ホストから XON キャラクタ(DC1, hex 11)を送信します。データ送信は XOFF 送信によって停止されたところから続行されます。
初期設定＝XON/XOFF Off（XON/XOFF　無効）

XON/XOFF On
（XON/XOFF　有効）

*** XON/XOFF Off**
（XON/XOFF　無効）

ACK/NAK

データ送信の後、スキャナはホストからの ACK キャラクタ(hex 06) もしくは NAK キャラクタ(hex 15)レスポンスを待ちます。 ACK を受け取ると、交信は完成し、スキャナはさらなるバーコードを探します。 NAK を受け取ると、最後のバーコードが送信され、スキャナは ACK や NAK を再度待ち受けます。

ACK/NAK プロトコルを有効にする場合は、以下の **ACK/NAK On （ACK/NAK　有効）**バーコードを読み取ってください。 ACK/NAK プロトコルをオフにする場合**は ACK/NAK Off（ACK/NAK　無効）**を読み取ります。
初期設定 = ACK/NAK Off（ACK/NAK　無効）

ACK/NAK On
（ACK/NAK　有効）

ACK/NAK Off
（ACK/NAK　無効）

スキャナから 2 面式カウンタースキャナへの通信

以下の設定はハネウェル社製スキャナと 2 面式カウンタースキャナとの通信の接続に用います。

注意 : 2 面式カウンタースキャナとの通信には、ボーレートを 38400 に、RS232 タイムアウトを 3000 に設定しなければなりません。詳しくは、2-20 ページの RS232 ボーレートならびに 2-23 ページの RS232 タイムアウトをご参照ください。

2 面式カウンタースキャナパケットモード

Packet Mode On（パケットモード　有効）は 2 面式カウンタースキャナとの互換性のために、スキャナのフォーマットを設定するときに読み取ります。
初期設定 = Packet Mode Off（パケットモード　無効）

232PKT0.

***　Packet Mode Off**
（パケットモード　無効）

232PKT2.

Packet Mode On
（パケットモード　有効）

2 面式カウンター式スキャナ　ACK/NAK モード

各パケットが送信された後、スキャナが 2 面式カウンタースキャナからの ACK もしくは NAK を待つ場合には Bioptic ACK/NAK On　（Bioptic ACK/NAK　有効） を読み取ります。下記の 2 面式カウンタースキャナ ACK/NAK タイムアウトはスキャナがレスポンスに対しどの程度待つかを制御するものです。
初期設定 = Bioptic ACK/NAK Off（2 面式スキャナ　ACK/NAK　無効）

232NAK0.

Bioptic ACK/NAK Off
（2 面式カウンタースキャナ ACK/NAK　無効）

232NAK1.

Bioptic ACK/NAK On
（2 面式カウンタースキャナ ACK/NAK 有効）

2 面式カウンタースキャナ ACK/NAK タイムアウト

2 面式カウンタースキャナからの ACK/NAK レスポンスに対するタイムアウト時間（ミリ秒単位）を設定するものです。以下のバーコードを読み取り、裏表紙内側から数字を読み取り、タイムアウト時間（1～ 30,000 ミリ秒）を設定した後、**Save（保存）**を読み取ります。
初期設定 = 5100

ACK/NAK Timeout
（ACK/NAK タイムアウト）

3

コードレスシステムの操作

注意：本章はコードレススキャナのみを対象としています。コードつきスキャナには適用できませんので、ご注意ください。

コードレスチャージベースの仕組

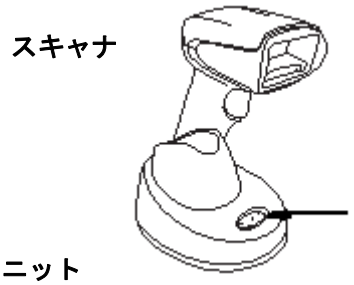
コードレスチャージベースはコードレススキャナとホストシステム間の通信を行います。ベースはインタフェースアセンブリと無線周波（RF）モジュールから成ります。RF モジュールは、コードレススキャナとインターフェースアセンブリ間のデータ交換を行います。制御アセンブリは中枢インターフェースの動作を調整します。それには、ホストシステムとの間で行われるコマンドやデータの送受信、ソフトウェアの実行（パラメータのメニュー化、視覚インジケーターのサポート、パワーオン診断）、ホストシステムのために必要なデータ変換を含みます。

コードレスチャージベースはスキャナの充電器でもあります。詳しくは3-5 ページの「充電について」をご覧ください。

スキャナのチャージベースへの接続

ベースを接続する前に電源をオフにし、ベースが完全に接続された時点でホストデバイスを起動してください。ベースが接続され、ホストデバイスが起動してからスキャナをベースに差しこみ、通信します。ベースの緑色の LED が点滅すると、スキャナのバッテリーが充電中であることを示します。

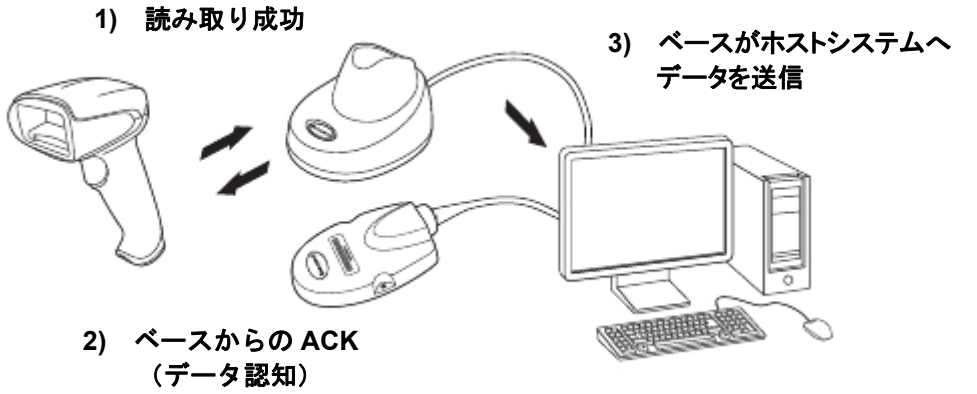
スキャナとベースが以前に通信していた場合は、反応はありません。スキャナとベースが今回初めて通信接続された場合、双方の無線が通信した時点でスキャナとベースの両方から音が鳴ります。これでこの一台のスキャナが一台のベースに接続されたことになります。



コードレスシステムが正しく設定されているか判断するには、本書の終わりにあるサンプルバーコードの 1 つを読み取ってみてください。スキャナから読み取り有効を示すピーッという音が一回発せられ、緑の LED が点灯した場合、スキャナとベースの連結が成功しています。エラーブザーが鳴り、赤い LED が点灯した場合、スキャナはベースに接続されていません。問題解決に関する情報は13-5 ページのトラブルシューティングの項目を参照してください。

コードレスシステムとホストデバイス間の通信

バーコードが正しく読み取られてベースがデータの受信を認知すると、コードレススキャナは「読み取り成功」を視覚的かつ聴覚的（スキャナ上部の緑色 LED が点灯し、とピーッという音が鳴る）に表示します。コードレスシステムはスキャナとベースの間で双方向通信するため、このようなことが可能になります。
データが読み取られると、データはベースを介してホストシステムへ送られます。コードレススキャナはベースからのデータの認知（ACK）を認識します。データがベースへ正しく送信されたか否か判定できない場合は、スキャナはエラーを表示します。その際には、スキャンされたデータがホストシステムによって受信されたかをチェックしなければなりません。



RF (無線周波) モジュールの操作

コードレスシステムは二方向 Bluetooth® 無線を利用して、スキャナおよびベース間におけるデータの送受信を行ないます。1 対 1 および複数対 1 ポイントのアプリケーション用に設計されております。ライセンス不要な ISM 帯域を使用することで、周波数が無作為に変化する無線信号に、比較的小さいデータパケットを載せて高速なデータレートで送信しています。それ故に、当コードレスシステムを多様なデータ収集アプリケーションに対応でき、かつノイズの多い無線周波環境に対して強い耐性のある製品にしています。
Bluetooth クラス 2 の出力レベルでは、環境によりますが、スキャナとベースとの間の距離が 10m（33 フィート）まで通信可能です。この範囲のコントロールについては 3-16 ページのフレキシブル出力管理の項目をご覧ください。

システム条件

あるスキャナをベースに連動させたり、スキャナを通信可能範囲外へ持ち出したり、更に中へ再び持ち込んだり、2 つのコードレスシステムの間でスキャナを交換したりする際、コードレスシステムの構成部分は、特定の相互作用を起こします。下記はコードレスシステムの動作条件について説明したものです。

通信プロセス

スキャナがコードレスチャージベースに差し込まれると、スキャナのバッテリー残量がチェックされ、ソフトウェアは自動的にスキャナを検知します。選択された接続モードに合わせてスキャナをベースに接続します。

スキャナが通信可能範囲外にあるとき

コードレススキャナはバーコードデータを送信していないときも、ベースと通信しています。スキャナが数秒にわたってベースと通信できないときは、スキャナが通信可能範囲外にあることになります。
スキャナが通信可能範囲外にあるときにバーコードを読み取ると、スキャナはエラーブザーを発してベースと通信していないことを示します。コードレスチャージベースもアラーム音を発することがあります。3-13 ページの通信可能範囲外アラームの項目をご参照ください。

スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき

スキャナまたはベースがリセットされたか、スキャナが通信可能範囲内に戻ったとき、スキャナは再度通信を開始します。スキャナが通信を再度確立する際、通信再確立プロセス（パラメータテーブルのアップロード）が完了すると、音が一回鳴ります。詳しくは3-13 ページの通信可能範囲外アラームの項目をご参照ください。

バッチモード有効時での通信可能範囲への出入り

スキャナは通信可能範囲外において数多くのシンボル（UPC シンボル約 500 個、他はばらつきあり）を保存し、通信可能範囲内に戻った時点でベースへ送信することができます（3-17 ページのバッチモードの項参照）。このモードでは、通信エラーブザーは聞こえませんが、無線通信が機能していない場合、トリガーを引いたときに短いブザー音が聞こえます。無線接続がされてデータがベースに送信されている間、スキャナは一連のピーッという音を発します。

ページ（呼出し）ボタン

ベースのページボタンを押すと、そのベースに接続しているスキャナがピーッという音（3 回短く、1 回長く）を鳴らし始めます。呼び出しに応じて鳴っているスキャナのトリガーを引くか、ベースのページボタンをもう一回押すと、接続しているすべてのスキャナが鳴り止みます。ページボタンの設定に関する詳細は、3-9 ページのページング（呼出し）の項をご覧ください。

バッテリーについて

警告：バッテリー交換を誤ると、爆発するおそれがあります。ハネウェルが推奨するバッテリーのみに交換してください。使用済みバッテリーは、それを廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法に従って処分してください。

コードレススキャナの電源は、スキャナハンドル内に組み込まれた充電式バッテリーから供給されます。出荷時には、約 30%から 60%程度バッテリーを充電してありますが、充電容量最大限まで完全に充電することを推奨致します。最初に使用する際、最適な性能を確保する為に最低 4 時間の充電を行なってください。

充電について

バッテリーは、スキャナがコードレスチャージベースに差し込まれている間に充電される設計になっています。充電状態を現すインジケーターの解釈については、3-6 ページのベースの LED シーケンスに関する項目をご覧ください。
スキャナをベースに接続することなく充電する必要がある場合は、3-11 ページの充電限定モードの項目をご覧ください。または、無線通信機能の無い充電専用チャージベースをお使いください。

適切な電源がベースに接続されていることを確認し、スキャナをベースに差し込んでください。定格出力 5～5.2Vdc、 1A の Limited Power Source (LPS) かクラス 2 タイプの電源のみをご使用ください。

注意：外部電源をチャージベースの補助ポートに差し込まず、インターフェースケーブル（例えばUSB ケーブル）を介してホストデバイスからベースへ電力を供給する場合、充電に使える電力が減ってしまいますので、充電時間がより長くなります。

バッテリーについての推奨事項

- バッテリーはリチウムイオン電池で、完全に充電せずに使えますし、耐用寿命に悪影響を及ぼすことなく、放電しきってからでなくても充電できます。
  この種のバッテリーについては、充電/放電コンディショニングをする必要がありません。
- ホストデバイスを使用していないときは、ベースを電源に接続しておいてください。
- 欠陥のあるバッテリーは、スキャナ破損の原因になりますので、直ちに交換してください。
- バッテリーは何回も充電できますが、最終的には消耗してしまいます。十分な充電量を維持できなくなったときにはバッテリーを交換してください。
- 電池や充電器が正常に機能しているか判らないときには、ハネウェルか正規サービスセンターへ送って点検してください。詳細は 14-1 ページのカスタマーサポートの項をご覧ください。

警告：当装置には部品番号 100000495、定格 3.7 Vdc、 7.4Whr のハネウェル社製リチウムイオン電池パックのみをご使用ください。ハネウェル推奨のバッテリー以外を使用された場合、保証対象に含まれない破損が生じる恐れがあります。

リチウム電池の安全に関する注意事項

- バッテリーを燃やしたり、加熱したりしないこと。
- 火気・高温の場所を避けて保管すること。
- 金属製品とともにバッテリーを保管したり、所持したりしないこと。
- 水気を避け、バッテリーを濡らさないようにすること。
- 金属製品を使ってバッテリーの陽極と陰極を接続（ショート）しないこと。
- バッテリーに穴を開けたり、たたいたり、踏んだり、強い衝撃を与えたりしないこと。
- バッテリーを解体・改造しないこと。

警告：バッテリー交換を誤った場合、爆発の恐れあり。使用済みのバッテリーは廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法にしたがって処分してください。

バッテリーの適切な処分

バッテリーが耐用年数の終わりに達したときは、資格を持つリサイクル業者ないし危険物取扱業者によって処分してください。バッテリーを一般廃棄物と共に焼却したり、処分したりしないでください。スキャナのバッテリーを弊社に御返却いただくことも可能です。

使用済みバッテリーの梱包、表示、明細書作成、輸送に関するすべての国・連邦・州・自治体法規の遵守は輸送業者の責任です。

リサイクル・処分に関しては、製品サービス部門（14-1 ページ）にお問い合わせください。バッテリーをご返送いただく費用が高額な場合、地元のリサイクル処理業者にて処分された方が経費を抑えられる場合もありますので、まずは御問い合わせください。

ブザー・LED のシーケンスと意味

スキャナ上部には LED が組み込まれており、通電・通信・電池残量を表示します。簡単に言うと、赤色 LED＝エラー、緑色 LED=あらゆる種類の正常な完了を意味します。本体の音声によるインジケーターにも意味があります。エラーブザー１回＝エラー、２回ピーッ＝メニュー変更、１回ピーッ＝それ以外のすべての正常な完了です。
下記の表にスキャナの LED 点灯・ブザーによる表示のしかたとその原因をまとめてあります。

スキャナの LED シーケンスと意味

LED 表示	ブザー表示	原因
正常な操作		
赤点灯	なし	バッテリー残量少
緑点灯	１回ピーッと鳴る	通信またはリンクに成功
赤点滅	エラーブザー	通信失敗
メニュー操作		
緑点灯	２回ピーッと鳴る	メニュー変更成功
赤点滅	エラーブザー	メニュー変更失敗

ベースユニットの LED シーケンスと意味

ベースについている赤色 LED が本体の状態を表し、ホストシステムとの通信状態を確認することができます。また、緑色 LED はスキャナのバッテリー充電状況を表します。

赤色もしくは青色 LED：ホストとの通信	
LED の状態	**通信の状態**
オフ	USB 保留
継続してオン	電源オン、システムアイドル
複数回にわたり短く点滅。無線モジュールまたはホストポートとの間のデータ通信中点滅	データ受信
緑色 LED：スキャナのバッテリー (ベースのみ)	
LED の状態	**通信の状態**
オフ	バッテリーが検出されないか、充電が中止されたとき
ゆっくり点滅（1 秒点灯、1 秒消灯）	充電前と充電中
継続して点灯	充電完了
速く点滅（300 ミリ秒点灯、300 ミリ秒消灯）	充電エラー

ベースのパワーインジケーター

ベースのパワーインジケータを表示するには、**Base Power Communication Indicator On（ベースパワー通信インジケーター　有効）**バーコードを読み取ってください。パワーインジケータを無効にするには、**Off** バーコードを読み取ってください。
初期設定 = On（有効）

*** Base Power Communication Indicator ON**
（ベースパワー通信インジケーター　有効）

Base Power Communication Indicator OFF
（ベースパワー通信インジケーター　無効）

スキャナのリセット

下のバーコードを読み取ることによって、スキャナは再起動され、ベースと再接続します。

Reset Scanner
（スキャナのリセット）

スキャナをベースに置いた状態での読み取り

スキャナをベースに置いた状態でバーコードを読み取ることができるようにしたい場合は、下記の **Scanning in Cradle On（ベースに置いた状態で読み取り　許可）**バーコードを読み取ってください。

スキャナがベースに置かれていない状態でのみ読み取りを行うようにしたい場合は、**Scanning in Cradle Off（ベースに置いた状態での読み取り　禁止）**を読み取ってください。

スキャナをベースに置いてシャットダウンしたい場合は、**Shut Down Scanner In Cradle（ベースにおいてスキャナをシャットダウン）**を読み取ってください。

初期設定 = Scanning in Cradle On（ベースに置いた状態での読み取り　許可）

Scanning in Cradle Off
（ベースに置いた状態での読み取り　禁止）

*** Scanning in Cradle On**
（ベースに置いた状態での読み取り　許可）

Shut Down Scanner in Cradle
（ベースに置いてスキャナをシャットダウン）

ページング（スキャナの呼び出し）

ページングモード（スキャナの呼び出し）

初期設定では、ベースのページングボタンを押すと、そのベースと通信を確立しているスキャナを呼び出します。ベースのページングボタンを無効にしたい場合は、下記の **Paging Mode Off （ページングモード　無効）**バーコードを読み取ってください。ページングモードが無効のときは、ボタンを押してもベースはスキャナを呼び出さなくなります。ベースの赤色 LED は点灯したままになり、ページングモードが無効であることを示します（LED はボタンを押すと消え、ボタンが解除されると再度点灯します）。
初期設定 = Paging Mode On（ページングモード　有効）

Paging Mode On
（ページングモード　有効）

Paging Mode Off
（ページングモード　無効）

ページング（呼び出し）音の音程

ベースのページングボタンを押すと、そのベースと通信しているスキャナがピーッと鳴り始めます（3-3 ページのページボタンの項参照）。下記のバーコードの１つを読み取ることによってスキャナのページング音の高さを設定することができます。
初期設定 = Low（低　1000Hz）

*** Low: 1000Hz**
（低　1000Hz）

Medium: 3250Hz
（中　3250Hz）

High: 4200Hz
（高　4200Hz）

エラーインジケーター

ブザー音の音程：ベースのエラー発生時

注意：この機能はアクセスポイントではお使いいただけません。

ホストシステムへの通信上の問題などエラーが発生した際に特定のピッチでピーッと鳴るようにベースを設定することができます。
以下のバーコードによって、エラー発生時にベースが発するエラーブザー音の音程を変更できます。
初期設定 = Low（低）

*** RAZZ: 250Hz**
（低：250Hz）

Medium: 3250Hz
（中：3250Hz）

High: 4200Hz
（高：4200HZ）

ブザー音の回数：ベースのエラー発生時

注意：この機能はアクセスポイントではお使いいただけません。

エラー発生時にベースから発せられるブザー音や LED の点滅回数を 1~9 回まで設定することができます。例えば、このオプションをエラーブザー音 5 回と設定すると、エラーに反応してエラーブザーが 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。
エラーブザーの回数を変更するには、下記のバーコードを読み取ったのち、本書の裏表紙にあるプログラミングチャートから数値（1~9）バーコードを読み取り、次に **Save（保存）**バーコードを読み取ります。
初期設定 = 1

Number of Base Error Beeps/LED Flashes
（ベース：エラー発生時のブザー回数および LED 点滅回数）

スキャナレポート

下記のバーコードを読み取ることで、接続されたスキャナについてのレポートを生成することができます。レポートには、ポート、ワークグループ、スキャナ名、アドレスが表示されます。スキャナに名前を割り当てるには 11-1 ページのメニューコマンドシンタックスを参照してください。

Scanner Report
（スキャナレポート）

スキャナのアドレス

下記のバーコードを読み取ることによって、ご使用のスキャナのアドレスを決定することができます。

Scanner Address
（スキャナのアドレス）

ベースのアドレス

下記のバーコードを読み取ることによって、ご使用のベースのアドレスを決定することができます。

Base Address
（ベースアドレス）

スキャナモード

Xenon はスキャナ 1 台または複数台のモードや、CCB01-010BT チャージベース以外の Bluetooth 対応機器とあわせて機能することができます。

充電限定モード

スキャナを充電したいけれど、ベースと通信させたくない場合があるかもしれません。例えば、スキャナが他の Bluetooth 対応機器と通信しており、スキャナを充電する必要があるものの、その既存の通信を維持したい場合などです。

ベースを充電限定モードに設定するには、そのベースにスキャナを 1 台接続しなければなりません。ベースにスキャナを接続したら、**Charge Only Mode（充電限定モード）**バーコードを読み取ってください。その後、そのベースに差し込まれるスキャナはベースと通信せずに充電できます。設定のために使用したスキャナは、ベースに接続したままとなります。そのスキャナとの通信を切断するには、3-13 ページの **Unlink Scanner（スキャナとの通信解除）**を読み取ってください。

:*:BASLNK0.

Charge Only Mode
（充電限定モード）

注意：充電限定モード時、スキャナは定期的に起動し、ピーッとブザーを鳴らします。この設定を変更するには、4-1 ページの起動ブザーを参照してください。

スキャナを充電し、ベースと通信を接続したい場合は、 **Charge and Link Mode（充電および通信モード）**を使用してください。ベースが充電限定モードに設定されている場合、充電および通信モードに設定しなおすためには、まずスキャナ 1 台をそのベースと接続しなければなりません。ベースのバーコードを読み取って、スキャナを接続してから **Charge and Link Mode** を読み取ります。
初期設定 = Charge and Link Mode（充電および通信モード）

:*:BASLNK1.

*** Charge and Link Mode**
（充電および通信モード）

通信モード

Locked Link Mode（通信固定モード）と **Open Link Mode（通信オープンモード）**は、各々異なるアプリケーションに対応するモードです。これらモードを切り換えるには、下記の説明にある該当バーコードを読み取ってください。
初期設定 = Open Link Mode（通信オープンモード）

通信固定モード：スキャナ 1 台の場合

通信固定モードを使うと、スキャナをベース 1 台と通信させている時に誤って他のスキャナをそのベースと通信を確立しないように阻止できます。他のスキャナをベースに差し込んだ場合、スキャナは充電されますが、通信はできません。

Locked Link Mode: Single Scanner
（通信固定モード：シングルスキャナ）

異なるスキャナを使用する場合は、**Unlink Scanner （スキャナとの通信解除）**のバーコードを読み取って元のスキャナとの通信を切断します（詳細は、3-12 ページのスキャナモードの項を参照してください。）

通信オープンモード

納品されたばかりのときや初期設定に戻された場合、スキャナはベースと接続していません。スキャナをベースに差し込むと通信が確立されます。通信オープンモードの場合、新しいスキャナをベースに差し込むと新しい通信を確立します。

スキャナを 1 台ベースに差し込むたびにそのスキャナはベースに接続し、以前に接続していたスキャナとの通信は解除されます。

*** Open Link Mode: Single Scanner**
（通信オープンモード：シングルスキャナ）

スキャナとの通信解除

ベースとスキャナが通信している場合、まずスキャナの通信を解除しなければ次の新しいスキャナと接続することができません。元のスキャナとの通信解除を行うと、ベースは通信を切断します。ベースとスキャナの通信を解除するには、下記の **Unlink Scanner（スキャナとの解除）**バーコードを読み取ってください。

Unlink Scanner
（スキャナとの解除）

通信の上書き

ベースと通信しているスキャナが破損したか、もしくは紛失して交換する必要がある場合、新しいスキャナで下記の **Override Locked Scanner（通信固定されたスキャナの上書き）** バーコードを読み取り、そのスキャナをベースに差し込んでください。
これで通信状態が上書きされます。破損した、もしくは紛失したスキャナとベースとの通信は解除され、新たなスキャナと接続を開始します。

Override Locked Scanner: Single Scanner
（通信固定されたスキャナの上書き：シングルスキャナ）

通信範囲外アラーム

ベースの通信可能範囲外にスキャナがあるとき、ベースとスキャナの両方からアラーム音が鳴ります。そのスキャナがベースに近づくか、ベースが別のスキャナと接続するか、もしくはアラーム音継続の設定時間が経過すると、アラームは止まります。スキャナまたはベースのアラームを有効にし、アラームが鳴る時間を設定するには下記の該当するバーコードを読み取り、その後、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数値を読み取り、タイムアウト時間（0～3000 秒の間）を設定し、**Save（保存）**を読み取ります。

初期設定＝0 秒（アラームなし）

Base Alarm Duration
（ベースアラームの鳴動時間）

Scanner Alarm Duration
（スキャナアラームの鳴動時間）

注意：バーコード読み取り時に通信範囲外にいる場合、アラームを設定していなくても、エラーブザーが鳴ります。
ベースへデータを送信することができない場合でも、同じくエラーブザーが鳴るようになっています。

アラーム音の種類

下記から該当するバーコードを読み取り、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数値（0～7）のバーコードと **Save（保存）**を読み取ることで、スキャナやベースのアラーム音の種類を変更することができます。
初期設定 = 0

アラーム音の種類：

設定	音
0	3 回長くピーッという音、音程 – 中
1	3 回長くピーッという音、音程 - 高
2	4 回短くピーッという音、音程 - 中
3	4 回短くピーッという音、音程 - 高
4	1 回鳥のさえずりのような音、音程 - 中
5	鳥のさえずりのような音が 2 回 + 1 回、音程 - 中
6	1 回鳥のさえずりのような音、音程 - 高
7	鳥のさえずりのような音が 2 回 + 1 回、音程 - 高

Base Alarm Type
（ベースアラームの種類）

Scanner Alarm Type
（スキャナアラームの種類）

スキャナパワータイムアウトタイマー

注意：スキャナパワータイムアウトタイマーは、コードレスシステムのみに適用されます。有線スキャナには適用できませんので、ご注意ください。

指定時間内に動作しない場合、スキャナは低パワーモードに入ります。適切なスキャナパワータイムアウトバーコードを読み取って、タイムアウトの長さを秒単位で変更してください。

注意：タイムアウトの長さを「0」にすると、タイムアウトがない状態になります。

タイムアウト時間内にスキャナのトリガーを引かなかった場合、スキャナはパワーダウンモードに入ります。トリガーが有効・無効に関わらず、タイマーはリセットされます。スキャナがベースユニットに置かれていて、かつバッテリーが充電中の場合は、パワーダウンモードにはなりません。
初期設定=3,600 秒

0 Seconds
（0 秒）

400 Seconds
（400 秒）

*** 3600 Seconds**
（3600 秒）

200 Seconds
（200 秒）

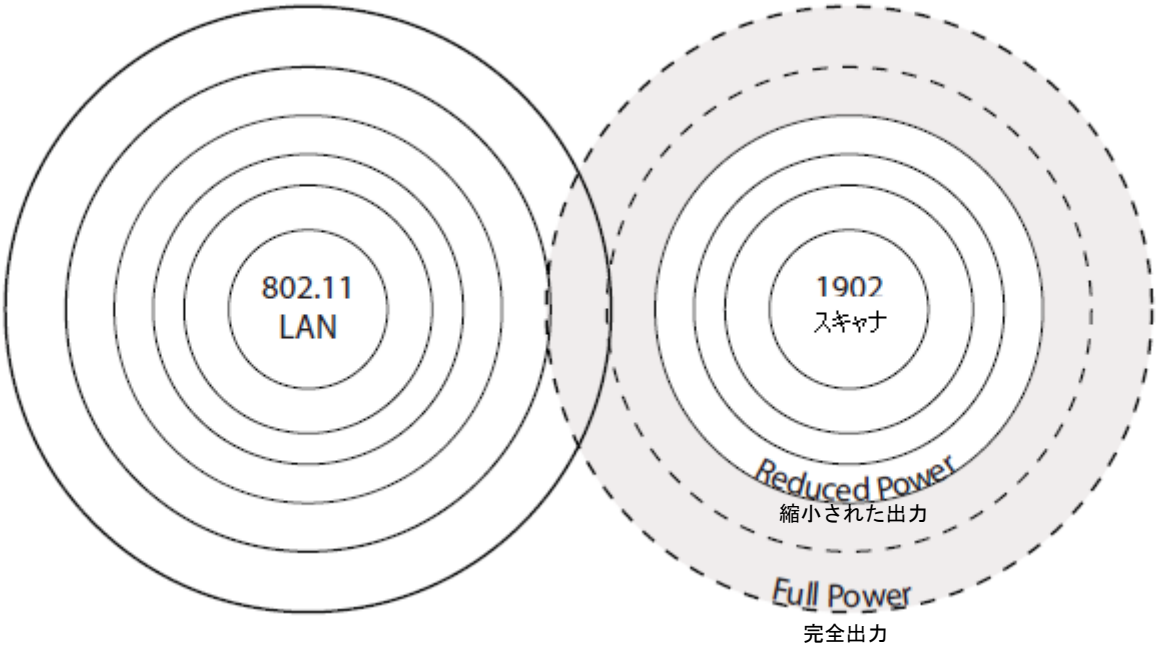
900 Seconds
（900 秒）

7200 Seconds
（7200 秒）

注意：スキャナがパワーダウンモードに入っている時にトリガーを引くと、パワーが戻ります。起動ブザーが鳴り、無線通信に入るまで数秒の遅れが発生します。その後、スキャナを使用できます。

出力管理

ネットワーク性能に問題があり、スキャナが他の装置と混線していると思われる場合は、スキャナの出力を下げることができます。これにより、下記の図に示されるとおり、スキャナとベース間の通信可能範囲が縮小されます。



下記のバーコードの１つを読み込むことで、以下のいずれかの出力を選択して設定することができます。

- 完全出力　（100%）　[2.5mW、 4dBm]
- 出力 – 中　（35%）　[0.875mW、0dBm]
- 出力 – 中低　（5%）　[0.125mW、 -9dBm]
- 出力 – 低　（1%）　[0.025mW、-16dBm]

初期設定 = Full Power（フルパワー）

新しい設定を有効にするためには、スキャナとベースをリセットしなければなりません。3-17 ページのスキャナとベースのリセットを参照してください。

BT_TXP100.

*** Full Power**
（フルパワー）

BT_TXP35.

Medium Power
（出力 – 中）

BT_TXP5.

Medium Lower Power
（出力 - 中低）

BT_TXP1.

Low Power
（出力 - 低）

スキャナとベースのリセット

出力レベルを設定したら、 **Reset Base（ベースのリセット）**バーコードを読み取ってください。スキャナがベースとの通信を解除し、再接続するのを待たなければなりません。それが終わりましたら、次に **Reset Scanner（スキャナのリセット）**バーコードを読み取ってください。今度はベースがスキャナとの通信を解除し、再接続するのを待ってください。

Reset Base
（ベースのリセット）

Reset Scanner
（スキャナのリセット）

バッチモード

バッチモードは、スキャナがベースの通信範囲外にあるとき、または棚卸をするときのバーコードデータ保存に使用します。スキャナが通信範囲内に戻ったとき、あるいは記録が手作業で送信されたとき、データはベースへ送信されます。

注意：1 台のベースに対して複数のスキャナを使用する際、バッチモードには限界があります。マルチリンクモードを使用すれば、最多 7 台のスキャナを 1 台のベースに接続することが可能です。ただし、スキャナが通信範囲エリアを常に出入りしている場合、蓄積された、もしくはバッチ処理された読み取りデータが失われる可能性があります。

Automatic Batch Mode （自動バッチモード）はスキャナがベースの通信範囲外にあるとき、バーコードデータを保存します。スキャナが通信範囲内に戻ると、データはベースへ自動的に送信されます。スキャナのバッファスペースが満杯になると、バーコード読み取り時にエラーブザーを鳴らします。バーコードを再度読み取るには、スキャナをベースの通信範囲内に戻り、データが送信できるようにしなければなりません。

Inventory Batch Mode （棚卸バッチモード）ではベースの通信範囲内に居る・居ないに関わらず、バーコードデータを保存します。保存されたデータをベースへ送信するには、スキャナをベースに差し込むか、3-23 ページの **Transmit Inventory Records（棚卸レコードを送信）**を読み取ります。スキャナのバッファスペースが満杯になると、バーコード読み取り時にエラーブザーを鳴らします。バーコードを再度読み取るには、データをベースへ送信しなければなりません。

初期設定 = Batch Mode Off（バッチモード　無効）

*** Batch Mode Off**
（バッチモード　無効）

Automatic Batch Mode
（自動バッチモード）

Inventory Batch Mode
（棚卸バッチモード）

バッチモード：ブザー音

バッチモード使用時に **Batch Mode Beep On（バッチモードブザー　有効）**を読み取ると、各バーコードを読み、そして保存するたびにスキャナがカチッと鳴るように設定できます。
初期設定 = Batch Mode Beep On（バッチモードブザー　有効）

Batch Mode Beep Off
（バッチモードブザー　無効）

*** Batch Mode Beep On**
（バッチモードブザー　有効）

バッチモード：保存形式

バッチモードにおいて、スキャナがデータを保存する際、フラッシュメモリに保存するか RAM に保存するかを選択できます。

フラッシュ保存：
スキャナが低出力になる前に、まだ送信していないデータをすべてフラッシュメモリに書き込みます。スキャナが再起動した際もデータはまだ残っています。しかし、スキャナのパワーダウンタイムアウトに達した場合やバッテリー残量が非常に少なくなると、未送信のデータがあってもスキャナは低出力になります。

RAM 保存：
未送信データがスキャナに入っているとき、スキャナはパワーダウンタイムアウトに達しても低出力になりません。しかし、バッテリー切れになった場合は、スキャナは低出力になり、データは失われます。

初期設定 = Flash Storage（フラッシュメモリに保存）

*** Flash Storage**
（フラッシュメモリに保存）

RAM Storage
（RAM 保存中）

バッチモード：個数

バッチモードにおいて、同一のバーコードを何個も送信するのではなく、バーコードの個数を送信したいことがあるかもしれません。例えば、**Batch Mode Quantity Off（バッチモードの個数　無効）**の状態で XYZ という 3 つのバーコードを読み取ったとすると、そのデータを送信したときには、 XYZ が 3 個表示されます。
Batch Mode Quantity On（バッチモードの個数　有効）と 3-20 ページの **Quantity Codes（個数コード）**を使えば代わりに「XYZ, 00003」と出力することができます。

注意：出力した内容をフォーマットしたい場合、例えばバーコードデータと数量の間に CR や Tab を挿入したいときは、6-1 ページのデータフォーマットの項を参照してください。

初期設定 = Batch Mode Quantity Off（バッチモードの個数　無効）

*** Batch Mode Quantity Off**
（バッチモードの個数　無効）

Batch Mode Quantity On
（バッチモードの個数　有効）

個数の入力

3-20 ページの **Quantity Codes （個数コード）**を用いれば、最後に読み取ったバーコードについて、9999 までの個数（初期設定 = 1）を入力できます。個数の数字は右から左へ移動しますので、5 桁目の数字が読み込まれると既に読み込んだ 1 桁目の数字がなくなり、2・3・4 桁目の数字が左へずれて、新たな 1 桁を迎え入れます。
例えば、個数が 1234 に設定されたあとで、 **Quantity 5** バーコードを読み取ると、1 が脱落し、個数は 2345 になります。

例：最後に読み取ったアイテムに 5 という個数を付与する場合

1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。
2. **Quantity 5** のバーコードを読み取ってください。

例：最後に読み取ったアイテムに 1500 という個数を付与する場合

1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。
2. **Quantity 1** のバーコードを読み取ります。
3. **Quantity 5** のバーコードを読み取ります。
4. **Quantity 0** のバーコードを読み取ります。
5. **Quantity 0** のバーコードを読み取ります。

例：個数を 103 から 10 に変更する場合

間違った個数を訂正するには、**Quantity 0** のバーコードを読み取り、間違った数字を置き換えます。その後、正しい数量コードを読み取ります。

1. **Quantity 0** バーコードを読み取って個数を 1030 に変更します。
2. **Quantity 0** バーコードを読み取って個数を 0300 に変更します。
3. **Quantity 1** バーコードを読み取って個数を 3001 に変更します。
4. **Quantity 0** バーコードを読み取って個数を 0010 に変更します。

初期設定 = 1

個数コード

BATNUM0.

0

BATNUM2.

2

BATNUM4.

4

BATNUM6.

6

BATNUM8.

8

BATNUM1.

1

BATNUM3.

3

BATNUM5.

5

BATNUM7.

7

BATNUM9.

9

バッチモード : 出力順序

バッチモードでデータを送信する際には、データを FIFO（先入れ先出し）で送信するか、LIFO（後入れ先出し）で送信するかを選択してください。

Batch Mode FIFO
（バッチモード　先入れ先出し）

Batch Mode LIFO
（バッチモード　後入れ先出し）

レコードの合計件数

バッチモードの間に読み取ったバーコードの数量を出力したい場合は、**Total Records (レコードの合計件数)**を読み取ってください。

（レコードの合計件数）

最後のコードを削除

バッチモードにおいて、最後に読み取ったバーコードを削除したい場合は **Delete Last Code（最後のコードを削除）**を読み取ってください。

Delete Last Code
（最後のコードを削除）

すべてのコードを削除

スキャナのバッファからバッチモードで蓄積されたすべてのデータを消去したい場合は、 **Clear All Codes（すべてのコードを削除）**を読み取ってください。

Clear All Codes
（すべてのコードを削除）

保存したデータをホストシステムへ送信

Inventory Batch Mode (棚卸バッチモード、3-17 ページの棚卸バッチモードの項参照）において、保存されたすべてのデータをホストシステムへ送信するには、下記のバーコードを読み取ってください。

Transmit Inventory Codes
（棚卸の記録を送信）

バッチモード：送信ディレー（間隔）

蓄積されたスキャンデータをホストシステムへ送信する際、送信が速すぎてアプリケーションが処理しきれないことがあります。蓄積されたスキャンデータ間にディレー（間隔）を設定するには、下記のディレーのいずれかを読み取ってください。
初期設定 = Off（無効）

注意：ほとんどの場合、ディレーは短い（250 ミリ秒）ことが理想です。しかし、より長いディレーを設定することもできます。詳細については、テクニカルサポート（14-3 ページ）にご連絡ください。

*** Batch Mode Transmit Delay Off**
（バッチモードの送信ディレー　無効）

Batch Mode Transmit Delay - Medium
（バッチモードの送信ディレー　中）

Batch Mode Transmit Delay - Short
（バッチモードの送信ディレー　短）

Batch Mode Transmit Delay – Long
（バッチモードの送信ディレー　長）

複数スキャナでの操作

注意：**Multiple Scanner Operation Mode（複数スキャナ操作モード）**では、1 台のベースにスキャナを最多 7 台まで接続することができます。その 7 台のスキャナのうち、1 台の通信を解除するか、通信可能範囲の外へ持ち出さなければ、8 番目のスキャナを追加することはできません。

スキャナを複数スキャナ操作モードに追加するには、以下のバーコードを読み取ってください。このバーコードを読み取ると、スキャナはベースとの通信から解除されるため、再度接続するには、そのスキャナをベースに差し込まなければなりません。

Multiple Scanner Operation Mode
（複数スキャナ操作モード）

スキャナ名

御使用の各スキャナを識別できるように、それぞれに名前をつけることができます。例えば、ベースから送信された画像コマンドを受信するスキャナに独自の識別名称をつけたいときなどです。

Xenon の初期設定名は「Xenon」です。ベースに複数のスキャナが接続されており、それらすべての同一の初期設定名が付いている場合、ベースに最初に接続されたスキャナがコマンドを受信します。同一の初期設定名がついている一連のスキャナを命名し直す際は、1 台を残してすべてのスキャナをベースとの通信から解除してください。

命名し直しの操作は　バーコードを読み取るか、シリアルコマンド「Xenon:BT_NAMname」を送信します。この中の name 部分にはスキャナの新名称を書きます。他のスキャナの名称も変更したい場合は、1 台ずつ接続し、各スキャナに「Xenon:BT_NAMname」というコマンドを繰り返します。

スキャナに順序だった番号で命名し直すには、下記のバーコードを読み取ってください。名称を変更するたびに、**Reset（リセット）**コードを読み取り、スキャナがベースと再度接続するまで待ってから、次のスキャナを命名し直すためのバーコードを読み取ってください。

BT_NAM0001.

0001

BT_NAM0002.

0002

BT_NAM0003.

0003

BT_NAM0004.

0004

BT_NAM0005.

0005

BT_NAM0006.

0006

BT_NAM0007.

0007

RESET_.

Reset
（リセット）

下記の **Scanner Name（スキャナ名）**バーコードを読み取り、その後スキャナ名として数字を読み取ることも可能です。例えば、通信済のスキャナを「312」と命名したい場合、下記のバーコードを読み取り、本書の裏表紙にあるプログラミングチャートから 3、1、2 のバーコードを読み取り、 **Save（保存）**を読み取ってください。
Reset バーコードを読み取り、スキャナがベースに再度接続されるまで待ってください。

Scanner Name
（スキャナ名）

アプリケーションワークグループ

御使用のコードレスシステムでは、１台のベースに対し最多７台までスキャナを接続することができます。また、最高７つまでワークグループを設定できます。すべてのスキャナを同一の設定にしたい場合は、複数のワークグループを使用する必要はありません。一方、各スキャナに独特な設定（ブザー音量、プリフィクス/サフィックス、データフォーマッターなど）を施したい場合は、各スキャナが独自のワークグループを持つように設定し、各スキャナを独立させることができます。

例えば、小売/倉庫のアプリケーションでは、倉庫と小売店舗内でそれぞれ異なったデータをバーコードに付して使用したいことがあるかもしれません。その場合、小売店舗内のスキャナをすべて１つのワークグループに割り当て、倉庫内のスキャナをすべてもう１つのワークグループに割り当てることが可能です。これにより、小売店舗内であれ倉庫であれ、変更点は該当するワークグループ内のスキャナすべてに適用されます。ハネウェルの設定ツール、 EZConfig（10-4 ページ）では、複数のスキャナ、複数のワークグループへの設定変更が容易にできるようになっています。

スキャナは、自らが使用しているメニュー設定を保存しています。スキャナがベースに接続または再接続するたびにベースからスキャナにそのワークグループの最新設定が送信され、そして更新されます。
また、スキャナはベースによって処理されたメニュー設定変更も受信します。スキャナがベースから外されて別のベースに差し込まれたりすると、そのスキャナに元々割り当てられていたワークグループの新しい設定で更新されます。

例えば、最初にベースと接続した際はワークグループ１だったスキャナは、２台目のベースでもワークグループ１となり、関連の設定が付与されます。

アプリケーションワークグループセレクション

ここでは、下記のバーコードを読み取ることによってスキャナを特定のワークグループに割り当てることができます。その後、ご使用のアプリケーションが必要とする設定（ブザー音量、プリフィクス/サフィックス、データフォーマッターなど）を設定することができます。
初期設定 = Group 0（グループ　0）

*** Group 0**
（グループ　0）

Group 1
（グループ　1）

Group 2
（グループ　2）

Group 3
（グループ　3）

Group 4
（グループ　4）

Group 5
（グループ　5）

Group 6
（グループ　6）

初期設定へのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ

下記のバーコードを読み取ると、すべてのワークグループを工場出荷時設定に戻します。

Factory Default Settings: All Work Groups
（すべてのワークグループを工場出荷時設定にリセット）

工場出荷時設定の詳細については、11-5 ページからのメニューコマンドの表を参照してください。標準製品の各コマンド初期設定は「*」で示されています。

注意：このバーコードを読み取ると、スキャナとベースの設定がリセットされ、通信が解除されます。通信を再確立するためには、スキャナをベースに差し込まなければなりません。詳細は、3-11 ページのスキャナモードを参照してください。

ご使用のスキャナが複数スキャナ操作モードになっている場合は、すべてのスキャナがベースに再接続されて、設定が変更されるまで、30 秒間ブザー音が鳴り続けます。

カスタムデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ

すべてのワークグループをカスタムデフォルト設定に戻したい場合は、下記の **Custom Product Default Settings（カスタムデフォルト設定）**バーコードを読み取ってください。カスタムデフォルトがない場合は、初期設定へリセットされます。カスタムデフォルトについての詳細は、1-7 ページのカスタムデフォルトの設定を参照してください。

Custom Default Settings: All Work Groups
（カスタムデフォルト設定：すべてのワークグループ）

注意：*このバーコードを読み取ると、スキャナとベースの設定がリセットされ、通信が解除されます。通信を再確立するためには、スキャナをベースに差し込まなければなりません。詳細は、3-11 ページのスキャナモードを参照してください。*

ご使用のスキャナが複数スキャナ操作モードになっている場合は、すべてのスキャナがベースに再接続されて、設定が変更されるまで、30 秒間ブザー音が鳴り続けます。

Bluetooth 対応機器との併用

スキャナは CCB01-010BT チャージベースや他の Bluetooth 対応機器とも併せて使用することが可能です。他の Bluetooth 対応機器には、PC、ノート型 PC、PDA/ハンディターミナルなどを含みます。

Bluetooth HID キーボード接続

お使いのスキャナは、iPad やスマートフォン、ノート型 PC など Bluetooth 対応機器 と接続することが可能です。キーボードによるデータ入力と同じように、読み取ったデータが画面に表示されます。Bluetooth 機器と通信を確立するには、以下の手順に沿ってください。

1. **Bluetooth HID Keyboard Connect** （Bluetooth HID キーボード接続）を読み取ります。

Bluetooth HID Keyboard Connect
（Bluetooth HID キーボード接続）

2. Bluetooth 対応 ホストデバイスを立ち上げて、他の Bluetooth 機器を検索します（ホストデバイスのユーザーズガイドを参照してください）。
3. ホストデバイスがスキャナを検知したら、スキャナ名を選択してください。ホストデバイスは PIN 番号をランダムに表示します。下記の **Bluetooth PIN Code**（Bluetooth PIN コード）を素早く読み取って、後続ページの番号バーコードを読み取ってください。最後に **Save** (保存)を読み取ります。

Bluetooth PIN Code
（Bluetooth PIN コード）

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

Save
（保存）

Bluetooth HID キーボード通信切断

お使いのスキャナが、**Bluetooth HID Keyboard Connect**（3-28 ページ参照）によって iPad やスマートフォン、ノート型 PC のようなホストデバイスに直接接続されている場合、ベースユニットに再接続する為に Bluetooth 接続を一旦切断する必要があります。
Bluetooth HID Keyboard Disconnect（Bluetooth HID キーボード 通信切断）を読み取って、ホストデバイスとスキャナ間の通信を切断してください。ベースユニット上の接続バーコードを読み取って、スキャナを再接続してください。

PAPSPP.

Bluetooth HID Keyboard Disconnect
（Bluetooth HID キーボード 通信切断）

Bluetooth シリアルポート：デスクトップ型 PC/ノート型 PC

下記の **Non-Base BT Connection（ベースなし BT 接続）**バーコードを読み取ると、スキャナを他の Bluetooth 対応機器（PC/ノート型 PC など）と併せて使用できるようになります。この設定を有効にすると、スキャナは RS232C インターフェースのスキャナと同様の動作を行い、読み取ったデータを出力する為に PC 上の Com ポートを開く必要があります。

下記のバーコードを読み取った後、ご使用の Bluetooth 対応機器添付の取扱説明書に従い、スキャナを認識し、接続してください。
スキャナを持って通信可能範囲の外に出ると、通信可能範囲内に戻ってきたとしても Bluetooth 対応機器に接続しませんので、ご注意ください。チャージベースに再接続したい場合は、3-13 ページの「ロックされたスキャナの上書きの項」を参照してください。

注意：スキャナをチャージベース以外の Bluetooth 対応機器と併せて使用している場合、複数のワークグループのオプションは使用できません。

BT_TRM0;BT_DNG5.

Non-Base BT Connection
（ベースなし BT 接続）

PDA/ハンディターミナル

スキャナを PDA やハネウェルのハンディターミナルと併せて使用することもできます。下記のバーコードを読み取り、ご使用の Bluetooth 対応機器に添付されていた取扱説明に従って、スキャナを認識し、接続してください。

BT Connection - PDA/Mobility Systems Device
（PDA/ハンディターミナル用 BT 接続）

スキャナの Bluetooth 暗証コード変更

一部の機器には、Bluetooth セキュリティ機能の一環として、暗証コードが必要です。スキャナの初期設定の暗証記号は 1234 で、ご使用の PDA または PC に初めて接続する際、入力が必要かもしれません。 暗証コードは 1～16 文字の間でなければなりません。暗証コードを変更するには、下記のバーコードを読み取り、その後本書の裏表紙にあるプログラミングチャートから該当の数値バーコードを読み取ります。 **Save（保存）**を読み取って選定した内容を保存してください。

Bluetooth PIN
（ Bluetooth 暗証コード）

Bluetooth/ISM 帯域ネットワーク干渉の最小化

この設定は、コードレスエリアイメージングシステムの再接続時の動作をカスタマイズし、利便性を確保しながら、干渉を低く抑えるための最適な妥協点を見出すのに役立ちます。

注意： ISM 帯域とは、無線ネットワーク、コードレス電話、 Bluetooth が使用する 2.4 GHz から 2.48 GHz の周波数帯域を指します。

自動再接続モード

自動再接続は、接続が中断されたことが検出されたときに、スキャナが自動的に再接続のプロセスを開始するか否かを制御するものです。**Auto Reconnect On（自動再接続　有効）**のバーコードを読み取ると、スキャナはユーザーの介入なしにただちに再接続のプロセスを開始します。
初期設定 = Auto Reconnect On（自動再接続　有効）

*** Auto Reconnect On**
（自動再接続　有効）

Auto Reconnect Off
（自動再接続　無効）

*注意：Bluetooth のインターフェースモジュールに接続している場合には、**Auto Reconnect Off** に設定してください。*

下の表は、 **Auto Reconnect** が有効 および無効設定時の結果です。

事象	Auto Reconnect On （自動再接続　有効）	Auto Reconnect Off （自動再接続　無効）
スキャナが通信範囲外にあるとき	自動的に再接続されます。再接続を最高限度回数まで試行しても成功しない場合は、トリガーを引くか、スキャナをベースに差し込むか、接続バーコードを読み取るかのいずれかによってスキャナの再接続を行ってください。 (3-33 ページの再接続試行最高限度回数を参照)	スキャナはトリガーを引くか、接続バーコードを読み取ることによって再度接続されます。
（ファームウェアのアップグレードもしくは電源再起動により）ベースがリセットされたとき	スキャナは通信範囲外にあるかのように動作します。	ベースがオフの間は、再接続を試行しません。再接続を始めるためには、トリガーを引いてください。
スキャナのパワータイムアウトタイマーの設定によりスキャナの電源がオフのとき（4-8 ページ参照）	再接続を行うには、トリガーを引くか、接続バーコードを読み込むか、スキャナをベースに差し込むかのいずれかを行います。 *（注意：スキャナは起動時に再接続しますが、起動するには上記の操作いずれかを行なう必要があります。）*	
ファームウェアのアップグレードによりスキャナがリセットされたとき	自動的に再接続します。	
バッテリー交換により、スキャナがリセットされたとき	自動的に再接続します。	
スキャナが別のベースユニットに差し込まれたとき	自動的に新しいベースと接続します。	

再接続試行最高限度回数

再接続試行最高限度回数は、スキャナがベースとの接続を試みる回数を制御します。接続セットアッププロセスの間、スキャナはベースを捜し、接続すべく発信を行います。発信をし続けることによって、ISM 帯域の他のユーザーに影響するのを避けるため、この設定によって接続試行回数が制限されています。再接続試行最高限度回数に達すると、スキャナはベースへの再接続を断念します。トリガーを引くか、接続バーコードを読み込むか、スキャナをベースに差し込むかのいずれかを行うことで試行回数がリセットされ、スキャナは再度接続を試みるようになります。

Maximum Link Attempts（再接続試行最高回数）バーコードを読み取り、その後裏表紙の内側から設定試行回数（0～100）を読み取ってください。 **Save（保存）**を読み取って、設定を保存します。
初期設定＝0

Maximum Link Attempts
（再接続試行最高回数）

注意：自動再接続モードが有効のとき、再接続試行最高限度回数を 0 に設定すると、スキャナはパワータイムアウトタイマー設定（3-15 ページ参照）時間が経過するまで、通信を試みます。自動再接続モードが無効のとき、再接続試行最高限度回数を 0 に設定すると、スキャナはトリガーが引かれたあと 1 回だけ再接続を試みます。

再接続タイムアウト

再接続タイムアウトは、再接続試行中のアイドリング時間を制御します。ベースとの接続を再試行するには、一般に最高 5 秒ほどかかります。これはスキャナが実際にコンタクトしようと試みている時間です。再接続タイムアウトは 1 回接続を試み終わってから次に試み始めるまでの経過時間を秒単位で制御します。

注意：試行時の所要時間は、1 台のベースユニットに接続されているスキャナの台数によって異なります。接続に成功したときには、さらに 7 秒かかることもあります。

Relink Time-Out（再接続タイムアウト）バーコードを読み取り、その後裏表紙の内側から設定秒数（0～100）を読み取ってください。 **Save（保存）**を読み取って、設定を保存します。
初期設定＝3 秒

Relink Timeout
（再接続タイムアウト）

Bluetooth / ISM ネットワークアクティビティの例

初期設定

スキャナが通信範囲外に出ると、ベースユニットへの接続を何回も試みます。1 回の試行には、アクティブタイム約 5 秒と、アイドリングタイム約 3 秒がかかります。 1 時間経つとスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

再接続試行最高限度回数 15、他の値は初期設定値の場合：

スキャナが通信範囲外に出ると、ベースユニットへの接続を 15 回試みます。 1 回の試行には、アクティブタイム約 5 秒と、アイドリングタイム約 3 秒がかかります。15 サイクル（ 8 x 15 =120 ）すなわち、約 2 分後に、スキャナはベースユニットへの接続試行を止めますが、バッチモードで保存されたであろうバーコードは保存されています。 1 時間後にスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

自動再接続モードを 0 に設定、再接続試行最高限度回数を 15 に設定、その他の値は初期設定値の場合：

スキャナが通信範囲外に出ても、再接続を一切試みません。トリガーを引くと、ベースユニットへのリンクを 15 回試みます。毎回の試行につきアクティブタイム約 5 秒と、アイドリングタイム約 3 秒がかかります。15 サイクル（ 8 x 15 =120 ）すなわち約 2 分後に、スキャナはベースユニットへの接続試行を止めますが、バッチモードで保存されたであろうバーコードは保存されています。1 時間後にスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

他にどのような事象によって再接続プロセスが始まるか、3-32 ページの自動再接続モードを参照してください。

自動再接続モードを 1 に、再接続試行最高限度回数を 0 に、再接続タイムアウトを 10 に、スキャナパワータイムアウトを 1800 に設定した場合：

注意：シリアルコマンドを使用してスキャナを起動している場合、この項目を利用してトリガーのタイムアウト（ミリ秒単位）を設定してください。スキャナがタイムアウトになると、トリガーを引くか、シリアルコマンドを送信することによってスキャナを起動させることができます。読み取りタイムアウトのバーコードを読み取った後、本書裏面のプログラミングチャートの数字を読み取り、タイムアウトの長さを決定します。そして、最後に ***Save (保存)*** *を読み取ります。*
初期設定 = 30,000ms（30,000 ミリ秒、4-8 ページを参照）

スキャナは 1 回の試行開始から次回の試行開始まで、15 秒の間隔でベースユニットへの接続を試みます。30 分経過すると、スキャナの電源がオフになります。

ホストコマンドの認知

一部のアプリケーションでは、送信されてきたバーコードをホストターミナル（ないしサーバー）が承認するか、または却下することを要求し、この処理をユーザーに知らせるよう要求します。これらのアプリケーションは、スキャナから発信されるリスポンスインジケーターをホストが制御し続けることを要求します。ホスト ACK を有効にすることによってスキャナはホストシステムからのコマンドに反応する状態になります。

注意：ホスト ACK を 9600 未満のボーレートで使用すると、システム性能が落ちますので、ご注意ください。

ホスト ACK を正常に作動させる為には、下記の条件を満たす必要があります。

- コードレスシステムがホストのポート RS232 (ターミナル ID = 000) もしくは USB COM エミュレーション（ターミナル ID＝130）に設定してください。
- RTS/CTS の初期設定は無効です。ホストシステムが RTS/CTS を必要としている場合は、有効にしなければなりません。
- ホスト ACK を有効にしてください(3-36 ページ参照)。
- ホストターミナルのソフトウェアには、バーコードデータを解釈し、かつデータの内容によって決定を下す能力が必要とされます。スキャナへ適切なエスケープコマンドを送信する能力が必要です。

エスケープコマンドは「アプリケーションワークグループ」を介してスキャナへ送信されます。コマンドが送信されると、そのグループ内のスキャナすべてがコマンドに反応します。そのため、***各スキャナにホスト ACK モードで自分専用のグループを割り当てることを推奨します。***

スキャナが反応するコマンドは 3-36 ページに列挙されています。 **<ESC> は** Hex 値での **1B** です。典型的なコマンドストリングは **y <ESC> x** で、「 y 」はアプリケーションワークグループ番号、「 <ESC> x 」はエスケープコマンド、コンマは終止符で必要です。

コマンドをつなげて、カスタマイズされたリスポンスシーケンスを作成することもできます。以下はコマンドストリングの一例です。

0<ESC>4<ESC>5<ESC>6,

上記の例では、アプリケーションワークグループがゼロのスキャナが、始めは小さい音でピーッと、その後中位の音でピーッと、さらにその後大きな音でピーッと鳴ります。

ホスト ACK が有効なとき、システムは次のように機能します。

- スキャナはバーコードを読み、ホストシステムに送信すべく、ベースユニットにデータを送ります。スキャナがエスケープコマンドを受信するまで音や視覚によるインジケーターは発せられません。読み取りに成功すると、スキャナの読み取り用ライトが消えます。
- 以下のいずれかになるまで、スキャナの操作は中止されます。
  1) ベースユニットを介して、ホストシステムからの有効なエスケープ・ストリングを受信する。
  2) スキャナがタイムアウトになる。
- 上記の 1) ないし 2) の条件が満たされると、スキャナは再び読み取り準備が整い、プロセスが繰り返されます。

スキャナが 10 秒以内に有効なエスケープコマンドを受信しなければ、タイムアウトが起きます。タイムアウトはエラーブザーで示されます。タイムアウトになった場合、ユーザーはホストシステムをチェックしてスキャナへの応答がなぜ受信されなかったのかを確認してください。

ホスト ACK

Host ACK On
（ホスト ACK　有効）

*** Host ACK Off**
（ホスト ACK　無効）

ホスト ACK のレスポンス

コマンド	動作
<ESC> a	2 回ピーッと鳴り、設定変更に成功したことを示します。
<ESC> b	エラーブザーが鳴り、設定変更が成功しなかったことを示します。
<ESC> 1	緑の LED が 135 秒間点灯し、その後に小休止します。
<ESC> 2	緑の LED が 2 秒間点灯し、その後小休止します。
<ESC> 3	緑の LED が 5 秒間点灯し、その後小休止します。
<ESC> 4	小さい音で 1 回ピーッと鳴ります。
<ESC> 5	中位の音で 1 回ピーッと鳴ります。
<ESC> 6	大きい音で 1 回ピーッと鳴ります。
<ESC> 7	連続音で、デコードとホストへの通信が成功したことを示します。
<ESC> 8	ホストへのデコードまたは通信が失敗したことを表すエラーブザーが鳴ります。

4

入力・出力設定

起動ブザー

スキャナは、電源が入るとブザーが鳴るようになっています。コードレスシステムをご使用の場合は、電源を入れるとベースが鳴るようになっています。起動ブザーをお使いにならない場合は、**Off** バーコードを読み取ってください。

初期設定= Power Up Beeper On – Scanner（スキャナ、起動ブザー有効）

Power Up Beeper Off - Scanner
（スキャナ、起動ブザー無効）

Power Up Beeper Off - Cordless Base
（コードレスベース、起動ブザー無効）

*** Power Up Beeper On - Scanner**
（スキャナ、起動ブザー有効）

Power Up Beeper On - Cordless Base
（コードレスベース、起動ブザー有効）

ホストからのコマンドに対してブザーを鳴らしたい場合は、 下の **Beep on BEL On （BEL ブザー　有効）**バーコードを読み取ってください。スキャナがホストから BEL キャラクタを受信するたびにブザーが鳴ります。

初期設定= Beep on BEL Off（BEL ブザー　無効）

***Beep on BEL Off**
（BEL ブザー　無効）

Beep on BEL On
（BEL ブザー　有効）

トリガークリック音

トリガーを引くたびにクリック音が聞こえるようにしたい場合は、下の **Trigger Click On（トリガークリック音 有効）**バーコードを読み取ってください。クリック音が聞こえないようにするには、 **Trigger Click Off（トリガークリック音　無効）**コードを読み取ります。（シリアルトリガーモードもしくは自動読み取りモードには影響しません。）
初期設定= Trigger Click Off（トリガークリック音　無効）

***Trigger Click Off**
（トリガークリック音　無効）

Trigger Click On
（トリガークリック音　有効）

読み取り成功インジケーター

ブザー：読み取り成功時

読み取りに成功した場合のブザーを **On** または **Off** に設定できます。この設定を無効にすると、読み取り成功時のインジケーターの中でもブザーだけを無効にします。エラー発生時や設定変更時のブザーはすべて鳴動します。
初期設定＝Beeper -Good Read On（読み取り成功のブザー　有効）

Beeper - Good Read Off
（読み取り成功のブザー　無効）

*** Beeper - Good Read On**
（読み取り成功のブザー　有効）

ブザーの音量：読み取り成功時

読み取り成功時にスキャナが鳴らすブザーの音量を変更します。
初期設定 = High（大）

Low
（小）

Medium
（中）

*** High**
（大）

Off
（なし）

ブザーの音程：読み取り成功時

読み取り成功時にスキャナが鳴らすブザー音の音程（周波数）を変更します。
初期設定 = Medium（中）

Low – 1600Hz
（低　1600Hz）

*** Medium – 2700Hz**
（中　2700Hz）

High – 4200Hz
（高　4200Hz）

ブザーの音程：読み取り失敗時およびエラー発生時

読み取り失敗時やエラー発生時にスキャナが鳴らすブザーの音程（周波数）を変更します。
初期設定= Razz（低）

*** Razz – 250Hz**
（低　250Hz）

Medium – 3250Hz
（中　3250Hz）

High – 4200Hz
（高　4200Hz）

ブザーの長さ：読み取り成功時

読み取り成功時にスキャナが鳴らすブザー音の長さを変更します。
初期設定= Normal（通常）

*** Normal Beep**
（通常）

Short Beep
（短）

LED：読み取り成功時

読み取り成功時に点灯する LED を **On** または **Off** に設定できます。
初期設定 = On（有効）

*** LED – Good Read On**
（読み取り成功時の LED　有効）

LED – Good Read Off
（読み取り成功時の LED　無効）

ブザーの回数：読み取り成功時

読み取り成功時のブザー回数を 1～9 に設定できます。読み取り成功時のブザー回数を設定すると、その回数が読み取り成功時のブザーと LED の回数として適用されます。

例えば、この設定をブザー5 回に設定すると、読み取り成功に反応してブザーが 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。ブザーと LED の点滅は互いに同期しています。

ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数字（1～9）バーコードと **Save（保存）** バーコードを読み取ってください。
初期設定＝1

Number of Good Read Beeps/LED Flashes
（読み取り成功時のブザーと LED 回数）

ブザーの回数：読み取り失敗時およびエラー発生時

読み取り失敗時およびエラー発生時にスキャナが鳴らすブザーや LED の点滅回数を 1～9 のうちで設定できます。

例えば、この設定をブザー5 回に設定すると、エラーに反応してブザーが 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。

ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数字（1～9）バーコードと **Save（保存）** バーコードを読み取ってください。
初期設定＝1

Number of Error Beeps/LED Flashes
（エラー発生時のブザーと LED 回数）

読み取り成功ディレー

読み取り成功後、次のバーコードを読み取るまでの最短時間を設定します。
初期設定 = 0 ミリ秒 (ディレーなし)

*** No Delay**
（ディレーなし）

Medium Delay (1,000 ms)
（中位のディレー　1000 ミリ秒）

Short Delay (500 ms)
（短いディレー　500 ミリ秒）

Long Delay (1,500 ms)
（長いディレー　1500 ミリ秒）

ユーザー定義の読み取り成功ディレー

読み取り成功ディレーに独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、裏表紙の内側から数字を読み取ってディレー（0～ 30,000 ミリ秒）を設定し、最後に **Save（保存）**を読み取ります。

User-Specified Good Read Delay
（ユーザー定義の読み取り成功ディレー）

マニュアルトリガーモード

マニュアルトリガーモードの場合、バーコードが読み取られるまで、もしくはトリガーを放すまで読み取りを行います。これには **Normal（標準）**と **Enhanced（強化）**の二つのモードから選択できます。

ノーマルモードでは、高速で広い読取範囲（読取深度）で読み取ります。

強化モードでは、最速の読み取りを行いますが、ノーマルモードより読取範囲が少し狭くなります。強化モードは広い読取範囲を必要とせず、高速処理を行いたいときに適しています。

初期設定 = Manual Trigger Mode – Normal（マニュアルトリガーモード　標準）

*** Manual Trigger – Normal**
（マニュアルトリガー　標準）

Manual Trigger – Enhanced
（マニュアルトリガー　強化）

LED 照明：マニュアルトリガーモード

LED 照明の明るさを調節したい場合は、下記のいずれかのバーコードを読み取ってください。トリガーを引いた時のスキャナの LED 照明を設定することができます。
初期設定 = High（高）

注意：LED はカメラのフラッシュのようなものです。部屋の照明が暗い場合、スキャナがバーコードを確認できるよう LED 照明もより明るくなければなりません。

Off
（無効）

*** High**
（高）

Low
（低）

シリアルトリガーモード

トリガーを引くか、シリアルトリガーコマンドを用いることで、スキャナを動作させることができます。 (11-4 ページのトリガーコマンド を参照) 。シリアルトリガーモードでは、バーコードを読み取るか、停止コマンドが送信されるまで読み取り動作を継続します。指定時間が過ぎた後に自動的にオフになるようにスキャナを設定することもできます（後続のリードタイムアウトを参照）。

読み取りタイムアウト

スキャナをシリアルコマンドで動作させる場合、この設定でトリガーのタイムアウト（ミリ秒単位）を設定します。スキャナが一旦タイムアウトになった後は、トリガーを引くかシリアルトリガーコマンドを用いて動作させることができます。 **Read Time-Out（読み取りタイムアウト）**のバーコードを読み取り、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数字を読み取って、タイムアウト時間（0～ 300,000 ミリ秒）を設定し、次に **Save（保存）**を読み取ります。
初期値＝ 30,000ms (ミリ秒)

Read Time-Out
（読み取りタイムアウト）

プレゼンテーションモード

プレゼンテーションモードでは、 周囲の照明を使ってバーコードを検知します。プレゼンテーションモードで動作するように設定すると、LED はバーコードがスキャナに提示されるまで消灯されており、バーコードが提示されると、自動的に点灯して読み取ります。室内の照明が暗いと正常に機能しないことがありますので、ご注意ください。

注意：プレゼンテーションモードでコードレスチャージベースユニットをご使用の場合、ベースユニットの補助電源ポートに電源がつながれるまでは、バッテリーは充電を行いません。

Presentation Mode
（プレゼンテーションモード）

LED 照明：プレゼンテーションモード

LED 照明の明るさを調節したい場合は、下記のいずれかのバーコードを読み取ってください。プレゼンテーションモード時のスキャナの LED 照明を設定することができます。
スキャナのトリガーを引くと、LED 照明の設定はマニュアルトリガーモード時の設定になってしまいます。マニュアルトリガーモード時の LED 照明設定については、4-7 ページをご覧ください。
初期設定 = High（高）

注意：LED はカメラのフラッシュのようなものです。部屋の照明が暗い場合、スキャナがバーコードを確認できるよう LED 照明もより明るくなければなりません。

Off
（無効）

Low
（低）

*** High**
（高）

注意：プレゼンテーションモードの LED 照明設定は、ストリーミングプレゼンテーションモードや携帯端末読み取りモードには適用されません。

デコード後のプレゼンテーション LED の動作

スキャナがプレゼンテーションモードにあるとき、バーコードをデコードした後の短い間、LED は点灯したまま読み取りを続けます。バーコードをデコードした後、直ちに LED を消灯したい場合は、次の **LEDs Off** バーコードを読み取ってください。
初期設定= LEDs On（LED　有効）

*** LEDs On**
（LED　有効）

LEDs Off
（LED　無効）

プレゼンテーション感度

プレゼンテーション感度とは、提示されたバーコードに対するスキャナの反応時間を増減させる数値範囲です。感度を設定するには、 **Sensitivity（感度）**バーコードを読み取り、裏表紙の内側から感度（0～20）を読み取り、次に **Save（保存）**を読み取ります。最も感度の高い設定が 0 で、最も低い設定は 20 です。
初期設定＝1

Sensitivity
（感度）

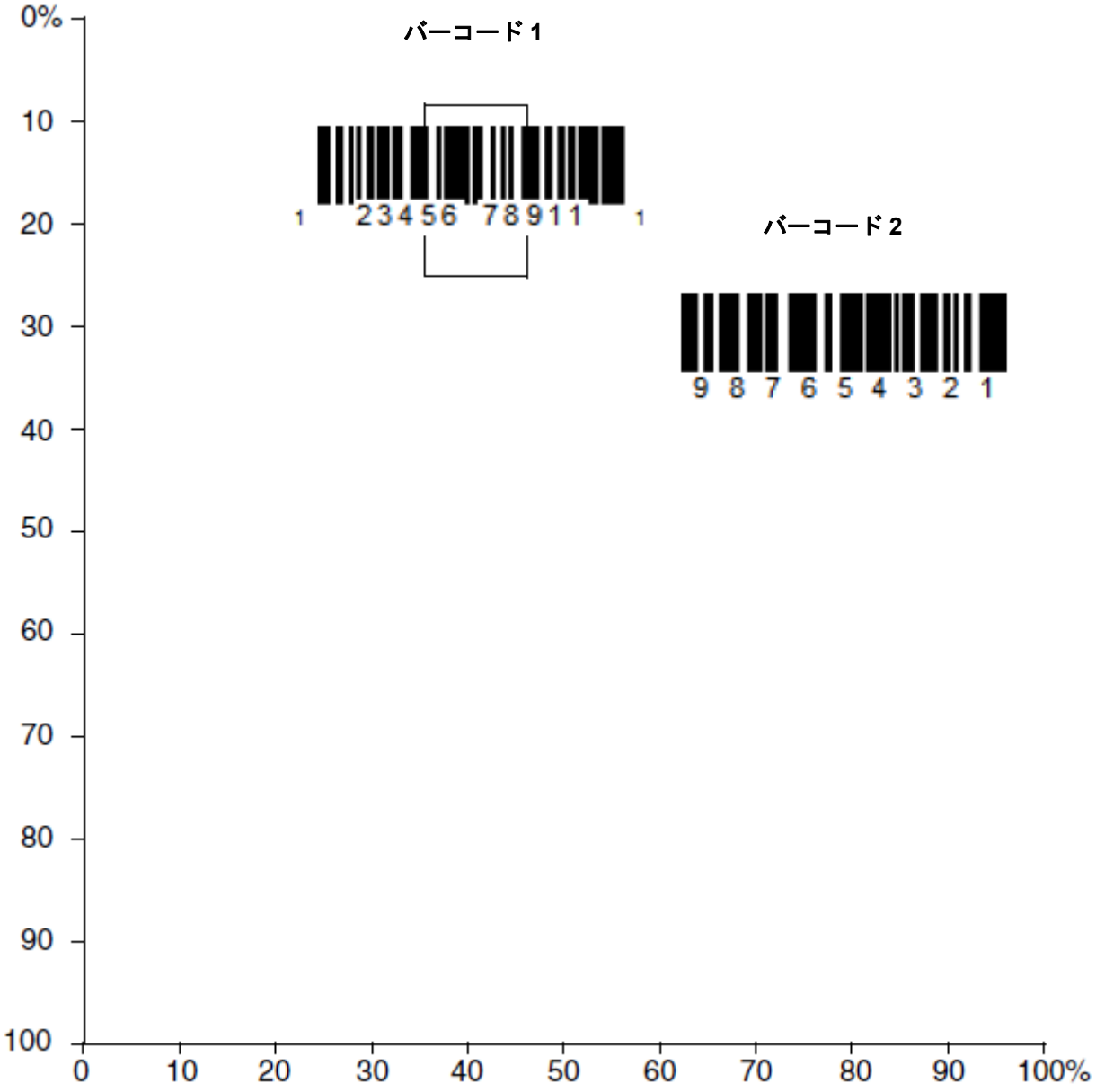
プレゼンテーションセンタリング

ここでは、スキャナがスタンドに設置された際にスキャナの視野を狭め、ユーザーが読み取りを望むバーコードだけをスキャナに読み込ませる設定です。例えば、複数のバーコードが 1 枚のシートに密接して印刷されている場合、特定のバーコードだけが読み取られるようになります。

注意：スタンドを使用せず、スキャナを手で持った状態でセンタリングを調節したい場合は、4-18 ページの「センタリング」を参照してください。

事前に設定されたウィンドウにバーコードが触れられなかった場合、バーコードのデコードも出力を行われません。**Presentation Centering On（プレゼンテーションセンタリング　有効）**を読み取って設定を有効にすると、**Top of Centering Window（センタリングウィンドウ　上部）**、**Bottom of Presentation Centering Window（プレゼンテーションウィンドウ　底部）**、**Left and Right of Presentation Centering Window（プレゼンテーションセンタリングウィンドウの左右）**によってユーザーが指定したセンタリングウィンドウを通ったバーコードだけを読み取ります。

次の例では、白いボックス ▭ がセンタリングウィンドウを示します。センタリングウィンドウは 20% 左、30% 右、8% 上、25% 下に設定されています。バーコード 1 は、センタリングウィンドウを通過したので、正常に読み取られます。一方、バーコード 2 はセンタリングウィンドウを通過していないので、読み取られていません。



注意：バーコード全体が完全にセンタリングウィンドウに入るように読み取る必要はありませんが、ある程度センタリングウィンドウを通過しなければなりません。

Presentation Centering On（プレゼンテーションセンタリング　有効）を読み取った後、
以下のバーコードを読み取ってセンタリングウィンドウの上部、底部、左、右を変更してください。その後、本書裏面にあるプログラミングコードを読み取って、センタリングウィンドウを移動する割合の数字を読み取り、最後に **Save （保存）**を読み取ります。
初期設定 = 40% for Top and Left, 60% for Bottom and Right（上部および左に 40%、底部および右に 60%）

Presentation Centering On
（プレゼンテーションセンタリング　有効）

Top of Presentation Centering Window
（プレゼンテーションセンタリングウィンドウ　上）

Left of Presentation Centering Window
（プレゼンテーションセンタリング　左）

*** Presentation Centering Off**
（プレゼンターションセンタリング　無効）

Bottom of Presentation Centering Window
（プレゼンテーションセンタリング　下）

Right of Presentation Centering Window
（プレゼンテーションセンタリング　右）

スタンド使用時のセンサーモード

この機能は、スキャナがスタンドから離れた場合にマニュアルトリガーによって読み取り実行をスキャナへ指示するものです。 **Sensor On（センサー　有効）**が有効なとき、スタンド使用時のスキャナはストリーミングプレゼンテーションモードをデフォルトとし、スタンド不使用時の場合は、マニュアルトリガーモードをデフォルトとします。
初期設定 = Sensor On（センサー　有効）

*** Sensor On**
（センサー　有効）

Sensor Off
（センサー　無効）

注意：画像取り込み（8-1 ページからのイメージングコマンドを参照）の場合は、スタンド使用時センサーモードをオフにしてください。

スタンド使用時ではストリーミングプレゼンテーションモード（標準、強化、または携帯端末）を設定し、スタンド不使用時では マニュアルトリガーモード （標準、強化、または携帯端末）で設定したい場合は、お好みのストリーミングプレゼンテーションモード（下記）をまず読み取ります。その後、ご使用希望のマニュアルトリガーモード（4-7 ページ）を読み取ります。

CodeGate®

CodeGate を有効にすると、デコードされたデータをホストシステムへ送信させるためにトリガーを使用します。スキャナは読み取りもデコードも行いますが、トリガーが引かれるまでデコードされたデータを送信しません。CodeGate が無効になっていると、バーコードのデータはデコードされて直ぐにホストシステムに送信されます。
初期設定= CodeGate Off, Out of Stand（スタンド不使用時　CodeGate 無効）

*** CodeGate Off, Out of Stand**
(スタンド不使用時、CodeGate 無効)

CodeGate On, Out of Stand
(スタンド不使用時、CodeGate 有効)

ストリーミングプレゼンテーション™ モード

ストリーミングプレゼンテーションモードを設定すると、スキャナのエイマーは短時間後消えますが、スキャナの照明はバーコードを探すために継続して常時点灯されます。これには **Normal （標準）**と **Enhanced（強化）**の 2 つのモードから選択できます。標準モードは、高速で広い読取範囲で読取を行います。強化モードでは、最速の読み取りを行いますが、標準モードより読取範囲が少し狭くなります。強化モードは広い読取範囲を必要とせず、高速処理を行いたいときに適しています。

Streaming Presentation Mode – Normal
（ストリーミングプレゼンテーションモード　標準）

Streaming Presentation Mode – Enhanced
（ストリーミングプレゼンテーションモード　強化）

優先シンボル (4-20 ページ)を使用しているとき、優先順位の低いシンボルはエイミングパターンの中央に置かれ、ストリーミングプレゼンテーションモードで読み取られます。

ストリーミングプレゼンテーションモードでは、画像を取り込むことはできません。画像取り込みの場合は、**Image Snap and Ship（画像撮影と送信）**を読み取ってください (4-14 ページ参照)。

注意：コードレススキャナのベースユニットをご使用の場合、ストリーミングプレゼンテーションモードを正常に動作させるには、外部電源を補助ポートに接続する必要があります。

スタンド使用時のストリーミングプレゼンテーション設定

この機能は、4-12 ページのスタンド使用時センサーモードが有効の際にお使いいただけます。スタンド内での読み取りに対し、特定のストリーミングプレゼンテーションモードを設定いただけます。まず、ご希望のストリーミングプレゼンテーションモード（標準、強化、携帯端末）を読み取り、その後ご希望のマニュアルトリガーモード（標準、強化、携帯端末）を読み」取ってください。

携帯端末読み取りモード

この機能は、お使いのスキャナを携帯端末やその他の LED デバイスのバーコード読み取りに最適化します。しかし、このモードでは、印刷されたバーコードの読取速度は少し遅くなります。携帯端末読み取りモードは、読み取り方式（手持ち、またはハンズフリー）に関わらず、お使いになれます。

Handheld Scanning – Mobile Phone
（手持ち読み取り　携帯端末）

Hands-Free Scanning – Mobile Phone
（ハンズフリー読み取り　携帯端末）

注意：携帯端末読み取りモードを無効にするには、マニュアルトリガーまたはシリアルトリガーモードのバーコード（4-7 ページ参照）を読み取ります。

画像撮影と送信

Image Snap and Ship（画像撮影と送信）では、トリガーが引かれるとスキャナが（バーコードよりも）写真を撮るように設定します。写真が撮影されると、デフォルト設定は jpeg ファイルとしてホストに送られます。バーコード読み取りに変えたい場合は、トリガーモード（4-7 ページからのマニュアル/シリアルトリガーモード参照）に変更してください。

Image Snap and Ship
（画像撮影と送信）

注意：このコードには RS232 インターフェースをお使いください。それ以外では、マニュアル／シリアルトリガーモード（11-18 ページ参照）のシリアルコマンドを送信するまでメニューコードは動作しません。

ハンズフリータイムアウト

スキャンスタンド、またはプレゼンテーションモードは「ハンズフリー」モードと呼ばれます。ハンズフリーモードを使用中にトリガーを引くと、マニュアルトリガーモードに変わります。ハンズフリータイムアウトを設定することで、スキャナがマニュアルトリガーモードのままでいる時間を設定できます。タイムアウト値に達すると（さらにトリガーが引かれなければ）元のハンズフリーモードに戻ります。

Hands Free Time-Out （ハンズフリータイムアウト）のバーコードを読み取り、裏表紙の内側からタイムアウト時間（0～ 300,000 ミリ秒）を読み取り、次に **Save（保存）**を読み取ります。
初期設定 =5,000 ms（ミリ秒）

Hands Free Time-Out
（ハンズフリータイムアウト）

再読み取りディレー

同一バーコードを 2 回目に読み取るまでの間隔を秒単位で設定します。再読み取りディレーを設定することで、同一バーコードを誤って再読み取りするのを防ぎます。ディレーを長くすると、再読み取りエラーを最小限にするのに効果的です。

バーコードの繰り返し読み取りが必要な場合は、ディレーを短くします。再読み取りディレーが動作するのは、プレゼンテーションモード (4-9 ページ）のときだけです。
初期設定＝ Medium（中）

Short (500 ms)
（短　500 ミリ秒）

Long (1000ms)
（長　1000 ミリ秒）

*** Medium (750ms)**
（中　750 ミリ秒）

Extra Long (2000ms)
エクストラ（2000ms）

ユーザー定義の再読み取りディレー

再読み取りディレーに独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、裏表紙の内側から数字を読み取ってディレイ（0 ~ 30,000 ミリ秒）を設定し、最後に **Save （保存）**を読み取ります。

User-Specified Reread Delay
（ユーザー定義の再読み取りディレー）

照明設定

バーコードの読み取り中に照明を有効にしたい場合は、次の **Lights On（照明　有効）**のバーコードを読み取ります。逆に照明を無効にしたい場合は、**Lights Off （照明　無効）**のバーコードを読み取ります。
初期設定 = Lights On（照明　無効）

注意：この設定は、エイマーライトには無効です。エイミングライトは、エイマーモード（4-17 ページ）で設定できます。

*** Lights On**
（照明　有効）

Lights Off
（照明　無効）

エイマーディレー

ユーザーがスキャナの狙いを定めて画像を取り込むまでのディレー（間隔）を設定します。これらのコードで、トリガーを引いてから画像を取り込むまでの時間を設定します。ディレー時間の間はエイミングライトが照射されますが、ディレー時間を過ぎるまで LED は点灯しません。
初期設定 =Off（エイマーディレー　無効）

200 milliseconds
（200 ミリ秒）

*** Off (no delay)**
（無効、またはディレー無し）

400 milliseconds
（400 ミリ秒）

ユーザー定義のエイマーディレー

ディレー時間に独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数字（0 ~ 4,000 ミリ秒）を読み取ってタイムアウト時間を設定し、**Save （保存）**を読み取ります。

Delay Duration
（ディレー時間）

スキャナタイムアウト

注意：スキャナのタイムアウトはコード付きスキャナにのみ対応しています。コードレスシステムではお使いになれません。

スキャナタイムアウト機能は、デバイスに指定された時間のアイドリング状態が続くと低出力へと切り替えます。スキャンが低出力になるのを防ぐには、このタイムアウトを 0 に設定します。Scanner Time-Out（スキャナタイムアウト）を読み取り、本書の裏表紙の内側から数字（0 ~ 999,999 ミリ秒）を読み取ってタイムアウトを設定し、Save を読み取ってください。
初期値= 1 ms（1 ミリ秒）

Scanner Time-Out
（スキャナタイムアウト）

エイマーモード

この機能はエイマーの切り替えを行うものです。 **Interlaced （非同時）**のバーコードを読み取ると、エイマーと照明 LED は同時に点灯できません。
初期設定 =Interlaced（非同時）

Off
（無効）

*** Interlaced**
（非同時）

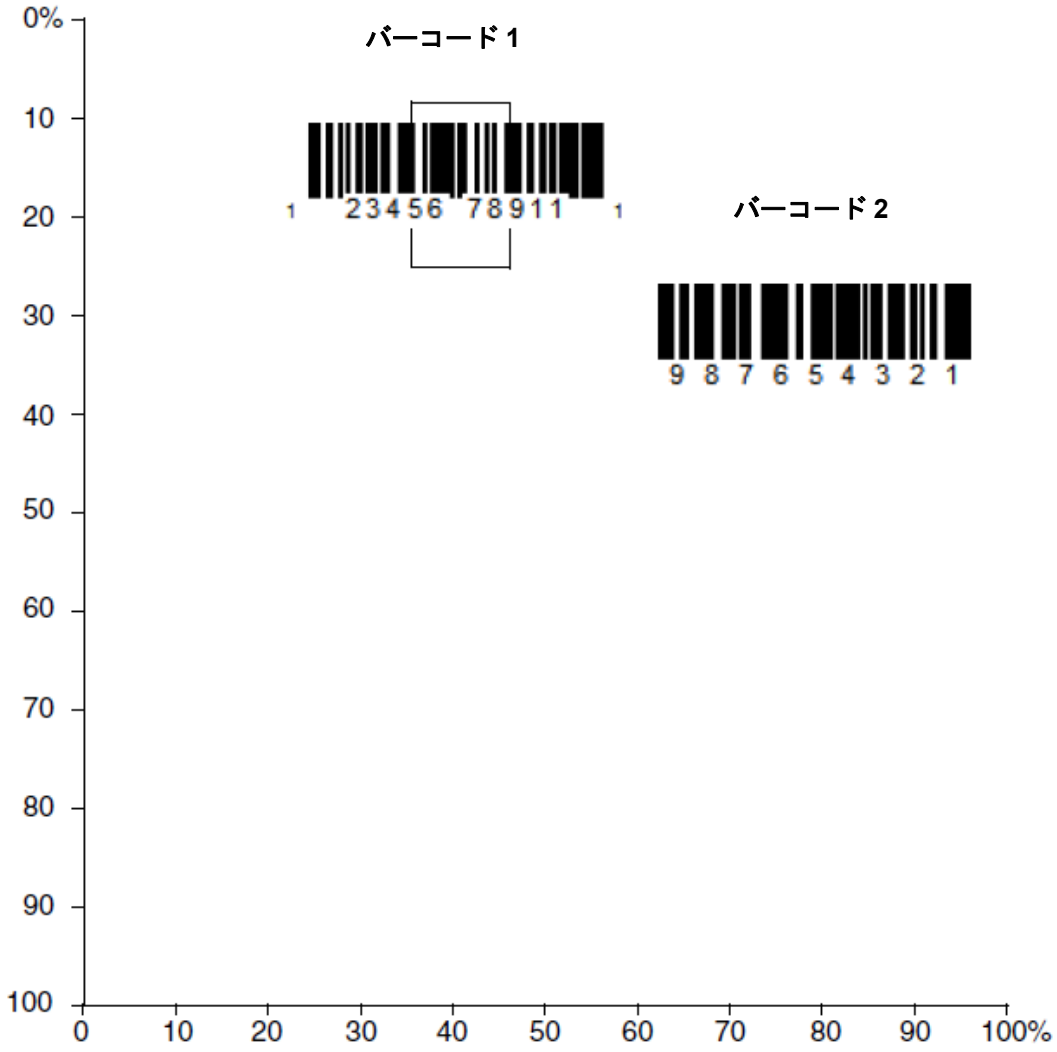
センタリング

希望のバーコードだけを確実に読み取るようにするには、センタリングを使用してスキャナの視界を狭めます。

例えば、複数のバーコードが接近している場合は、センタリングで希望のバーコードだけを確実に読み取ります。（センタリングは、複数のバーコードが接近して配置されている作業環境でエラーができるだけ発生しないように、4-14 ページのエイマーディレーと一緒に使用できます。エイマーディレー機能とセンタリング機能を併用すると、リニアレーザーバーコードスキャナなどの旧式システムの動作をエミュレーションできます。）

注意：スキャナをスタンドに置いて使用している場合のセンタリングについては、4-10 ページのプレゼンテーションセンタリングを参照してください。

次の例では、白いボックス ▭ がセンタリングウィンドウを示します。センタリングウィンドウは 20% 左、30% 右、8% 上、25% 下に設定されています。バーコード 1 は、センタリングウィンドウを通過したので、正常に読み取られます。一方、バーコード 2 はセンタリングウィンドウを通過していないので、読み取られていません。



注意：バーコード全体が完全にセンタリングウィンドウに入るように読み取る必要はありませんが、ある程度センタリングウィンドウを通過しなければなりません。

Centering On
（センタリング　有効）

Top of Centering Window
（センタリングウィンドウ　上）

Left of Centering Window
（センタリングウィンドウ　左）

*** Centering Off**
（センタリング　無効）

Bottom of Centering Window
（センタリングウィンドウ　下）

Right of Centering Window
（センタリングウィンドウ　右）

優先シンボル

複数のシンボルが 1 枚のシートに印刷されているものの、優先順位の低い方のシンボルの読み取りを無効にできない場合、ある一つのシンボルを他のシンボルよりも優先順位が高いものとして指定することができます。

例えば、UPC シンボルを小売店舗で読み取るよう設定を施したスキャナを使用している場合に、運転免許証のバーコードを読み取らなければならない場合があるとします。一部の免許証には Code 39 シンボルのほかに PDF417 シンボルもありますが、優先シンボルを使用すると、Code 39 ではなく PDF417 を先に読み取るよう指定することができます。

優先シンボルは、各シンボルを優先度 高、優先度 低、または指定なしタイプに分類されます。優先度の低いシンボルが現れたとき、スキャナは設定した時間（4-21 ページの「優先シンボルのタイムアウト」を参照）の間、このシンボルを無視し優先度の高いシンボルを検索します。この時間内に優先度の高いシンボルが見つかると、即座にデータが読み取られます。

優先度の高いシンボルを読み取る前にタイムアウト時間が過ぎてしまうと、スキャナは視界内のバーコード（優先度 低 または指定なし）を読み取るようになります。タイムアウト時間が過ぎてもスキャナの視界内にバーコードが見つからない場合、データは報告されません。

注意：優先度の低いシンボルは、読み取るエイミングパターンの中央に置く必要があります。

優先シンボルを有効または無効にするには、以下のバーコードを読み取ってください。
初期設定 =Preferred Symbology Off（優先シンボル　無効）

Preferred Symbology On
（優先シンボル　有効）

*** Preferred Symbology Off**
（優先シンボル　無効）

高優先度シンボル

優先度の高いシンボルを指定するには、次の **High Priority Symbology （高優先度シンボル）**バーコードを読み取ります。 A-1 ページのシンボルチャートで、高優先度に設定するシンボルを確認します。そのシンボルの Hex 値を確認して、プログラミングチャート（裏表紙の内側）から 2 桁の Hex 値を読み取ります。Save （保存）を読み取り、設定を保存します。
初期設定＝ None（なし）

High Priority Symbology
（高優先度シンボル）

低優先度シンボル

優先度の低いシンボルを指定するには、次の **Low Priority Symbology （低優先度シンボル）**バーコードを読み取ります。A-1 ページのシンボルチャートで、低優先度に設定するシンボルを探します。そのシンボルの Hex 値を確認して、プログラミングチャート（裏表紙の内側）から 2 桁の Hex 値を読み取ります。

優先度の低いシンボルをさらに設定したい場合は、**FF** を読み取った後、次のシンボルに対応する 2 桁の Hex 値をプログラミングチャートから読み取ります。最大 5 つの低優先度シンボルを設定できます。**Save （保存）**を読み取り、設定を保存します。
初期設定＝ None（なし）

Low Priority Symbology
（低優先度シンボル）

優先シンボルのタイムアウト

優先シンボルを有効にし、高優先度および低優先度のシンボルを入力したら、タイムアウト時間を設定する必要があります。これは、低優先度のバーコードが現れた後、スキャナが高優先度のバーコードをサーチする時間です。次のバーコードを読み取り、裏表紙の内側から数字を読み取ってディレイ（0 ～ 3,000 ミリ秒）を設定し、**Save （保存）**を読み取ります。
初期値＝ 500 ms（500 ミリ秒）

Preferred Symbology Time-out
（優先シンボルのタイムアウト）

優先シンボルのデフォルト

次のバーコードを読み取ると、すべての優先シンボル設定がデフォルトに戻されます。

Preferred Symbology Default
（優先シンボルのデフォルト）

アウトプットシーケンスの概要

アウトプットシーケンスの条件

アウトプットシーケンスを無効にすると、バーコードデータはスキャナがデコードしたままホストに出力されます。有効の場合、すべての出力データは設定したシーケンスどおりでなければなりません。合っていなければ、スキャナは出力データをホスト機器に送信しません。

注意： この設定は、複数シンボルが有効の場合、お使いになれません。

アウトプットシーケンスエディタ

この設定では、バーコードが読み取られる順序には関係無く、アプリケーションに必要な任意の順序でデータを出力するように（複数のシンボルを読み取るとき）スキャナを設定できます。**Default Sequence （シーケンスのデフォルト）** のシンボルを読み取ると、下記の汎用値にスキャナを設定します。これが初期設定になっています。**Default Sequence** のシンボルを読み取る前に必ずフォーマットをすべて削除するかクリアしてください。

注意：アウトプットシーケンスエディタを設定するときは、アプリケーションで必要なコードID、コード長、および合致させるキャラクタを事前に確認する必要があります。英数字シンボル（裏表紙の内側）を用いてこれらの設定値を読み取ってください。
また、シーケンスで各バーコードを読み取る間は、トリガーを引いたままにしておく必要があります。

アウトプットシーケンスの追加

1. **アウトプットシーケンスの入力開始**
   Enter Sequence （シーケンスの入力）のバーコードを読み取ります。（4-25 ページのアウトプットシーケンスの概要を参照。）

2. **コード I.D.**
   A-1 ページのシンボルチャートでアウトプットシーケンスフォーマットを適用するシンボルの種類を確認します。シンボルの Hex 値を確認し、プログラミングチャート（裏表紙の内側）から 2 桁の Hex 値を読み取ります。

3. **コード長**
   シンボルの長さ（最大 9,999 キャラクタ）を指定します。プログラミングチャートから 4 桁のデータ桁数を読み取ってください。
   （ *注意：50 桁は 0050 と入力します。9999 は汎用の数字で、すべての長さ／桁数を示します。*）
   データ桁数を計算するときには、設定したプリフィクス、サフィックス、またはフォーマットしたキャラクタをデータ桁数の一部として数える必要があります。（9999 を使用しない場合。）

4. **合致キャラクタの指定**
   A-3 ページの「印刷バーコードのコードページマッピング」で合致させたいキャラクタを表す Hex 値を確認します。その後、プログラミングチャートを使用し、ASCII キャラクタを表す英数字の組合せを読み取ります。（99 は汎用の数字で、すべてのキャラクタを示します。）

5. アウトプットシーケンスの終了
追加シンボル用にアウトプットシーケンスを入力するときは **F F** を読み取ります。または **Save （保存）**を読み取って入力を保存します。

他の設定

Discard　　アウトプットシーケンスの変更を保存しないで終了します。

アウトプットシーケンス　設定例

この例では、Code 93、Code 128、および Code 39 のバーコード読み取りに際し、下記のように Code 39 をはじめに、次に Code 128 を、Code 93 を三番目に出力するよう読み取りたいとします。
注意：この例では、Code 93 が必ず有効でなければなりません。

A - Code 39

B - Code 128

C - Code 93

次のコマンド行でシーケンスエディタを設定します。

SEQBLK62999941FF6A999942FF69999943FF

コマンド行の内容は次のとおりです。

SEQBLK	シーケンスの入力
62	**Code 39** のコード ID
9999	Code 39 の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
41	Code 39 先頭キャラクタを指定、41h="A"
FF	最初のコードの終了
6A	**Code 128** のコード ID
9999	Code 128 の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
42	Code 128 の先頭キャラクタを指定、42h="B"
FF	2 番目のコードの終了
69	**Code 93** のコード ID
9999	Code 93 の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
43	Code 93 の先頭キャラクタを指定、43h="C"
FF	3 番目のコードの終了ストリング

特定のデータ桁数を使用して先の例を設定するには、設定したプリフィクス、サフィックス、またはフォーマットしたキャラクタをデータ桁数の一部として数える必要があります。4-23 ページの例を使用しつつ <CR> サフィックスと特定のコード長を想定する場合は、次のコマンド行を使用します。

SEQBLK62001241FF6A001342FF69001243FF

コマンド行の内容は次のとおりです

SEQBLK	シーケンスの入力
62	**Code 39** のコード ID
0012	A - Code 39 のコード長（11）＋ CR サフィックス（1）＝ 12
41	Code 39 先頭キャラクタ、41h="A"
FF	最初のコードの終了
6A	**Code 128** のコード ID
0013	B - Code 128 のコード長（12）＋ CR サフィックス（1）＝ 13
42	Code 128 先頭キャラクタ、42h="B"
FF	2 番目のコードの終了
69	**Code 93** のコード ID
0012	C - Code 93 のコード長（11）＋ CR サフィックス（1）＝ 12
43	Code 93 先頭キャラクタ、43h="C"
FF	3 番目のコードの終了

アウトプットシーケンスエディタ

Enter Sequence
（シーケンスの入力）

Default Sequence
（シーケンスのデフォルト）

パーティカルシーケンス

アウトプットシーケンスがすべての出力シーケンス基準と合致する前に終了された場合、そこまでに得られたバーコードデータが「パーティカルシーケンス」となります。

Discard Partial Sequence（パーティカルシーケンスの破棄）を読み取ると、アウトプットシーケンスが途中で中断されたパーティカルシーケンスを放棄します。

Transmit Partial Sequence （パーティカルシーケンスの送信）を読み取ると、パーティカルシーケンスを送信します。（合致するデータがないシーケンスのフィールドは、出力時にスキップされます。）

Transmit Partial Sequence
（パーティカルシーケンスの送信）

*** Discard Partial Sequence**
（パーティカルシーケンスの放棄）

アウトプットシーケンスの要求

アウトプットシーケンスが **Required （要求する）**のとき、出力データはすべて設定シーケンスどおりでなければなりません。合致していなければ、スキャナは出力データをホストデバイスに送信しません。

On/Not Required （有効、要求しない）のときは、編集されたシーケンスに合うように出力データを取得しようとします。取得できなければ、すべての出力データをそのままホスト機器に送信します。

無効の場合は、バーコードデータはスキャナがデコードしたままホストに出力されます。
初期設定＝ Off（無効）

Required
（要求する）

*** Off**
（無効）

On/Not Required
（有効、要求しない）

複数シンボル

この設定を有効にすると、スキャナのトリガーを 1 回引くだけで複数のシンボルを読み取ることができます。トリガーを引いたまま複数のシンボルに照準を合わせると、各シンボルを 1 回ずつ読み取り、その都度ブザーを鳴らします（有効時に限る。）

スキャナは、トリガーを引いている間は新たなシンボルを探してデコードしようとします。この設定を無効にすると、エイミングビームに最も近いシンボルだけを読み取ります。
初期設定 = Off（無効）

On
（有効）

*** Off**
（無効）

No Read

No Read を 有効 にすると、スキャナはコードを読み取れない場合に通知します。EZConfig Tool Scan Data Window（10-4 ページ参照）を使用している場合は、コードを読み取れなかったときに「NR」と表示されます。No Read を無効にすると「NR」は表示されません。
初期設定＝ Off（無効）

On
（有効）

*** Off**
（無効）

例えば「Error」や「Bad Code」など「NR」以外を表示したい場合は、出力メッセージを編集できます（6-1 ページからのデータフォーマット参照）。No Read シンボルの Hex 値は 9C です。

ビデオリバース（反転コード）

ビデオリバースを使用すると、反転したバーコードを読み取ることができます。色が反転したバーコードのみを読み込む際には、**Video Reverse Only（反転コードのみ　有効）**を読み取ってください。どちらのタイプのコードも読み込む場合は、 **Reverse and Standard Bar Codes （標準および反転コード両方　有効）**を読み取ってください。

*注意：**Video Reverse Only** を読み取った後は、メニューバーコードの読み取りができません。メニューバーコードを読み取るには、**Video Reverse Off （反転コード　無効）**もしくは **Video Reverse and Standard Bar Codes** を読み込んでください。*

注意：画像は反転されません。これは、バーコードのデコード専用設定です。

Video Reverse Only
（反転コードのみ　有効）

*** Video Reverse Off**
（反転バーコード　無効）

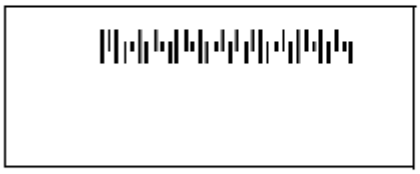
Video Reverse and Standard Barcodes
（反転および標準コード）

ワーキングオリエンテーション

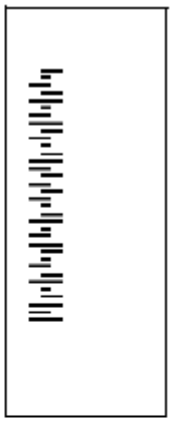
バーコードによっては、方向に敏感なものがあります。例えば、KIX コードや OCR フォントのように横から、または上下逆さに読み取ると誤読してしまうものもあります。このようなコードが常にスキャナの正面で読み取られない場合、この機能を使用してください。
初期設定=Upright（正面）

正面

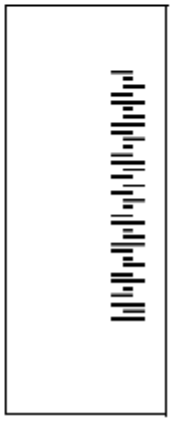
上下逆さ



垂直、上から下へ
（CW 90° 回転）



垂直、下から上へ
（CW 90° 回転）



ROTATN0.

*** Upright**
（正面）

ROTATN2.

Upside Down
（上下逆さ）

ROTATN1.

Vertical, Bottom to Top
（垂直、下から上）

ROTATN3.

Vertical, Top to Bottom
（垂直、上から下）

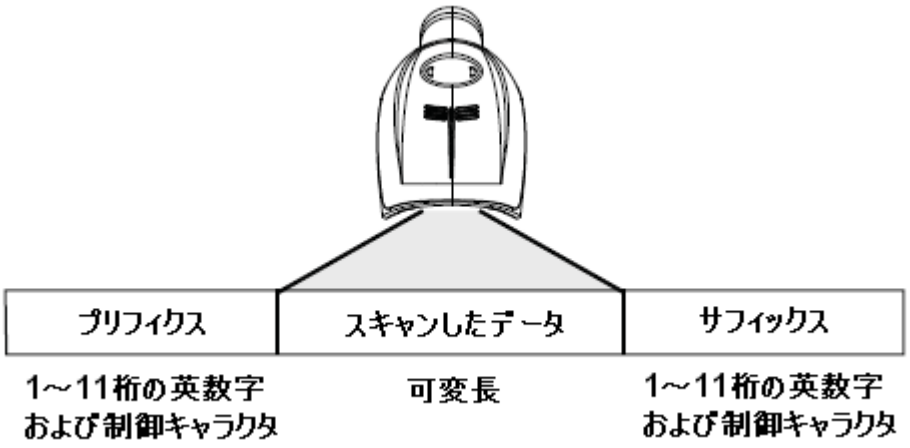
5

データ編集

プリフィクス/サフィックスについて

バーコードを読み取ると、追加情報がバーコードデータと一緒にホストコンピュータに送信されます。バーコードデータと追加のユーザー定義データを合わせて「メッセージストリング」と呼びます。この章の設定は、ユーザー定義のデータをメッセージストリングに組み込むときに使用します。

プリフィクスとサフィックスのキャラクタは、読み取ったデータの前後に送信できるデータキャラクタです。すべてのシンボルに適用するか、特定シンボルにだけ適用するかを指定できます。次の図は、メッセージストリングの中身を示します。



補足事項

- 常にメッセージストリングを作る必要はありません。この章の設定を使用するのは、初期設定を変更したいときだけです。

  初期設定プリフィクス＝None（なし）、初期設定サフィックス＝None （なし）

- プリフィクスやサフィックスは、1 シンボルまたはすべてのシンボルに追加・削除できます。
- A-3 ページからの ASCII 変換チャート（コードページ 1252） でプリフィクスやサフィックスを、どれでもコード ID や AIM ID と一緒に追加できます。
- 1 回の動作で複数のシンボルに対して複数の設定を結合できます。
- 出力で表示したい順にプリフィクスとサフィックスを入力してください。
- すべてのシンボルではなく、特定のシンボルを設定するとき、そのコード ID 値は、追加されたプリフィクスまたはサフィックスのキャラクタと見なします。
- プリフィクス/サフィックスは、ヘッダー情報を含めて最大 200 キャラクタ（桁）まで追加可能です。

プリフィクスまたはサフィックスの追加手順

Step 1. **Add Prefix （プリフィクスの追加）**または **Add Suffix （サフィックスの追加）**のバーコードを読み取ります (5-3 ページ) 。

Step 2. シンボルチャート（ A-1 ページからのシンボルチャートにあります）からプリフィクスまたはサフィックスを適用したいシンボルの 2 桁の Hex 値を確認します。
例えば、Code 128 の場合、コード ID は「j」、Hex ID は「6A」です。

Step 3. 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 2 桁の数字を読み取ります。すべてのシンボルの場合は **9**、**9** と読み取ります。

Step 4. A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）から、入力したいプリフィクスまたはサフィックスの Hex 値を確認します。

Step 5. 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから、確認した 2 桁の Hex 値を読み取ります。

Step 6. プリフィクスまたはサフィックスのキャラクタごとに Step 4 と Step 5 を繰り返します。

Step 7. コード ID を追加するときは、**5**、**C**、**8**、**0** を読み取ります。
AIM ID を追加するときは、**5**、**C**、**8**、**1** を読み取ります。
バックスラッシュ（\）を追加するときは、**5**、**C**、**5**、**C** を読み取ります。

注意： Step 7 でバックスラッシュ（\）を追加するときは、5C を 2 回読み取ってください。1 回目で先行バックスラッシュを作成し、次にバックスラッシュ自体を作成します。

Step 8. **Save （保存）**を読み取って保存・終了するか、**Discard （破棄）**を読み取って保存せずに終了します。

別のシンボルにプリフィクスまたはサフィックスを追加するときは、Step 1～6 を繰り返します。

例：サフィックスを特定のシンボルに追加する

CR（キャリッジリターン）サフィックスを UPC だけに追加します。

Step 1. **Add Suffix** を読み取ります。.

Step 2. シンボルチャート（ A-1 ページからのシンボルチャート にあります）から UPC の 2 桁の Hex 値を確認します。

Step 3 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから **6**、**3** を読み取ります。

Step 4 A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）から、CR（キャリッジリターン）の Hex 値を確認します。

Step 5. 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから、0、D を読み取ります。

Step 6 **Save** を読み取ります。もしくは D**iscard** を読み取って保存せずに終了します。

1 つまたはすべてのプリフィクス・サフィックスの削除

シンボルのプリフィクスまたはサフィックスを 1 つまたはすべて削除できます。 1 つのシンボルにプリフィクスやサフィックスを追加したことがある場合、**Clear One Prefix/Suffix （1 つのプリフィクスまたはサフィックスを削除）**で特定のキャラクタをシンボルから消去します。

また、**Clear All Prefixes/Suffixes （すべてのプリフィクスまたはサフィックスを削除）**を選択すると、すべてのプリフィクスまたはサフィックスが削除されます。

Step 1 **Clear One Prefix** または **Clear One Suffix** のバーコードを読み取ります。

Step 2 シンボルチャート（A-1 ページからのシンボルチャートにあります）から、プリフィクスまたはサフィックスを削除したいシンボルの 2 桁の Hex 値を確認します。

Step 3 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 2 桁の Hex 値を読み取ります。すべてのシンボルの場合は **9**、**9** を読み取ります。この変更は自動的に保存されます。

変更内容は、自動的に保存されます。

キャリッジリターン（CR）サフィックスをすべてのシンボルに追加

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに一度に追加したい場合は、次のバーコードを読み取ります。この操作では、まず現在のサフィックスをすべて削除し、次にすべてのシンボルに対してキャリッジリターンサフィックスを設定します。

Add CR Suffix to All Symbologies
（すべてのシンボルにキャリッジリターンサフィックスを追加）

プリフィクスの設定

Add Prefix
（プリフィクス追加）

Clear All Prefixes
（すべてのプリフィクス削除）

Clear One Prefix
（プレフックス 1 つ削除）

サフィックスの設定

SUFBK2.

Add Suffix
（サフィックスの追加）

SUFCL2.

Clear One Suffix
（サフィックス１つ削除）

SUFCA2.

Clear All Suffixes
（すべてのサフィックス削除）

ファンクションコードの送信

この設定を有効にすると、読み取ったデータにファンクションコードが含まれている場合、スキャナがそのファンクションコードをホストシステムに送信します。これらのファンクションコードは、9-3 ページからの「サポートされているインターフェースキー」に記載されています。キーボードウェッジモードのとき、読み取りコードはキーコードに変換されてから送信されます。
初期設定＝ Enable（有効）

RMVFNC0.

*** Enable**
（有効）

RMVFNC1.

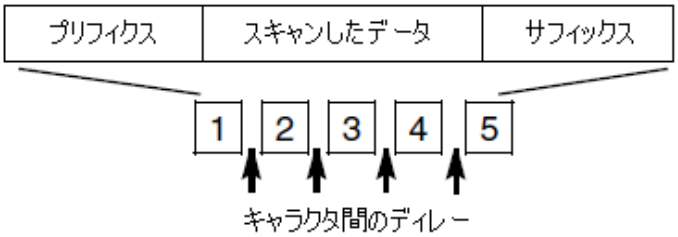
Disable
（無効）

キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレー

データ送信が速すぎると、ホストによっては情報（キャラクタ）を取りこぼすことがあります。キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレーはデータ送信を遅くすることで、より確実にデータを送信します。

キャラクタ間ディレー（間隔）

読み取った各キャラクタを送信する間隔について、最大 5000 ミリ秒のキャラクタ間ディレーを 5 ミリ秒単位で設定できます。次の **Intercharacter Delay（キャラクタ間ディレー）**のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位の数字と **Save（保存）**バーコードを読み取ります。



DLYCHR.

Intercharacter Delay
（キャラクタ間ディレー）

このディレーを削除するときは、Intercharacter Delay のバーコードを読み取り、次にディレー数を 0 に設定します。その後本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで Save のバーコードを読み取ります。

注意：キャラクタ間ディレーは、USB のシリアルエミュレーションではサポートされていません。

ユーザー定義のキャラクタ間ディレー（間隔）

読み取ったデータの特定のキャラクタ送信について、最大 5000 ミリ秒のキャラクタ間ディレーを 5 ミリ秒単位で設定できます。下の **Delay Length（ディレー長）**のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位のディレー数を読み取ってから、**Save** のバーコードを読み取ります。

次に、**Character to Trigger Delay （ディレーを有効にするキャラクタ）**のバーコードを読み取り、A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）で、ディレーをトリガーする ASCII キャラクタの 2 桁の Hex 値を読み取ります。

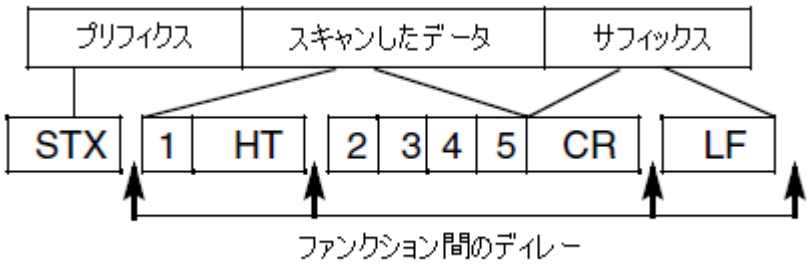
Delay Length
（ディレー長）

Character to Trigger Delay
（ディレーを有効にするキャラクタ）

このディレーを削除するには、**Delay Length** のバーコードを読み取り、次にディレー数を 0 に設定します。本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **Save** のバーコードを読み取ります。

ファンクション間ディレー（間隔）

メッセージストリングの各セグメント送信において、最大 5000 ミリ秒（5ms 単位）のファンクション間ディレーを設定できます。下の **Interfunction Delay（ファンクション間ディレー）**バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位のディレー数と **Save （保存）**のバーコードを読み取ってください。



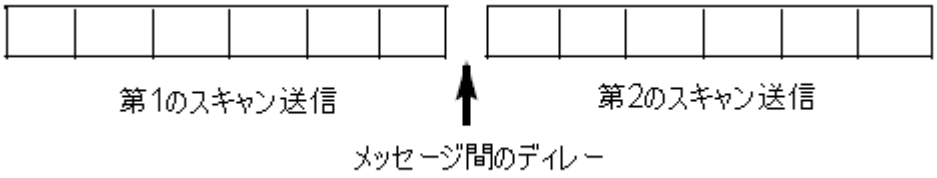
DLYFNC.

Interfunction Delay
（ファンクション間ディレー）

このディレーを削除するときは、**Interfunction Delay** のバーコードを読み取り、次にディレー数を 0 に設定します。その後、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **Save** のバーコードを読み取ります。

メッセージ間ディレー（間隔）

読み取り送信において、最大 5000 ミリ秒（5ms 単位）のメッセージ間ディレーを設定できます。次の **Intermessage Delay *（メッセージ間ディレー）***のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位のディレー数と **Save** のバーコードを読み取ります。



DLYMSG.

Intermessage Delay（メッセージ間ディレイ）

このディレーを削除するときは、**Intermessage Delay** のバーコードを読み取り、次にディレー数を 0 に設定します。その後、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **Save** のバーコードを読み取ります。

6

データフォーマット

データフォーマットエディタについて

データフォーマットエディタを使ってスキャナの出力を変更できます。例えば、バーコードデータを読み取りながら特定個所にキャラクタを挿入できます。この後のページに記載された設定は、出力を変更したい場合だけに使用してください。
データフォーマットの初期設定＝None（なし）

通常、バーコードを読み取ると自動的にデータが出力されますが、フォーマットを使用する場合は、フォーマットプログラムの中で「送信」コマンド（6-4 ページの「送信コマンド」を参照）でデータを出力する必要があります。スキャナには複数のフォーマットのプログラム設定が可能です。入力された順にスタックされます。

ただし、次の一覧はフォーマットが適用される順序を示しています。

1. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、実際の長さ
2. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の長さ
3. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の長さ
4. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、汎用の長さ
5. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、実際の長さ
6. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の長さ
7. 汎用のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の長さ
8. 汎用のターミナル ID、汎用のコード ID、汎用の長さ

データフォーマットの構成はヘッダー情報を含め、2000 バイトが最大サイズです。

データフォーマットの設定の変更を行ったものの、フォーマットをすべて削除して工場初期設定に戻したい場合は、下の **Default Data Format** コードを読み取ってください。

*** Default Data Format**
（データフォーマット初期設定）

データフォーマットの追加

Step 1　Enter Data Format（データフォーマットの開始）のシンボルを読み取ります。（6-2 ページ）

Step 2. Primary（基準）もしくは Alternate Format（代用）フォーマットを選択します。基準のデータフォーマットにするか、または 3 つある代用フォーマットの 1 つにするかを決定します。全部で 4 つの異なるデータフォーマットの方法を保存することができます。基準フォーマットを設定するときは、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **0** を読み取ります。代用フォーマットをプログラム設定する場合は、設定する代用フォーマットによって **1**、**2**、または **3** を読み取ります。（詳細については、6-10 ページの**基準もしくは代用フォーマット**の項目をご参照ください。）

Step 3. ターミナルの種類
ターミナル ID 表（6-4 ページ）を参照し、お使いのコンピュータのターミナル ID を確認します。裏表紙の内側にある 3 つの数字バーコードを読み取り、そのターミナル ID でスキャナを設定します。（数字を 3 つ入力してください。）
例えば、 AT ウェッジの場合は **0**、**0**、**3** を読み取ります。

注意：すべてのターミナルに適用する場合は、 099 と入力してください。

Step 4. コード ID
A-1 ページからのシンボルチャートでデータフォーマットを適用するシンボルを確認します。そのシンボルの Hex 値を確認し、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 2 桁の Hex 値を読み取ります。

注意：すべてのシンボルに設定を適用したい場合は、099 と入力してください。

Step 5. コードの長さ
このシンボルで可能なデータの長さ（最大 9,999 キャラクタ）を指定します。本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 4 桁のデータ桁数を読み取ります。
例えば、50 キャラクタ（桁）は 0050 と入力します。

注意：コードの長さを問わず設定を適用したい場合は、9999 と入力してください。

Step 6. 編集コマンド
6-4 ページを参照してください。入力したいコマンドを表すシンボルを読み取ります。各シンボルデータフォーマットには、94 の英数キャラクタを入力できます。

Step 7. データフォーマットの保存には、 **Save（保存）**を読み取ってください。保存しない場合は **Discard（破棄）**を読み取ります。

Save
（保存）

Discard
（破棄）

Enter Data Format
（データフォーマットの入力開始）

他の設定

Clear One Data Format：

1 つのシンボルに対してデータフォーマットを 1 つ削除します。基準フォーマットを削除する場合は、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから **0** を読み取ります。

代用フォーマットを削除する場合は、削除する代用フォーマットによって **1**、**2**、または **3** を読み取ります。その後、削除したい特定のデータフォーマットのターミナルの種類、コード ID（A-1 ページのシンボルチャートを参照）、およびバーコードデータ桁数を読み取ります。他のフォーマットは全く影響を受けません。

Clear All Data Formats：
すべてのデータフォーマットを削除します。

Save：
データフォーマットを保存します。

Discard：
データフォーマットの設定を中止し、破棄します。

Clear One Data Format
（データフォーマットを 1 つ削除する）

Save
（保存）

Clear All Data Formats
（データフォーマットをすべて削除する）

Discard
（破棄）

ターミナルＩＤテーブル

ターミナル	ターミナル ID および 機種	番号
IBM	PC/AT 並びに互換機	003
	USB SurePOS　ハンドヘルドスキャナ	128
	USB SurePOS テーブルトップスキャナ	129
RS232	True	000
	TTL	000
RS485		051
USB	シリアル	130
	PC キーボード	124
	Mac キーボード	125
	PC 日本語キーボード	134
	HID POS	131

データフォーマットエディタコマンド（編集コマンド）

送信コマンド

すべてのキャラクタを送信する

F1　　入力メッセージ（読み取ったデータ）のすべてのキャラクタが出力メッセージに含まれます。現在のカーソル位置から始まり、最後にキャラクタを挿入します。
Syntax = F1xx（**xx** は、挿入するキャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示しています。Dec 値、 Hex 値、キャラクタコードについては、A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

いくつかのキャラクタを送信する

F2　　入力メッセージ（読み取ったデータ）から指定した桁数のデータだけを送信します。現在のカーソル位置から「nn」 個のキャラクタまで、もしくは入力メッセージの最後のキャラクタまで、最後にキャラクタを挿入して送信します。
Syntax = F2nnxx（**nn** はキャラクタの数を示す数字（00～99）で、**xx** は、挿入するキャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示しています。Dec 値、 Hex 値、キャラクタコードについては、A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信する

F3　　現在のカーソル位置のキャラクタから始まり、検索キャラクタ「**ss**」の手前までのデータを送信します。続いて、指定したキャラクタを挿入します。カーソルは「**ss**」キャラクタへと移動します。**Syntax = F3ssxx**（**nn** は検索するキャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示し、 **xx** は、挿入したいキャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示しています。DEC 値、 Hex 値、キャラクタコードについては、A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。）

最後のキャラクタ以外を送信する

E9　　現在のカーソル位置から、最後の「**nn**」キャラクタを除く、すべての出力メッセージを送信します。カーソルは最後の入力メッセージキャラクタが含まれる位置を過ぎたところへ移動します。**Syntax = E9nn** （**nn** は、メッセージの最後で送られないキャラクタの数の数値（00～99）を示しています。

キャラクタを複数回挿入する

F4　　現在のカーソル位置はそのままで、「**xx**」キャラクタを「**nn**」回出力メッセージで送信します。**Syntax = F4xxnn** （**xx** は、挿入したいキャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示し、**nn** は、送信する回数の数値（00 ~ 99）を示しています。DEC 値、 Hex 値、キャラクタコードについては、A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

シンボル名を挿入する

B3　　カーソルを動かすことなく、出力メッセージにバーコードシンボル名を挿入します。含まれるのは、ハネウェル ID のあるシンボルのみです（A-1 ページのシンボルチャートを参照）。DEC 値、Hex 値、キャラクタコードについては、A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

バーコード長を挿入する

B4　　カーソルを動かすことなく、出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。バーコードの長さは数字のストリングによって示され、リード部の 0 は含まれません。

キーストロークを挿入する

B5　　キーストローク、またはキーストロークの組み合わせを挿入します。キーストロークは、お使いのキーボードにより異なります（A-7 ページのユニコードキーマップをご覧ください。）矢印やファンクションを含め、どんなキーも挿入できます。Syntax = B5xxssnn　ss は下表のキーモディファイアであり、nn は A-7 ページ ページのユニコードキーマップ のキー番号です。

キーモディファイア	
キーモディファイア無し	00
Shift Left（左シフト）	01
Shift Right（右シフト）	02
Alt Left（左 Alt）	04
Alt Right（右 Alt）	08
Control Left（左 Ctrl）	10
Control Right（右 Ctrl）	20

例えば、B501021F というコマンドを作成すると米国キーボード 104 キー に A を追加します。

B5 = キーストロークを挿入するコマンド
01 = キーモディファイア無しに押されたキーの数
02 = Shift Right のキーモディファイア
1F = 小文字の「a」

もし小文字の「a」が挿入されたら、B50121F の設定は成功です。

キーストロークが 3 つある場合、B5xxssnn をもう一つ追加し、Syntax は B5xxssnnssnnssnn に変わります。「abc」を入力する場合は、以下のとおりです：B503001F00320030F833.

注意：必要であれば、キーモディファイアは組み合わせて一緒に付加することが可能です。例えば、Cotrol Left（右 Ctrl） + Shift Left（右シフト） = 11 となります。

移動コマンド

前方キャラクタへ移動する

F5　　カーソルを現在の位置から「**nn**」キャラクタ分、先へと移動させます。**Syntax = F5nn**（**nn** は、カーソルを前に移動させるキャラクタ数（00 ~ 99）を示しています。）

後方キャラクタへ移動する

F6　　カーソルを現在の位置から「**nn**」キャラクタ分、後ろへ移動させます。**Syntax = F6nn**（**nn** は、カーソルを後ろに移動させるキャラクタ数（00 ~ 99）を示しています。）

カーソルを先頭に移動する

F7　　カーソルを入力メッセージの先頭キャラクタに移動させます。**Syntax =F7**

カーソルを末尾に移動する

EA　　カーソルを入力メッセージの最終キャラクタに移動します。**Syntax = EA**

検索コマンド

前方のキャラクタを検索する

F8　　現在のカーソル位置より前方にある「**xx**」キャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルは「**xx**」キャラクタに移動します。**Syntax =F8xx**（**xx** は、検索するキャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示しています。DEC 値、 Hex 値、キャラクタコードについては、 A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

後方のキャラクタを検索する

F9　　現在のカーソル位置より後方にある「**xx**」キャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルは「**xx**」キャラクタに移動します。 **Syntax = F9xx**（**xx** は、検索するキャラクタの ASCII コードにコードに対する Hex 値を示しています。DEC 値、 Hex 値、キャラクタコードについては、 A-3 ページの ASCII 変換チャート （コードページ 1252）を参照してください。

前方のストリングを検索する

B0　　現在のカーソル位置より前方にある「**s**」ストリングを検索し、カーソルは「**s**」ストリングに移動します。**Syntax =B0nnnnS**。 **nnnn** はストリングの長さ（9999 まで）で、**s** は対応するストリングの各キャラクタの ASCII Hex 値からなっています。例えば、 B0000454657374 では初めて 4 桁のキャラクタのストリングが登場する「Test」を前方検索します。DEC 数、 Hex 値、キャラクタコードについては A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

後方のストリングを検索する

B1　　現在のカーソル位置より後方にある「**s**」ストリングを検索し、カーソルは「**s**」ストリングに移動します。**Syntax =B1nnnnS**。 **nnnn** はストリングの長さ（9999 まで）で、**s** は対応するストリングの各キャラクタの ASCII Hex 値からなっています。例えば、 B1000454657374 では初めて 4 キャラクタのストリングが登場する「Test」を後方検索します。DEC 値、 Hex 値、キャラクタコードについては A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

合致しないキャラクタの前方を検索する

E6　　現在のカーソル位置より前方にある「**xx**」以外のキャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルを「**xx**」ではないキャラクタに移動させます。 **Syntax = E6xx**。 **xx** は、検索キャラクタの ASCII コードにコードに対する Hex 値を示しています。DEC 値、 Hex 値、キャラクタコードについては A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

合致しないキャラクタの後方を検索する

E7　　現在のカーソル位置より後方にある「**xx**」以外のキャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルは「xx」ではないキャラクタに移動します。 Syntax = E7xx 。 xx は、検索キャラクタの ASCII コードにコードに対する Hex 値を示しています。DEC 値、 Hex 値、キャラクタコードについては A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

その他のコマンド

キャラクタを無効にする

FB　　カーソルを他のコマンドで進めると、現在のカーソル位置から最大 15 の別のキャラクタをすべて無効にします。FC コマンドを実行することで、この機能を停止することができます。FB コマンドではカーソルが移動しませんので、ご注意ください。**Syntax = FBnnxxyy . .zz** 。**nn** は、無効にしたいキャラクタの数、**xxyy..zz** は、無効したいキャラクタの Hex 値です。

キャラクタの無効を停止する

FC　　キャラクタの無効を停止し、無効になったキャラクタをすべて削除します。**Syntax = FC**

キャラクタを置き換える

E4　　出力メッセージにある最大 15 桁 のキャラクタをカーソルを移動せずに変更。変更は、E5 コマンドを実行するまで続きます。**Syntax =E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2** 。**nn** は（変更前のキャラクタと変更後）のキャラクタの合計です。**xx1** は、変更前のキャラクタを、**xx2** は変更後のキャラクタを定義します。**zz1** と **zz2** まで同様です。

キャラクタの置き換えを停止する

E5　　キャラクタの変更を停止します。**Syntax = E5**

キャラクタを比較する

FE　　現在のカーソル位置にあるキャラクタをキャラクタ「**xx**」と比較します。キャラクタが同じ場合は、カーソルを 1 つ進めます。**Syntax = FExx** （xx は、比較するキャラクタの ASCII コードに対する Hex 値を示しています。DEC 値、 Hex 値、キャラクタコードについては A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

ストリングを比較する

B2　　入力メッセージにあるストリングをストリング「**s**」と比較します。ストリングが同じ場合は、カーソルをそのストリングの末尾まで移動させます。**Syntax= B2nnnnS** 。 **nnnn** はストリングの長さ（9999 まで）で、**s** は対応するストリングの各キャラクタの ASCII Hex 値からなっています。

例えば、B2000454657374 は現在のカーソル位置のストリングと 4 つのキャラクタストリング「 Test 」を比べます。DEC 値、 Hex 値、キャラクタコードについては A-3 ページの ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

数字をチェックする

EC　　現在のカーソル位置に ASCII 数字があることを確認します。ASCII 数字でない場合は、フォーマットを中止します。**Syntax = EC**

数字以外のキャラクタをチェックする

ED　　現在のカーソル位置に ASCII 数字以外のキャラクタがあることを確認します。キャラクタが数字の場合は、フォーマットを中止します。**Syntax = ED**

ディレーを挿入する

EF　　現在のカーソル位置から 49,995 ミリ秒までの（5 ミリ秒単位）ディレーを挿入します。**Syntax = Efnnnn**。**nnnn** は 5 ミリ秒単位でのディレーを示し、9999 までです。このコマンドはキーボードウェッジインターフェースの場合にのみ、使用可能です。

データを破棄する

B8　　データを破棄します。例えば、キャラクタ「A」で始まる Code 128 を破棄するとします。6-2 ページの **Step 4** で、**6A**（Code 128）を選択し、**Step 5** で **9999（すべての長さ）**を選択します。**B8FE41** コマンドを入力し、「A」で始まる Code 128 バーコードのデータを破棄します。**Syntax = B8。**

*注意：他のデータフォーマット設定が、この B8 コマンドに影響します。**Data Format Non-Match Error Tone***（*6-11 ページ**のデータフォーマット非適合エラーブザー）が有効な場合、スキャナはエラーブザーを鳴らします。逆に **Data Format Non-Match Error Tone** が無効になっている場合、コードの読み取りを行わないと同時に、エラーブザーもなりません。データフォーマットが有効になっているものの、要求しない設定*（*6-10 ページ**）になっている場合、B8 フォーマットに適合するバーコードでも通常通り読み取られて、そして出力されます。*

データフォーマッター

データフォーマッターを無効にすると、プリフィクスとサフィックスを含め、バーコードデータは読み取ったままホストに出力されます。

Data Formatter Off
（データフォーマッター　無効）

読み取ったデータをユーザーが作成・保存したデータフォーマットに合致させたい場合、以下の設定をデータフォーマットに適用することができます。

Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix

読み取ったデータはユーザーのデータフォーマットに合わせて調整され、プリフィクス、サフィックスも送信されます。

Data Formatter On, Not Required, Drop Prefix/Suffix

読み取ったデータは、データフォーマットに合わせて調整されます。データフォーマットが特定のシンボルの場合、それらのプリフィクス、サフィックスは送信されません。

Data Format Required, Keep Prefix/Suffix

読み取ったデータはデータフォーマットに合わせて調整され、プリフィクス、サフィックスも送信されます。ユーザーのデータフォーマットに合わない場合、すべてに対してエラーブザーが鳴らされ、そのバーコードのデータは送信されません。
エラーブザー無しでこのタイプのバーコード操作を行いたい場合は、 データフォーマット非適合エラーブザー をご覧ください。

Data Format Required, Drop Prefix/Suffix

読み取ったデータはデータフォーマットに合わせて調整されます。データフォーマットが特定のシンボルである場合、これらのプリフィクス、サフィックスが送信されません。ユーザーのデータフォーマットに合わない場合は、すべてエラーブザーが鳴らされます。エラーブザー無しでこのタイプのバーコード操作を行いたい場合は、データフォーマット非適合エラーブザーをご覧ください。

操作は以下から１つ選んでください。
初期設定 = Data Formatter On, Not, Required, Keep Prefix/Suffix

*** Data Formatter ON, Not Required, Keep Prefix/Suffix**
（データフォーマッター　有効、要求しない、プリフィクス/サフィックス あり）

Data Formatter ON, Not Required, Drop Prefix/Suffix
（データフォーマッター　有効、要求しない、プリフィクス/サフィックス なし）

Data Formatter Required, Keep Prefix/Suffix
（データフォーマッター　要求する、プリフィクス/サフィックス あり）

Data Formatter Required, Drop Prefix/Suffix
（データフォーマッター　要求する、プリフィクス/サフィックス なし）

データフォーマット非適合エラーブザー

ユーザーが要望するデータフォーマットに合わないバーコードが読み込まれた場合、通常、スキャナがエラーブザーを鳴らします。しかし、エラーブザーを聞くことなくバーコード読み込みを続けたい場合もあります。 **Data Format Non-Match Error Tone Off （データフォーマット非適合エラーブザー　無効）**バーコードを読み込むと、データフォーマットと一致しなかったデータは送信されず、エラーブザーもありません。非適合のバーコードがあったときにエラートーンを聞きたい場合は、 **Data Format Non-Match Error Tone On（データフォーマット非適合エラーブザー　有効）** バーコードを読み取ってください。
初期設定 = Data Format Non-Match Error Tone On

*** Data Format Non-match Error Tone On**
（データフォーマット非適合エラーブザー　有効）

Data Format Non-match Error Tone Off
（データフォーマット非適合エラーブザー　無効）

基準／代用 データフォーマット

データフォーマットは 4 種類保存することができ、それらのフォーマットを切り換えることができます。基準データフォーマットの場合は、0 で保存してください。それ以外のフォーマットは 1、2、3 のどれかで保存してください。フォーマットを使えるようにするには、以下のバーコードのいずか 1 つを読み取ってください。

Primary Data Format
（基準データフォーマット）

Data Format 1
（データフォーマット 1）

Data Format 2
（データフォーマット 2）

Data Format 3
（データフォーマット 3）

データフォーマットの切り替え

一回の読み取りだけでデータフォーマットの切り替えができます。以下のバーコードを代用データフォーマットで読み取り、前記で選択したフォーマット（基準、もしくは 1、2、3）へと戻します。

Single Scan – Primary Data Format1
（基準データフォーマットへ切り替え）

Single Scan-Data Format 1
（データフォーマット 1 へ切り替え）

Single Scan-Data Format 2
（データフォーマット 2 へ切り替え）

Single Scan-Data Format 3
（データフォーマット 3 へ切り替え）

7

シンボル

この章では、以下のメニュー項目について説明します。設定と初期設定については、第 11 章を参照してください。

- すべてのシンボル
- Aztec Code（アズテックコード）
- 中国郵便 – Hong Long 2 of 5
- 漢信コード
- Codabar（ コーダーバー）
- Codablock A
- Codablock F
- Code 11
- Code 128
- Code 32 Pharmaceutical (PARAF)
- Code 39
- Code 93
- Data Matrix（データマトリックス）
- EAN/JAN-13
- EAN/JAN-8
- GS1 合成コード
- GS1 データバー　拡張型
- GS1 データバー　限定型
- GS1 データバー　標準型
- GS1 エミュレーション
- GS1-128
- Interleaved 2 of 5（ITF コード）
- 韓国郵便
- Matrix 2 of 5（ マトリックス 2 of 5 ）
- MaxiCode（マキシコード）
- MicroPDF417
- PDF417
- MSI
- NEC 2 of 5
- 2 次元郵便コード
- 1 次元郵便コード
- QR Code コード
- Straight 2 of 5 IATA (2 バースタート/ストップ)
- Straight 2 of 5 Industrial (3 バースタート/ストップ)
- TCIF Linked Code 39 (TLC39)
- Telepen
- Trioptic Code
- UPC-A
- 拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13
- UPC-E0
- UPC-E1

すべてのシンボル

お使いのスキャナで可能なシンボルをすべてデコードしたい場合は、**All Symbologies On （すべてのシンボル　有効）**のバーコードを読み取ります。特定のシンボルだけを読み取りたい場合は、**All Simbologies Off （すべてのシンボル　無効）**を読み取り、その後 特定のシンボルに対して On バーコードを読み取ります。

All Symbologies On
（すべてのシンボル　有効）

All Symbologies Off
（すべてのシンボル　無効）

*注意：**All Symbologies On** を読み取っても、2 次元郵便コードの読み取りは有効になりません。*
2 次元郵便コードについては、別に設定してください。

読み取り桁数について

バーコードシンボルによっては、読み取り桁数を設定できます。読み取ったバーコードのデータ桁数が指定した読み取り桁数と一致しない場合、エラーブザーが鳴ります。スキャナに強制的に一定桁数のバーコードデータを読み取らせるため、最小と最大を同じ値に設定することも可能です。これは、読み取りエラーの削減に役立ちます。

例：桁数が 9 ～ 20 のバーコードだけをデコードする。

最小：09、最大：20

例：桁数が 15 のバーコードだけをデコードする。

最小：15、最大：15

初期設定の最小および最大読み取り桁数以外の値にする場合は、そのシンボルの説明に含まれているバーコード読み取り、次に本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートの読み取り桁数の数値と **Save （保存）**のバーコードを読み取ります。最小と最大、および初期設定は、それぞれのシンボル別設定に記載されていますので、そちらを参照してください。

Codabar

【Codabar すべての設定を初期化】

CBRDFT.

Codabar　有効/無効

CBRENA1.

*** On**
（有効）

CBRENA0.

Off
（無効）

Codabar　スタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信の有無を選択できます。
初期設定＝ Don't Transmit（送信しない）

CBRSSX1.

Transmit
（送信する）

CBRSSX0.

*** Do not transmit**
（送信しない）

Codabar チェックキャラクタ

Codabar チェックキャラクタは、いろいろな「モジュラス」を用いて作成します。モジュラス 16 チェックキャラクタを用いた Codabar のバーコードだけを読み取るよう、スキャナを設定できます。
初期設定値 ＝ No Check Character（チェックキャラクタ なし）

No Check Character（チェックキャラクタなし） は、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

Validate and Transmit（認証および送信） に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷された Codabar のみ読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

Validate, but Don't Transmit（認証、送信しない） に設定すると、チェックキャラクタと共に印刷された Codabar バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは、読み取ったデータと一緒に送信されません。

*** No Check Character**
（チェックキャラクタなし）

Validate Modulo 16, but Do Not Transmit
（モジュラス 16 有効、送信しない）

Validate Modulo 16 and Transmit
（モジュラス 16 有効、送信する）

Codabar の連結

Codabar には、連結サポート機能があります。連結機能を有効にすると、「D」のスタートキャラクタがあるバーコードと、「D」のストップキャラクタがあるバーコードに隣接する Codabar を検索します。この場合、2 つのデータは 1 つに連結され、「D」キャラクタは省略されます。

連結されていない単独の「D」Codabar をデコードしないようにするには、**Required（要求する）** を選択します。この選択をしても、「D」のスタート/ストップ キャラクタがない Codabar には影響ありません。

On
（有効）

Required
（要求する）

*** Off**
（無効）

Codabar の読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能桁数 = 2 ～ 60　　最短の初期設定値 ＝ 4　　最長の初期設定値 ＝ 60

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Code 39

【Code 39　すべての設定を初期化】

Code 39 の有効/無効

*** On**
（有効）

Off
（無効）

Code 39 スタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信の有無を選択できます。
初期設定値 ＝ Don't Transmit（送信しない）

Transmit
（送信する）

*** Do Not Transmit**
（送信しない）

Code 39 チェックキャラクタ

No Check Character（チェックキャラクタなし） は、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit（有効、送信しない）に設定すると、チェックキャラクタが印刷された Code 39 バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタと読み取ったデータと一緒に送信しません。

Validate and Transmit（有効、送信する） に設定すると、チェックキャラクタが印刷された Code 39 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

初期設定値＝ No Check Character（チェックキャラクタなし）

*** No Check Character**
（チェックキャラクタなし）

Validate, but Do Not Transmit
（有効、送信しない）

Validate and Transmit
（有効、送信する）

Code 39 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能読み取り桁数 ＝ 0 ～ 48　　最短の初期設定値 ＝ 0　　最長の初期設定値 ＝ 48

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Code 39 の連結

この機能により、複数の Code 39 バーコードのデータを付加してからホストシステムに送信できます。この機能を有効にすると、スキャナはスペースで始まる Code 39 バーコード（スタートおよびストップシンボルを除く）を保存し、すぐにはデータを送信しません。バーコードを読み取った順にデータを保存し、それぞれから最初のスペースを削除します。スペース以外のキャラクタで始まる Code 39 バーコードを読み取ると、保存したデータを読み取った順で送信します（FIFO）。
初期設定値＝ Off（無効）

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Code 32 Pharmaceutical（PARAF）

Code 32 Pharmaceutical は、イタリアの薬局で使用されている Code 39 の一種です。PARAF とも呼ばれます。

注意：Code 32 Pharmaceutical のバーコードを読み取る場合は、Trioptic Code （7-38 ページ）を必ず無効にしてください。

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Full ASCII

Full ASCII Code 39 デコーディングを有効にすると、バーコード内のある一定のキャラクタペアが単独のキャラクタとして解釈されます。例えば、「$V」は ASCII キャラクタの「SYN」として、「/C」は「#」としてデコードされます。
初期設定値＝ Off（無効）

NUL %U	DLE $P	SP SPACE	0 0	@ %V	P P	‘ %W	p +P
SOH $A	DC1 $Q	! /A	1 1	A A	Q Q	a +A	q +Q
STX $B	DC2 $R	“ /B	2 2	B B	R R	b +B	r +R
ETX $C	DC3 $S	# /C	3 3	C C	S S	c +C	s +S
EOT $D	DC4 $T	$ /D	4 4	D D	T T	d +D	t +T
ENQ $E	NAK $U	% /E	5 5	E E	U U	e +E	u +U
ACK $F	SYN $V	& /F	6 6	F F	V V	f +F	v +V
BEL $G	ETB $W	‘ /G	7 7	G G	W W	g +G	w +W
BS $H	CAN $X	(/H	8 8	H H	X X	h +H	x +X
HT $I	EM $Y	) /I	9 9	I I	Y Y	i +I	y +Y
LF $J	SUB $Z	* /J	: /Z	J J	Z Z	j +J	z +Z
VT $K	ESC %A	+ /K	; %F	K K	[%K	k +K	{ %P
FF $L	FS %B	, /L	< %G	L L	\ %L	l +L	| %Q
CR $M	GS %C	- -	= %H	M M	] %M	m +M	} %R
SO $N	RS %D	. .	> %I	N N	^ %N	n +N	~ %S
SI $O	US %E	/ /O	? %J	O O	_ %O	o +O	DEL %T

キャラクタペアの「/M」と「/N」は、それぞれマイナス記号とピリオドになります。「/P」から「/Y」までは、「0」~「9」になります。

C39ASC1.

Full ASCII On
（Full ASCII 有効）

C39ASC0.

*** Full ASCII Off**
（Full ASCII 無効）

Code 39 コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（ページ A-6 の『印刷バーコードのコードページマッピング』を参照）、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されます。

C39DCP.

Code 39 Code Page
（Code 39 コードページ）

Interleaved 2 0f 5 (ITF)

【Interleaved 2 of 5　すべての設定を初期化】

Interleaved 2 0f 5 (ITF) の有効/無効

*** On**
（有効）

Off
（無効）

Interleaved 2 of 5（ITF）　チェックデジット

No Check Digit（チェックデジットなし） は、チェックデジットの有無に関係なくスキャナがバーコードデータを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit（有効、送信しない） に設定すると、チェックデジットが印刷された ITF バーコードだけを読み取りますが、チェックデジットを読み取ったデータと一緒に送信することはありません。

Validate and Transmit（有効、送信する） に設定すると、チェックデジットが印刷された ITF バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。

初期設定値 ＝ No Check Digit（チェックデジットなし）

*** No Check Digit**
（チェックデジット 無効）

Validate, but Don't Transmit
（有効、送信しない）

Validate and Transmit
（有効、そして送信する）

Interleaved 2 of 5 (ITF) の読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能桁数 ＝ 2 ～ 80　　最短の初期設定値 ＝ 4　　最長の初期設定値 ＝ 80

Minimum Message Length
（最小桁数）

Maximum Message Length
（最大桁数）

NEC 2 of 5

【NEC 2 of 5 すべての設定を初期化】

NEC 2 of 5　有効/無効

*** On**
（有効）

Off
（無効）

NEC 2 of 5　チェックデジット

No Check Digit（チェックデジットなし） は、チェックデジットの有無に関係なくスキャナがバーコードデータを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit（有効、送信しない） に設定すると、チェックデジットが印刷された NEC 2 of 5 バーコードだけを読み取りますが、チェックデジットを読み取ったデータと一緒に送信することはありません。

Validate and Transmit（有効、送信する） に設定すると、チェックデジットが印刷された NEC 2 of 5 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。

初期設定 ＝ No Check Digit（チェックデジットなし）

*** No Check Digit**
（チェックデジット無し）

Validate and Transmit
（有効、送信あり）

Validate, but Don't Transmit
（有効、送信なし）

NEC 2 of 5　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能桁数 ＝ 2 ～ 80　　最短の初期設定値 ＝ 4　　最長の初期設定値 ＝ 80

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Code 93

【Code 93　すべての設定を初期化 】

Code 93 有効/無効

*** On**
有効

Off
無効

Code 93 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能桁数 ＝ 0 ～ 80　　最短の初期設定値 ＝ 0　　最長の初期設定値 ＝ 80

Minimum Message Length
最小読み取り桁数

Maximum Message Length
最大読み取り桁数

Code 93 連結機能

この機能を使用すると、複数の Code 93 バーコードをホストデバイスに送信する前に一緒連結させることができます。スペースで始まる Code 93 （スタート/ストップシンボルを除く）を読み取った順に保存し、各バーコードからスペースを削除します。スペース以外で始まる Code 93 バーコードを読み取ると、スキャナは結合したデータをホストデバイスに送信します。
初期設定 = Off（無効）

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Code 93 コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（ページ A-6 の「印刷バーコードのコードページマッピング」を参照）、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されます。

Code 93 Code Page
（Code 93 コードページ）

Straight 2 of 5 Industrial（3 バースタート/ストップ）

【 Straight of 5 Industrial　すべての設定を初期化 】

R25DFT.

Straight 2 of 5 Industrial 有効/無効

R25ENA1.

*** On**
（有効）

R25ENA0.

Off
（無効）

Straight 2 of 5 Industrial 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能桁数 ＝1 ～48　　最短の初期設定値 ＝4　　最長の初期設定値 ＝48

R25MIN.

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

R25MAX.

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Straight 2 of 5 IATA（2 バースタート/ストップ）

【 IATA　すべての設定を初期化 】

Straight 2 of 5 IATA 有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能桁数 ＝1 ～48　　最短の初期設定値 ＝4　　最長の初期設定値 ＝48

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Matrix 2 of 5

【 Matrix 2 of 5　すべての設定を初期化 】

X25DFT.

Matrix 2 of 5 有効/無効

X25ENA1.

On
（有効）

X25ENA0.

*** Off**
（無効）

Matrix 2 of 5 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能桁数 ＝1 ～80　　最短の初期設定値 ＝4　　最長の初期設定値 ＝80

X25MIN.

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

X25MAX.

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Code 11

【Code 11　すべての設定を初期化】

Code 11 有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

チェックデジットの要求

Code 11 バーコードに必要なチェックデジットを 1 つまたは 2 つに設定します。
初期設定値 ＝ Two Check Digits（チェックデジット 2 つ）

One Check Digit
（チェックデジット 1 つ）

*** Two Check Digit**
（チェックデジット 2 つ）

Code 11 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能桁数 ＝ 1 ～80　　最短の初期設定値 ＝ 4　　最長の初期設定値 ＝ 80

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Code 128

【Code 128　すべての設定を初期化】

Code 128 有効/無効

*** On**
（有効）

Off
（無効）

ISBT 128 連結機能

1994 年、国際輸血学会（ISBT）は、血液の重要情報を一定の方法でやり取りするための基準を定めました。ISBT フォーマットを使用するには、有料ライセンスが必要です。ISBT 128 のアプリケーション仕様では、次の内容を規定しています。1）血液製品にラベル表示をするための重要なデータ要素、2）セキュリティが高度で設計のスペース効率が良いことから Code 128 の使用を現在は推奨すること、3）隣接シンボルの連結をサポートする Code 128 の変形、4）血液製品ラベルのバーコードの標準レイアウト。
初期設定値 = Off（無効）

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Code 128 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
設定可能桁数 = 0 ～80　　最短の初期設定値 = 4　　最長の初期設定値 = 80

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Code 128 連結機能

この機能では、複数の Code 128 バーコードをホストデバイスに送信する前に連結して送信することが可能です。スキャナが連結を示すキャラクタを含んだ Code 128 バーコードを読み取ると、連結を示すキャラクタを含まないバーコードを読み取るまで Code 128 バーコードのデータを一時的に保存します。バーコードデータは読み取った順に出力されます（FIFO）。
初期設定 = Off（無効）

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Code 128 コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（ページ A-6 の「印刷バーコードのコードページマッピング」を参照）、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されます。

Code 128 Code Page
（Code 128 コードページ）

GS1-128

【GS1-128　すべての設定を初期化】

GS1-128　有効/無効

*** On**
（有効）

Off
（無効）

GS1-128　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については 7-2 ページの『読み取り桁数』を参照してください。
最小と最大 =1～80、最小の初期設定＝3、最大の初期設定＝80

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Telepen

【Telepen　すべての設定を初期化】

Telepen 有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Telepen 出力

AIM Telepen Output（AIM Telepen 出力）を使用すると、スキャナはスタート/ストップパターン 1 のシンボルを読み取り、標準の Full ASCII（スタート/ストップパターン 1）としてデコードします。

Original Telepen Output（オリジナル Telepen 出力）を選択すると、スタート/ストップパターン 1 のシンボルを読み取り、オプションの Full ASCII（スタート/ストップパターン 2）を含む圧縮された数値としてデコードします。
初期設定= AIM Telepen Output（AIM Telepen 出力）

*** AIM Telepen Output**
（AIM Telepen 出力）

Original Telepen Output
（オリジナル Telepen 出力）

Telepen 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については 7-2 ページの『読み取り桁数』を参照してください。
最小と最大 =1～60、最短の初期設定＝1、最大の初期設定＝60

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

UPC-A

【UPC-A　すべての設定を初期化】

UPC-A 有効/無効

*** On**
（有効）

Off
（無効）

UPC-A チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定= On（無効）

*** On**
（有効）

Off
（無効）

UPC-A システム番号

通常は読み取ったデータの最初に UPC シンボルのシステム番号を送信しますが、送信しないように設定できます。
初期設定= On（無効）

*** On**
（有効）

Off
（無効）

UPC-A　アドオン

読み取ったすべての UPC-A データの最後に 2 桁または 5 桁のアドオンを追加します。
初期設定= Off for both 2 Digit and 5 Digit Addenda（2 桁と 5 桁の両方のアドオン追加 禁止）

2 Digit Addenda On
（アドオン 2 桁許可）

*** 2 Digit Addenda Off**
（アドオン 2 桁禁止）

5 Digit Addenda On
（アドオン 5 桁許可）

*** 5 Digit Addenda Off**
（アドオン 5 桁禁止）

UPC-A アドオンの要求

Required（要求する）バーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのある UPC-A バーコードだけを読み取ります。7-26 ページに記載された 2 桁または 5 桁のアドオンを有効にする必要があります。
初期設定= Not Required（要求しない）

Required
（要求する）

*** Not Required**
（要求しない）

UPC-A アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースができます無効にすると、スペースはできません。
初期設定= Off（無効）

*** On**
（有効）

Off
（無効）

拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13

次のバーコードを使用し、拡張クーポンコード付き UPC-A および EAN-13 を有効または無効にします。もし初期設定（Off）のままにしておくと、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを 1 つのバーコードと見なします。
Allow Concatenation（連結許可）コードを読み取ると、スキャナがクーポンコードと拡張クーポンコードを 1 つの読み取りで認識した場合、どちらも別々のシンボルとして送信します。それ以外の場合は、読み取ったはじめのクーポンコードを送信します。
Require Concatenation（連結必須）コードを読み取ると、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを 1 つとして読み取り、データを送信します。両方のコードが読まれない限り、データは出力されません。
初期設定= Off（無効）

*** Off**
（無効）

Allow Concatenation
（連結許可）

Require Concatenation
（連結必須）

クーポン GS1 データバー 出力

もし UPC と GS1 データバー 両方のバーコードを含んだクーポンを読み取った場合、GS1 データバーのデータのみ読み取り、そして出力したい場合もあるかもしれません。**GS1 Output On （GS1 データバーのみ出力　有効）**を読み取ると、GS1 データバーバーコードだけを読み取り、そのデータだけを出力します。
初期設定 = GS1 Output Off（GS1 データバーのみ出力　無効）

CPNGS10.
*** GS1 Output Off**
（GS1 データバーのみ出力　無効）

CPNGS11.
GS1 Output On
（GS1 データバーのみ出力　有効）

UPC-E0

【UPC-E0　すべての設定を初期化】

UPC-E0 有効/無効

ほとんどの UPC バーコードは、「0」のナンバーシステムコードで始まります。これらのバーコードには、UPC-E0 の設定を使用します。「1」のナンバーシステムコードで始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、EAN/JAN-13（6-45 ページ）を使用します。
初期設定= On

*** UPC-E0 On**
（UPC-E0 有効）

UPC-E0 Off
（UPC-E0 無効）

UPC-E0 の拡張

UPC-E バーコードを 12 桁の UPC-A フォーマットに拡張します。
初期設定= Off

On
（有効）

*** Off**
（無効）

UPC-E0 アドオン要求

Required（要求する）バーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのある UPC-E バーコードだけを読み取ります。
初期設定= Not Required（要求しない）

Required
（要求する）

*** Not Required**
（要求する）

UPC-E0 アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンデータとの間にスペースができます。無効にすると、スペースはできません。
初期設定= Off

*** On**
（有効）

Off
（無効）

UPC-E0　チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定 = On（有効）

*** On**
（有効）

Off
（無効）

UPC-E0 システム番号

UPC-A シンボルのシステム番号は通常読み取ったデータの最初に送信されますが、UPC-E の拡張を使用している場合、送信しないように設定されます。
初期設定= On

UPENSX1.
*** On**
（有効）

UPENSX0.
Off
（無効）

UPC-E0 アドオン

読み取ったすべての UPC-E データの最後に 2 桁または 5 桁のアドオンを追加します。
初期設定= Off for both 2 Digit and 5 Digit Addenda（2 桁と 5 桁の両方のアドオン追加　無効）

UPEAD21.
2 Digit Addenda On
（アドオン 2 桁許可）

UPEAD20.
*** 2 Digit Addenda Off**
（アドオン 2 桁禁止）

UPEAD51.
5 Digit Addenda On
（アドオン 5 桁許可）

UPEAD50.
*** 5 Digit Addenda Off**
（アドオン 5 桁禁止）

UPC-E1

ほとんどの UPC バーコードは、「0」のシステム番号で始まります。これらのバーコードには、UPC-E0（7-29 ページ）を使用します。「1」のシステム番号で始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、**UPC-E1 On（UPC-E1　有効）**を*選択してください。*
初期設定＝ Off（無効）

UPEEN11.
UPC-E1 On
（UPC-E1　有効）

UPEEN10.
*** UPC-E1 Off**
（UPC-E1　無効）

EAN/JAN-13

【EAN/JAN-13　すべての設定を初期化】

EAN/JAN-13 有効/無効

*** On**
（有効）

Off
（無効）

EAN/JAN-13 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定= On

*** On**
（有効）

Off
（無効）

EAN/JAN-13 アドオン

読み取ったすべての EAN/JAN-13 データの最後に 2 桁または 5 桁のアドオンを追加します。
初期設定= Off for both 2 Digit and 5 Digit Addenda（2 桁と 5 桁の両方のアドオン追加　無効）

2 Digit Addenda On
（アドオン 2 桁許可）

*** 2 Digit Addenda Off**
（アドオン 2 桁禁止）

5 Digit Addenda On
（アドオン 5 桁許可）

*** 5 Digit Addenda Off**
（アドオン 5 桁禁止）

EAN/JAN-13 アドオン要求

Required（要求する）バーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのある EAN/JAN-13 バーコードだけを読み取ります。
初期設定= Not Required（要求しない）

Required
（要求する）

*** Not Required**
（要求しない）

EAN/JAN-13 アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースができます。無効にすると、スペースはできません。
初期設定= Off（無効）

E13ADS1.

*** On**
（有効）

E13ADS0.

Off
（無効）

注意：拡張クーポンコード付き EAN13 を有効もしくは無効にしたい場合は、拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13（7-27 ページ）を参照してください。

ISBN 変換

ISBN は EAN-13 バーコードを用いて本にプリントされているものです。EAN-13 Bookland シンボルを同等の ISBN 番号フォーマットに変換するには、下の On バーコードを読み取ってください。
初期設定= Off（無効）

E13ISB1.

On
（有効）

E13ISB0.

*** Off**
（無効）

EAN/JAN-8

【EAN/JAN-8　すべての設定を初期化】

EA8DFT.

EAN/JAN-8 有効/無効

EA8ENA1.

***　On**
（有効）

EA8ENA0.

Off
（無効）

EAN/JAN-8 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定= On（有効）

EA8CKX1.

*** On**
（有効）

EA8CKX0.

Off
（無効）

EAN/JAN-8 アドオン

読み取ったすべての EAN/JAN データの最後に 2 桁または 5 桁のデジットを追加します。
初期設定= Off for both 2 Digit and 5 Digit Addenda（2 桁と 5 桁の両方のアドオン追加 許可）

2 Digit Addenda On
（アドオン 2 桁許可）

*** 2 Digit Addenda Off**
（アドオン 2 桁禁止）

5 Digit Addenda On
（アドオン 5 桁許可）

*** 5 Digit Addenda Off**
（アドオン 5 桁禁止）

EAN/JAN-8 アドオン要求

Required（要求する）バーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのある EAN/JAN-8 バーコードだけを読み取ります。
初期設定= Not Required（要求しない）

Required
（要求する）

*** Not Required**
（要求しない）

EAN/JAN-8 アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースができます。無効にすると、スペースはできません。
初期設定= On（有効）

*** On**
（有効）

Off
（無効）

MSI

【MSI　すべての設定を初期化】

MSI 有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

MSI チェックキャラクタ

MSI バーコードにはいろいろな種類のチェックキャラクタが使用されていますが、タイプ 10 のチェックキャラクタのある MSI バーコードを読み取るようにスキャナを設定できます。
初期設定＝Validate Type 10, but Don't Transmit（タイプ10 有効、送信しない）

Validate Type 10/11 and Transmit（タイプ 10/11 有効、送信する）に設定すると、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷された MSI バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

Validate Type 10/11, but Don't Transmit（タイプ 10/11 有効、送信しない）に設定した場合は、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷された MSI バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは読み取ったデータといっしょに送信しません。

*** Validate Type 10, but Don't Transmit**
（タイプ 10 有効、送信なし）

Validate 2 Type 10 Characters, but Don't Transmit
（タイプ 10 有効、2 キャラクタ、送信なし）

Validate Type 10 then Type 11 Character, but Don't Transmit
（タイプ 10、そしてタイプ 11 有効、送信なし）

Disable MSI Check Characters
（MSI チェックキャラクタ無効）

Validate Type 10 and Transmit
（タイプ 10 有効、送信あり）

Validate 2 Type 10 Characters and Transmit
（タイプ 10 有効、2 キャラクタ、送信あり）

Validate Type 10 then Type 11 Character and Transmit
（タイプ 10、そしてタイプ 11 有効、送信あり）

MSI 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については 7-2 ページの『読み取り桁数』を参照してください。
最小と最大＝1～80、最短の初期設定＝3、最大の初期設定＝80

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

GS1 データバー 標準型（オムニディレクショナル）

【GS1 データバー標準型 すべての設定を初期化】

RSSDFT.

GS1 データバー標準型　有効/無効

RSSENA1.

*** On**
（有効）

RSSENA0.

Off
（無効）

GS1 データバー限定型（リミテッド）

【GS1 データバー限定型　すべての設定を初期化】

RSLDFT.

GS1 データバー限定型　有効/無効

RSLENA1.

*** On**
（有効）

RSLENA0.

Off
（無効）

GS1 データバー拡張型（エクスパンデッド）

【GS1 データバー拡張型　すべての設定を初期化 】

RSEDFT.

GS1 データバー拡張型　有効/無効

RSEENA1.

*** On**
（有効）

RSEENA0.

Off
（無効）

GS1 データバー拡張型　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については 7-2 ページの『読み取り桁数』を参照してください。
最小と最大 =1～80、最小の初期設定＝3、最大の初期設定＝80

RSEMIN.

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

RSEMAX.

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Trioptic コード

注意：Code 32 Pharmaceutical コード（7-8 ページ参照）を読み取る場合には、Trioptic コードを無効に設定してください。

Trioptic コードとは磁気記憶媒体のラベリングに用いられるものです。

Trioptic コード　有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Codablock A

【Codablock A　すべての設定を初期化】

Codablock A　有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Codablock A　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝1 ～600、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝600

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Codablock F

【Codablock F　すべての設定を初期化】

Codablock F　有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Codablock F　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝1 ～2048、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝2048

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

PDF 417

【PDF417　すべての設定を初期化】

PDF417　有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

PDF417　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝1 ～2750、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝2750

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

MacroPDF417

MacroPDF417 は、複数の PDF417 コードに含まれている非常に大量のデータをエンコードできるよう改良された PDF417 コードです。この機能を有効にすると、複数のコードを集めて一つのデータストリングに仕立てます。
初期設定 = On（有効）

*** On**
（有効）

Off
（無効）

MicroPDF417

【MicroPDF417　すべての設定を初期化】

MicroPDF417　有効/無効

*** On**
（有効）

Off
（無効）

MicroPDF417　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝1 ～366、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝366

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

GS1 コンポジットシンボル

リニアコードと固有の 2D 合成成分とが複合され、GS1 コンポジット シンボルと呼ばれる新たなクラスを形成します。 GS1 コンポジット シンボルにより、すでに使用されているシンボルとの共存が可能になります。

On
（有効）

*** Off**
（無効）

UPC/EAN バージョン

UPC または EAN 1 次元バーコードを含む GS1 コンポジット シンボルをデコードするときは、**UPC/EAN Version On（UPC/EAN バージョン　有効）**を読み取ります。（GS1-128、もしくは GS1 バーコードを含む GS1 コンポジットシンボルには影響しません。）
初期設定 = UPC/EAN Version Off（UPC/EAN バージョン　無効）

UPC/EAN Version On
（UPC/EAN Version　有効）

*** UPC/EAN Version Off**
（ UPC/EAN Version　無効）

注意：クーポンが UPC コードと GS1 データバーコード両方を含んでいて、GS1 データーバーのバーコードデータのみを出力したい場合があるかもしれません。そういった場合は、クーポン GS1 データバー出力（7-28 ページ）を参照してください。

GS1 コンポジットシンボル　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝ 1 ～2435、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝2435

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

GS1 エミュレーション

スキャナは任意の GS1 データキャリアからの出力を自動的にフォーマットし、同等の GS1-128 もしくは GS1 データバーシンボルでデコードされる内容をエミュレートすることができます。 GS1 データキャリアには UPC-A、UPC-E、EAN-13 ならびに EAN-8、ITF-14、 GS1-128 ならびに GS1-128 データバーと GS1 コンポジットがあります。

(GS1 データに対応するアプリケーションは、すべて単純化できます。データキャリアのタイプを 1 つ認識するだけですむからです。）

GS1-128 Emulation（GS1-128 エミュレーション）を読み取ると、すべての小売コード (U.P.C.、 UPC-E、EAN8、EAN13) が 16 桁に拡張されて出力されます。 AIM ID が有効な場合、その値は GS1-128 AIM ID,]C1 となります(A-1 ページのシンボルチャート参照)。

GS1 Databar Emulation（GS1 データーバーエミュレーション）を読み取ると、すべての小売コード (U.P.C.、UPC-E、 EAN8、EAN13) が 16 桁に拡張されて出力されます。 AIM ID が有効な場合、その値は GS1-データバー AIM ID,]em となります(A-1 ページのシンボルチャート参照)。

l**GS1 Code Expansion Off（GS1 コード エミュレーション　無効）**を読み取ると、小売コード拡張が無効となり、UPC-E 拡張は UPC-E0 拡張（7-29 ページ）設定によって制御されます。 AIM ID が有効な場合、その値は GS1-128 AIM ID,]C1 となります (A-1 ページのシンボルチャート参照)。

EAN8 to EAN13 Conversion を読み取ると、すべての EAN8 バーコードは EAN13 フォーマットに転換されます。

初期設定 = GS1 Emulation Off（GS1 エミュレーション　有効）

GS1-128 Emulation
（GS1-128 エミュレーション）

GS1 Code Expansion Off
（GS1 コード拡張　無効）

*** GS1 Emulation Off**
（ GS1 エミュレーション　無効）

GS1 DataBar Emulation
（ GS1 データバーエミュレーション）

EAN8 to EAN13 Conversion
（EAN8 から EAN13 へ転換）

TCIF Linked Code 39（TLC39）

このバーコードは、Code 39 のバーコード部分と MicroPDF417 のスタックコード部分による複合コードになっています。どのバーコードスキャナにも Code39 バーコードを読み取る能力がありますが、MicroPDF417 の部分をデコードできるのは **TLC39 On （TLC39　有効）**に設定したときだけです。バーコード部分は、TLC39 が無効でも Code39 としてデコードできます。
初期設定 = Off（無効）

On
（有効）

*** Off**
（無効）

QR コード

【QR コード　すべての設定を初期化】

QR コード　有効/無効

この設定は QR コードならびに MicroQR コードどちらにも対応しています。

*** On**
（有効）

Off
（無効）

QR コード　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝1 ～7089、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝7089

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

QR コード　連結機能

この機能では、複数の QR コードのデータをホストデバイスに送信する前に連結させることが可能です。連結開始のキャラクタを含んだ QR コードを読み取ると、QR コードに含まれた情報に従って、決められた数量の QR コードを一時的に保存します。適切な数量の QR コードを読み取ったら、コード内の情報で定義された順番でデータが出力されます。
初期設定 = On（有効）

QRCAPP1.

*** On**
（有効）

QRCAPP0.

Off
（無効）

QR コード　コードページ

QR コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（A-6 ページの『印刷バーコードのコードページマッピング』を参照）、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されます。

QRCDCP.

Data Matrix

【Data Matrix　すべての設定を初期化】

IDMDFT.

Data Matrix　有効/無効

IDMENA1.

*** On**
（有効）

IDMENA0.

Off
（無効）

Data Matrix　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝1 ～3116、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝3116

IDMMIN.

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

IDMMAX.

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Data Matrix　連結機能

この機能では、複数の Data Matrix コードのデータをホストデバイスに送信する前に連結させることが可能です。連結開始のキャラクタを含んだ Data Matrix コードを読み取ると、Data Matrix コードに含まれた情報に従って、決められた数量の Data Matrix コードを一時的に保存します。適切な数量の Data Matrix コードを読み取ったら、コード内の情報で定義された順番でデータが出力されます。
初期設定 = On（有効）

*** On**
（有効）

Off
（無効）

Data Matrix　コードページ

Data Matrix コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（A-6 ページの『印刷バーコードのコードページマッピング』を参照）、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されます。

Maxi コード

【Maxi コード　すべての設定を初期化】

Maxi コード　有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

Maxi コード　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝1～150、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝150

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Aztec コード

【Aztec コード　すべての設定を初期化】

Aztec コード　有効/無効

*** On**
（有効）

Off
（無効）

Aztec コード　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝1 ～3832、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝3832

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

Aztec　連結機能

この機能では、複数の Aztec コードのデータをホストデバイスに送信する前に連結させることが可能です。連結開始のキャラクタを含んだ Aztec コードを読み取ると、Aztec コードに含まれた情報に従って、決められた数量の Aztec コードを一時的に保存します。適切な数量の Aztec コードを読み取ったら、コード内の情報で定義された順番でデータが出力されます。
初期設定 =Off（無効）

AZTAPP1.

On
（有効）

AZTAPP0.

*** Off**
（無効）

Aztec　コードページ

Aztec コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（A-6 ページの『印刷バーコードのコードページマッピング』を参照）、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されます。

AZTDCP.

中国漢信（Han Xin）コード

【漢信コード　すべての設定を初期化】

HX_DFT.

漢信コード　有効/無効

HX_ENA1.

On
（有効）

HX_ENA0.

*** Off**
（無効）

漢信コード　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝1～7833、最短の初期設定＝1、最長の初期設定＝7833

HX_MIN.

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

HX_MAX.

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

2 次元郵便コード

以下は、読み込み可能な 2 次元郵便コードと認識可能な 2 次元郵便コードの組み合わせです。1 つの 2 次元郵便コードしか有効にできません。2 つ目の郵便コード設定を有効にすると場合、初めの設定は上書きされます。
初期設定= 2D Postal Codes Off（2 次元郵便コード　無効）

*** 2D Postal Codes Off**
（2 次元郵便コード　無効）

2 次元郵便コード（単独）

British Post On
（英国郵便　有効）

Intelligent Mail Bar Code On
（インテリジェントメール　有効）

KIX Post On
（KIX　有効）

Postal-4i On
（Postal-4i　有効）

Australian Post On
（オーストラリア郵便　有効）

Canadian Post On
（カナダ郵便　有効）

Japanese Post On
（日本郵便　有効）

Planet Code On
（Planet コード　有効）

※ 7-60 ページの Planet Code チェックデジットも参照のこと。

Postnet On
（Postnet　有効）
Postnet チェックデジットの項も
参照してください。

InfoMail On
（Info Mail　有効）

Postnet with B and B' Fields On,
(Postnet B および B' フィールド　有効)

2 次元郵便コード（組み合わせ）

Infomail and British Post On
（Infomail および英国郵便　有効）

Intelligent Mail Bar Code and
Postnet with B and B' Fields On
（Intelligent Mail バーコード、
Postnet B および B' フィールド　有効）

Postnet and
Postal-4i On
（Postnet および Postal-4i　有効）

Postnet and Intelligent Mail Barcode On
（Postnet および Intelligent Mail バーコード　有効）

Postal-4i and Intelligent Mail barcode On
（Postal-4i および Intelligent Mail　有効）

Postal-4i and Postnet with B and B' Fields On
（Postal-4i、Postnet B および B' フィールド　有効）

Planet Code and Postnet On
（Planet コードおよび Postnet コード　有効）

Postnet with B and B' Fields On
（Postnet B および B' フィールド　有効）

Planet Code and Intelligent Mail Barcode On
（Planetコードおよび Intelligent Mailコード　有効）

Planet code, Postnet, and
Intelligent Mail Barcode On
（Planet、Postnet、および
Intelligent Mail コード　有効）

Postnet, Postal-4i, and Intelligent Mail Barcode On
（Postnet、Postal-4i、
Intelligent Mail コード　有効）

Planet Code, Intelligent Mail Barcode
and Postnet with B and B' Fields On
（Planet コード、Intelligent Mail コード、
Postnet B および B' フィールド　有効）

Planet Code, Postal-4i, Intelligent Mail Barcode,
and Postnet On
（Planet コード、Postal-4i、
Intelligent Mail コード、Postnet　有効）

Planet Code And Postal-4i On
（Planet コードおよび Postal-4i　有効）

Planet Code, Postnet, and Postal-4i On
（Planet コード、Postnet、Postal-4i　有効）

Planet Code, Postal-4i,
and Intelligent Mail Barcode On
（Planet コード、Postal-4i、
Intelligent Mail コード　有効）

Planet Code, Postal-4i, and
Postnet with B and B' Fields On
（Planet コード、Postal-4i、
Postnet B および B' フィールド　有効）

Postal-4i, Intelligent Mail Barcode,
and Postnet with B and B' Fields On
（Postal-4i、Intelligent Mail Barcode、
Postnet B および B' フィールド　有効）

Planet Code, Postal-4i, Intelligent Mail Barcode,
and Postnet with B and B' Fields On
（Planet コード、Postal-4i、Intelligent Mail コード、
Postnet B および B' フィールド　有効）

Planet コード　チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定= Don't Transmit（送信なし）

Transmit Check Digit
（チェックデジットを送信する）

*** Don't Transmit Check Digit**
（チェックデジットを送信しない）

Postnet　チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定= Don't Transmit（送信なし）

Transmit Check Digit
（チェックデジットを送信する）

*** Don't Transmit Check Digit**
（チェックデジットを送信しない）

オーストラリア郵便　判読

この機能では、オーストラリア郵便で使用されている 4-State バーコードに含まれている顧客フィールドにどのような判読が適用されるかを制御します。

Bar Output（バー出力）
バーコードのパターンを「0123」フォーマットで一覧にします。

Numeric N Table（数字 N テーブル）
N Table を使用して、フィールドを数字データとして判読します。

Alphanumeric C Table（英数字 C テーブル）
C Table を使用して、フィールドを英数字データとして判読します。詳細については、オーストラリア郵便仕様書を参照してください。

Combination C and N Table（C および N コンビネーションテーブル）
C Table または N Table を使用して、フィールドを判読します。

AUSINT0.

*** Bar Output**
（バー出力）

AUSINT1.

Numeric N Table
（数字 N テーブル）

AUSINT2.

Alphanumeric C Table
（英数字 C テーブル）

AUSINT3.

Combination C and N Table
（C および N テーブルコンビネーション）

1 次元郵便コード

1 次元の郵便コードを以下に挙げます。いかなる 1 次元郵便コードの組み合わせでも同時に有効にすることが可能です。

中国郵便コード（Hong Kong 2 of 5）

【中国郵便コード（Hong Kong 2 of 5） すべての設定を初期化】

CPCDFT.

中国郵便コード（Hong Kong 2 of 5） 有効/無効

CPCENA1.

On
（有効）

CPCENA0.

*** Off**
（無効）

中国郵便コード（Hong Kong 2 of 5） 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については 7-2 ページの『読み取り桁数』を参照してください。
最小と最大＝1～80、最小の初期設定＝3、最大の初期設定＝80

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

韓国郵便

【韓国郵便コード　すべての設定を初期化】

韓国郵便　有効/無効

On
（有効）

*** Off**
（無効）

韓国郵便　読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について（7-2 ページ）を参照してください。
最長と最短＝2 ～80、最短の初期設定＝4、最長の初期設定＝48

Minimum Message Length
（最小読み取り桁数）

Maximum Message Length
（最大読み取り桁数）

韓国郵便　チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定 = Don't Transmit（送信なし）

Transmit Check Digit
（送信あり）

*** Don't Transmit Check Digit**
（送信なし）

8

イメージングコマンド

スキャナは、デジタルカメラのように画像の取り込み、処理、および転送を行うことができます。以下のコマンドでスキャナの機能実行方法を変更することができます。

注意：スキャナをスタンドに置いている場合は、スタンド使用時センサーモードを無効にして画像を取り込んでください。（4-12 ページのスタンド使用時センサーモードを参照）

シングル使用ベース

モディファイア付きのイメージングコマンドは、スキャナにシングル使用ベースで命令を送信し、１つの画像取り込みに対し動作します。取り込みが終わると、スキャナはイメージングの初期設定へと戻ります。設定を恒久的に変えたければ、 **Serial default commands** （第 11 章参照）を使います。 **Serial default commands** を用いると、設定は新しいものになり、スキャナの恒久的設定となります。

コマンドシンタクス

複数のモディファイアやコマンドは１つのシーケンス内で行われます。追加モディファイアが同じコマンドに適応している場合は、そのモディファイアをコマンドに追加するだけです。

例えば、 **Image Snap command** に **setting the Imaging Style to 1P** や **Wait for Trigger to 1T** のような２つのモディファイアを追加するには、 **IMGSNP1P1T** と入力します。

*注意：イメージ取り込みコマンド(IMGSNP or IMGBOX)を行ったあと、その画像をターミナルで見るには **IMGSHP command** を続けます。*

１つのシーケンスにコマンドを追加するには、新しいコマンドはそれぞれにセミコロンで分離してください。

例えば、上記のシーケンスに **Image Ship command** を追加する場合は、**IMGSNP1P1T;IMGSHP** と入力します。イメージングコマンドは以下のとおりです。

Image Snap - IMGSNP (8-2 ページ)
Image Ship - IMGSHP (8-5 ページ)
Intelligent Signature Capture - IMGBOX (8-14 ページ)

それぞれのコマンドのモディファイアは、コマンド説明のあとです。

注意：それぞれのコマンド説明を含むイメージは単なる例であり、ご使用の結果得られる効果はこのマニュアル内のものと異なることがあります。ご使用の結果得られる出力クオリティはライトや取り込む画像や対象の質、画像や対象からの距離によって異なります。質の高い画像を得るためには、取り込む画像や対象からスキャナを 10.2～15.2cm 離してお使いになることをお勧めします。

Step1 - IMGSNAP を用いて写真を撮影する

イメージスナップ : IMGSNP

トリガーボタンを引く度、あるいはイメージスナップ（IMGSNP）コマンドを実行する度に画像が取り込まれます。イメージスナップコマンドには、メモリでの画像表示を変えることができる多種多様なモディファイアが用意されています。モディファイアは、かならず数字で始まり、（大文字小文字に関係無く）文字で終わります。IMGSNP コマンドには、任意の数のモディファイアを追加できます。

例えば、 **IMGSNP2G1B** というコマンドを使用すれば、画像を撮影したりゲインを増やしたりでき、また画像を撮影した後、ブザー音を鳴らすことができます。

IMGSNP モディファイア

P　　Imaging Style（撮影スタイル）
イメージスナップのスタイルを設定します。

0P　　Decoding Style
撮影パラメータが合うまで数フレームを撮影できます。最後のフレームを後で利用できます。

1P　　Photo Style (初期設定)
簡単なデジタルカメラに似ています。

2P　　Manual Style
高度なスタイルなので上級者向けです。スキャナを最も自由に設定できますが、自動撮影機能はありません。

B　　Beeper（ブザー）
画像の撮影後、ブザー音を鳴らします。

0B　ブザーが鳴りません。（初期設定）

1B　画像が取り込まれるとブザー音が鳴ります。

T　　Wait for Trigger（トリガーの待機）
画像撮影の前に、ボタンが引かれるのを待ちます。これは Photo Style (1P)使用時のみ有効です。

0T　すぐに画像を撮影します（初期設定）。

1T　ボタンが引かれるのを待った後、画像を撮影します。

L　　LED State（LED の状態）
LED をオン/オフするのかどうか、いつオン/オフするのかを決定します。ID カードなど、カラー文書の写真を撮影する場合、特にスキャナをスタンドに置くときは、周囲照明（0L）をお勧めします。スキャナを手に持つ場合は、LED 照明（1L）をお勧めします。LED State は、Decoding Style（0P） 使用時には利用できません。

0L　LED オフ（初期設定）

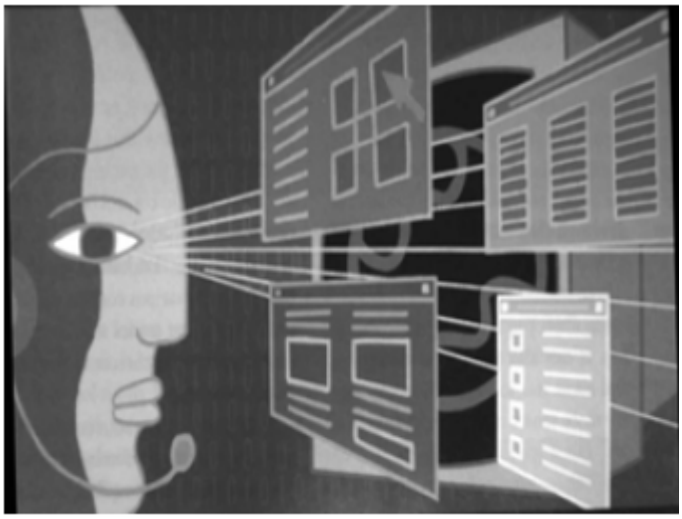
1L　LED オン

E　　Exposure（露光）

Exposure は、マニュアル時 (2P) のみお使いいただくことができ、露光時間を設定します。これはカメラのシャッタースピードに似ています。露光時間はスキャナが画像を取り込む時間の長さを決定します。明るい日には、撮影のための光線が十分ですので露光時間も非常に短くてすみますが、夜、光がほどんどない状態では露光時間をかなり長くする必要があります。単位は 127 ミリ秒です。
初期設定値 = 7874

nE 範囲： 1 - 7874

蛍光灯下での 7874E の場合の露光例



蛍光灯下での 100E の場合の露光例

G　　Gain（ゲイン）

Gain は Manual Style (2P) 時のみお使いいただくことができ、ボリュームコントロールのような役割を果たします。ゲインモディファイアが信号を増幅させ、ピクセル値を修正します。ゲインを増やすと、画像の乱れも増幅されます。

1G　ゲインなし（初期設定）

2G　ゲイン　中

4G　ゲイン　高

8G　ゲイン　最大

1G ゲインの場合

4G ゲインの場合

8G ゲインの場合

W　　Target White Value（ホワイト値）

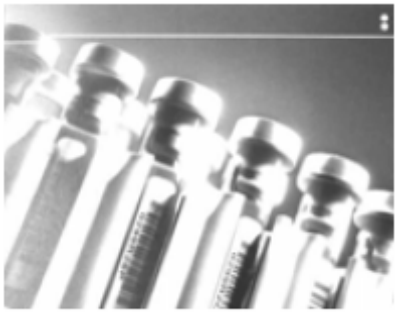
取り込む画像のグレースケールの中心値をターゲットに設定します。コントラストの高い文書の接写画像を取り込むためには、75 などの低めの値を推奨します。設定を高くすると撮影時間が長くなって画像が明るくなりますが、高すぎると画像が露出オーバーになります。Target White Value は Photo Style（1P）使用時だけ使用できます。

初期設定＝ 125

nW 範囲： 0～ 255

75W ホワイト値の場合

125W ホワイト値の場合



200W ホワイト値の場合

D　　Delta for Acceptance（ホワイト値許容範囲）

ホワイト値設定用の許容範囲を設定します（「W – Target White Value」を参照)。 Photo Style (1P) 使用時のみ利用できます。.

初期値 = 25

nD 範囲： 0 ～ 255

U - Update Tries（アップデートトライ）

D - Delta for Acceptance に達するためにスキャナが取得するフレームの最大数のことです。 Photo Style (1P) 使用時のみ利用できます。

初期設定＝ 6

nU 範囲： 0 ～10

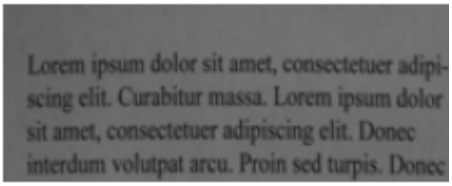
%　　Target Set Point Percentage（ターゲットポイント比率）

取り込んだ画像の明暗値のターゲットポイントを設定します。設定 75% は、ピクセルの 75% がターゲットのホワイト値以下で、ピクセルの 25% がターゲットのホワイト値を超えることを意味します。通常の環境でこの設定を初期設定から変更することは、推奨していません。グレースケール値を変更するには、W - Target White Value を使用します。

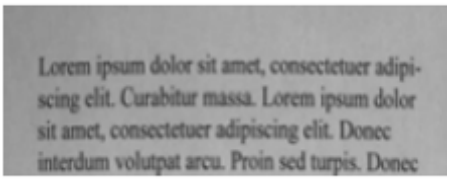
初期設定= 50

n% 範囲: 1 ～ 99

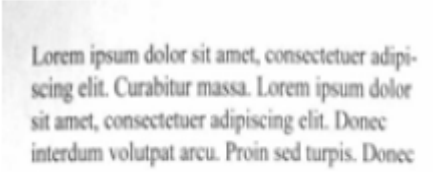
ターゲットポイント 97%の場合


Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipi-
scing elit. Curabitur massa. Lorem ipsum dolor
sit amet, consectetuer adipiscing elit. Donec
interdum volutpat arcu. Proin sed turpis. Donec

ターゲットポイント 50%の場合


Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipi-
scing elit. Curabitur massa. Lorem ipsum dolor
sit amet, consectetuer adipiscing elit. Donec
interdum volutpat arcu. Proin sed turpis. Donec

ターゲットポイント 40%の場合


Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipi-
scing elit. Curabitur massa. Lorem ipsum dolor
sit amet, consectetuer adipiscing elit. Donec
interdum volutpat arcu. Proin sed turpis. Donec

Step 2 - IMGSHP を使った画像送信

画像送信- IMGSHP

画像は、トリガーを引くたびに、あるいは 画像送信（IMGSNP）コマンドを実行することで取り込まれます。最後の画像がつねにメモリに保存されます。IMGSHP コマンドでその画像を「送信」できます。
画像送信コマンドには、スキャナが出力する画像の設定を変更するのに使用できる多種多様のモディファイアがあります。モディファイアは、送信画像には効力がありますが、メモリの画像には効力がありません。モディファイアはかならず数字で始まって文字（大文字小文字に関係無し）で終わります。IMGSHP コマンドには、任意の数のモディファイアを追加できます。

例えば、**IMGSNP;IMGSHP8F75K26U** というコマンドを使用すると、ガンマ補正と文書画像フィルタリングを行ってビットマップ画像を送ることができます。

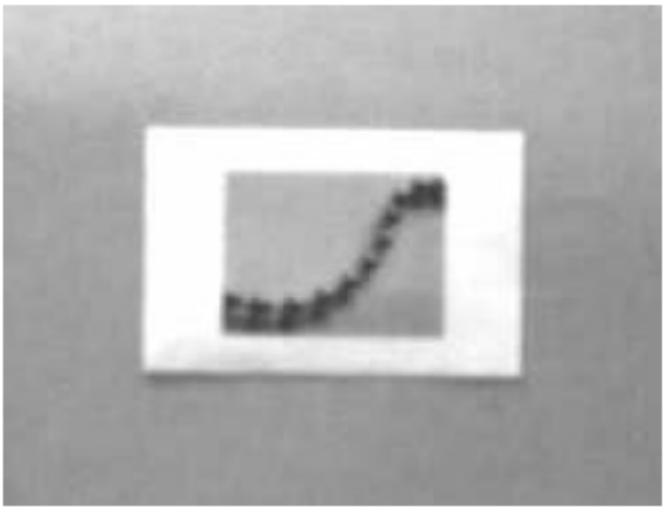
IMGSHP モディファイア

A　　Infinity Filter（無限遠フィルタ）
非常に長距離（10 フィートまたは 3m 以上）から撮影した写真の質を向上させます。ただし、Infinity Filter を IMGSHP の モディファイア (8-5 ページ)とともに用いることはできません。

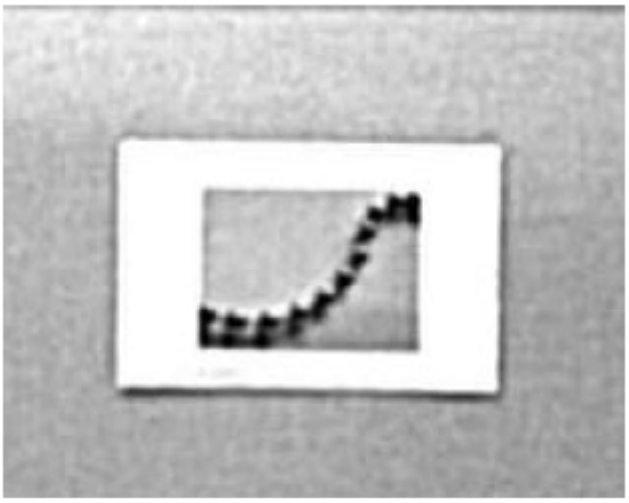
0A　　無限遠フィルタ　無効（初期設定）

1A　　無限遠フィルタ　有効

3.66m の距離付近での無限遠フィルタ無効 (0A) 撮影した場合



3.66m の距離付近での無限遠フィルタ有効(1A) 撮影した場合



C　　Compensation（圧縮）
画像全体の照度の変化を考慮するために画像をフラットにします。

0C　　圧縮　無効（初期設定）

1C　　圧縮　有効

圧縮が無効（0C）の場合

圧縮が有効（1C）の場合

D　　Pixel Depth（ピクセル濃度）
送信画像のピクセルあたりのビット数を示します。（KIM または BMP フォーマットのみ）

8D　　ピクセルあたり 8 ビット、グレースケール画像（初期設定）

1D　　ピクセルあたり 1 ビット、白黒画像

E　　Edge Sharpen（エッジシャープニング）
エッジシャープニングフィルタで画像の縁をクリーンにし、画像を更に美しくシャープにします。エッジシャープニングは画像を鮮明にしますが、元々の画像のきれいに撮影された詳細部も取り除いてしまいます。エッジシャープニングフィルタの強度は 1〜24 から設定できます。23E を入力するとエッジが最もシャープになりますが、画像内のノイズも増えます。

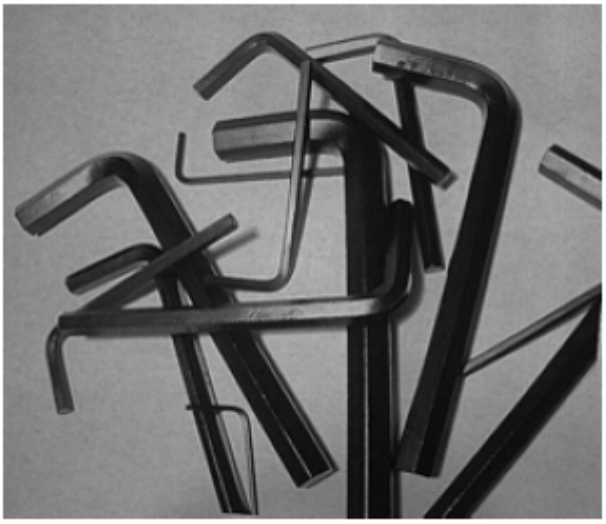
0E　　画像をシャープにしません（初期設定）。

14E　　標準画像用にエッジをシャープにします。

ne　　*n* の値でエッジをシャープにします（*n* ＝ 1 - 24）。

0E でのエッジシャープニング

24E でのエッジシャープニング



F　　File Format（ファイルフォーマット）
希望する画像のフォーマットを示します。

0F　　KIM フォーマット

1F　　TIFF バイナリ

2F　　TIFF バイナリグループ 4、圧縮

3F　　TIFF グレースケール

4F　　非圧縮バイナリ (左上から右下、1 ピクセル/ビット、行の最後を 0 で埋める)

5F　　非圧縮グレースケール（左上から右下、ビットマップフォーマット）

6F　　JPEG 画像 （初期設定）

8F　　BMP フォーマット (右下から左上、非圧縮)

10F　　TIFF カラー圧縮画像

11F　　TIFF カラー無圧縮画像

12F　　JPEG カラー画像

14F　　BMP カラーフォーマット

15F　　BMP 無圧縮 未加工画像

H　　Histogram Stretch（ヒストグラムストレッチ）
送信画像のコントラストを高くします。画像フォーマットによっては利用できません。

0H　　ストレッチなし（初期設定）

1H　　ヒストグラムストレッチ

ヒストグラム　ストレッチ(0H) の場合

ヒストグラム　ストレッチ (1H) の場合

I　　Invert Image（画像反転）
画像を X 軸または Y 軸周りで回転させるのに使用します。

1ix　　X 軸で画像を回転（画像の上下が反転）

1iy　　Y 軸で画像を回転（画像の左右が反転）

回転なし

回転 （1ix）の場合

回転（1iy）の場合

IF　　Noise Reduction（ノイズ低減）
白黒ノイズを低減します。

0if　　白黒ノイズの低減なし（初期設定）

1if　　白黒ノイズの低減

白黒ノイズ の低減なし（0if）の場合

白黒ノイズ の低減あり（1if）の場合

IR　　Image Rotate（画像回転）

0ir　　撮影したとおり（正しい向き）の画像（初期設定）
1ir　　画像を右に 90 度回転
2ir　　画像を 180 度回転（上下逆）
3ir　　画像を左に 90 度回転

画像の回転なし（0ir）

画像の回転あり（2ir）

画像の回転あり（1ir）

画像の回転あり（3ir）

J　　JPEG Image Quality（JPEG 画像の質）

JPEG 画像フォーマット選択の際の希望画質を設定します。数字を大きくすると画質が高くなりますが、ファイルは大きくなります。小さくすると、圧縮量が大きくなって転送速度が速くなり、画質は落ちますが、ファイルは小さくなります。

初期設定＝ 50

nJ　画質係数 n（n：1 ~ 100）の値で可能な限り画像を圧縮します。

0J　最低画質（最小ファイル）

100J　最高画質（最大ファイル）

K　　Gamma Correction（ガンマ補正）

ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを決定します。ガンマ補正を使用すると、画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定を低くすると、それだけ画像が暗くなります。テキスト画像に最も適した設定は 50K です。

0K　ガンマ補正　無効（初期設定）

50K　標準の文書画像を明るくするためにガンマ補正を適用

nK　ガンマ補正の係数 n（n ＝0～1,000）を適用

ガンマ補正（0K）の場合

ガンマ補正（50K）の場合

ガンマ補正（255K）の場合

L, R, T, B, M　　Image Cropping（画像切り取り）

注意：Image Cropping は IMGSHP のモディファイア（8-5 ページ）と一緒に使用しないでください。

この機能は上下左右のピクセル座標を指定して画像のウィンドウを送ります。機器の列には 0～1279 の番号が、行には 0～959 の番号が付けられています。

nL　送信画像の左端は、メモリー内の画像の n 列に対応します。
範囲： 000 ～ 640　（初期設定 = 0）

nR　送信画像の右端は、メモリー内の画像の n-1 列に対応します。
範囲：000～ 640　（初期設定　=全列）

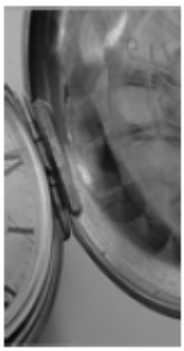
nT　送信画像の上端は、メモリー内の画像の n 行に対応します。
範囲： 000 ～480　（初期設定 = 0）

nB　送信画像の下端は、メモリー内の画像の n-1 行に対応します。
範囲： 000 ～ 480　（初期設定＝全行）

切り取りなし

切り取り設定（300R）

切り取り設定（300L）



切り取り設定(200B)

切り取り設定（200T）

代わりに、画像の外側マージンから切り取るピクセルの数を指定すると、中央のピクセルだけが送信されます。

nM Margin：画像の左から n 列、右から n+1 列、上から n 行、下から n+1 行を切り取ります。残った中央のピクセルを送ります。
範囲：0～ 238 (初期設定 = 0、または全画像)

切り取り設定 （238M）

P **Protocol（プロトコル）**
画像の送信に使用します。プロトコルは画像をホストに送る際、２種の機能に対応しており、データの送信に使用するプロトコル（Hmodem：追加のヘッダー情報を持つ Xmodem 1K の変形）と、送信される画像のフォーマットに対応します。

0P 無し（生データ）

2P 無し（USB の初期設定）

3P 圧縮 Hmodem（RS-232 の初期設定）

4P Hmodem

S **Pixel Ship（ピクセル送信）**
ピクセル送信はオリジナルサイズに対する比率に拡大縮小します。スペースで規則的に区切られた一定のピクセルだけを送ることで画像を間引くのに使用できます。

例えば、**4S** では 4 行おきに 4 ピクセルごとに送信します。送るピクセルを減らすと、画像が小さくなりますが、画像がある数値まで達すると、使用できなくなります。

1S　すべてのピクセル送信（初期設定）

2S　縦横両方で、2 ピクセルごとに送る（初期設定）

3S　縦横両方で、3 ピクセルごとに送る

ピクセル送信が 1S の場合

ピクセルの送信が 2S の場合

ピクセルの送信が 3S の場合

U　**Document Image Filter（テキスト画像フィルター）**
送信されたテキスト画像の縁をシャープにし、それ以外の部分を滑らかにします。このフィルタはガンマ補正 (8-10 ページ)とともに使用します。スキャナをスタンドに置いた状態で、次のコマンドを使用して画像を取り込みます。

IMGSNP1P0L168W90%32D

このフィルタは通常、標準のエッジシャープニング コマンド（8-13 ページ）よりも良好な JPEG 圧縮が可能です。このフィルタは、白黒のみの画像（ピクセルあたり 1 ビット）を送信するときにも有効です。最適設定は 26U です。

0U　文書画像フィルタオフ（初期設定）

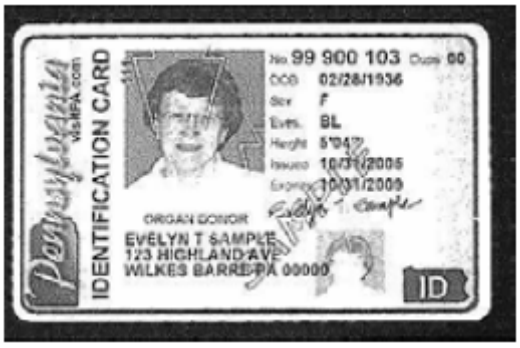
26U　文書画像フィルタを標準的な文書画像に適用する

nU　グレースケールのしきい値 n を使用して、画像コントラストが低いときに数値を下げます。

1U　E –エッジシャープニング（8-7 ページ） 22e と同等の効果があります。
範囲：0 ~ 255

Image Filter が 0U の場合

Image filter が 26U の場合



V　　Blur Image（画像ぼかし）
境界線のハードエッジに隣接するピクセルと画像内の陰影領域を平均化して、変わり目を滑らかにします。

0V　　ぼかさない（初期設定）

1V　　ぼかす

画像のぼかし　無効 (0V)

画像のぼかし　有効 (1V)

W　　Histogram Ship（ヒストグラム送信）
ヒストグラムによって、画像の色調範囲、つまりキーのタイプをすばやく認識することができます。ローキーな画像は影に、ハイレベルな画像はハイライトに、標準的な（アベレージレベルの）画像は中間調にディテールが集中します。このモディファイは画像用のヒストグラムを送信します。

0W　　ヒストグラムを送信しない（初期設定）

1W　　ヒストグラムを送信する

ヒストグラムを使用しない場合

ヒストグラムが左にある場合

画像サイズの互換性

画像送信が正確に 640x480 ピクセルを返すようにアプリケーションを設定している場合、 **Force VGA Resolution （NGA 解像度の強制）**バーコードを読み取ります。
初期設定=Native Resolution（元の解像度）

Force VGA Resolution
（VGA 解像度の強制）

*** Native Resolution**
（元々の解像度）

署名の取り込み

IMGBOX を用いれば、バーコードに近接している署名取り込みエリアのサイズや位置を修正することができます。これにより、署名取り込みエリアを特定のフォームに仕立てることができます。 IMGBOX を使うためには、署名ボックスがバーコードに近い既知位置にあるようフォームを設定する必要があります。署名エリアからバーコードまでの水平および垂直距離を指定できるだけでなく、全体的なサイズを入力できます。また、取り込んだ署名画像の最終出力の解像度とファイル形式も設定できます。

注意： IMGBOX コマンドは、以下のいずれかのバーコードによって使用することができます。

PDF417、 Code 39、 Code 128、 Aztec、Codabar、Interleaved 2 of 5（ITF）

これらのシンボルが読み取られると、IMGBOX コマンドを受け付けるために画像が維持されます。

署名取り込みの最適化

署名取り込みを頻繁に使う場合は、最適化をしてください。ただし、このモードを有効にするとバーコード読み取り速度は遅くなります。ご注意ください
初期設定 = Off（無効）

Optimize On
（最適化　有効）

Optimize Off
（最適化　無効）

以下の IMGBOX の例は Quick View（クイックビュー）ソフトウェアを用いて実行したものです。このソフトウェアは www.honeywellaidc.com から入手できます。 **Software Downloads** をクリックし、 Products list から **4600r** を選び、 **Quick View Software Utility** を選択してください。

署名取り込みアプリケーションの例を以下に示します。この例では、エイマーを署名取り込みエリアの中心に置き、トリガーを引きます。一度ブザーが鳴り、スキャナが Code 128 バーコードを読み取り、データがホストシステムへと転送されたことを知らせます。 ホストからそのコードの下の署名取り込みエリアの座標を特定するために IMGBOX コマンドが送られ、その署名を含むエリアのみ画像としてホストに送るよう示します。

この例を試す方法：エイマーを（バーコードではなく）署名エリアにそろえ、トリガーを引きます。

トリガーを引いた後に、以下の IMGBOX コマンドストリングを送信します。

例：**IMGBOX245w37h55y.**

注意：コマンドストリングにおいて大文字/小文字は重要ではありません。ここでは説明の為に用いています。

すると、以下のような画像が得られます。

IMGBOX コマンドには、スキャナから出力される署名画像のサイズや表示を変えることができる多種多様なモディファイアが用意されています。モディファイアは転送される画像に影響しますが、メモリの画像には影響しません。
モディファイアは、必ず数字で始まり、（大文字小文字に関係無く）文字で終わります。すべての番号のモディファイが IMGBOX コマンドに付加されます。

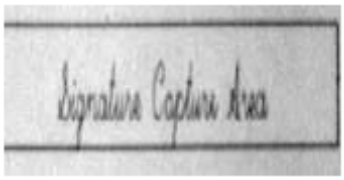
注意： IMGBOX コマンドはウィンドウサイズ（高さと幅）が指定されない限り、NAK 返信を行います。署名取り込みエリアの高さ(8-17 ページ) と署名取り込みエリアの幅(8-18 ページ)を参照してください。

IMGBOX モディファイア

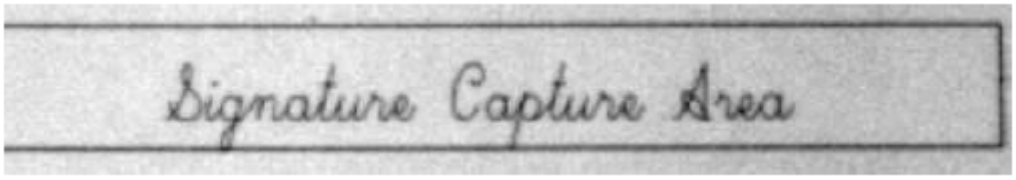
A　　Output Image Width（出力画像の幅）

この設定は、画像の幅を変えるのに使用します。この設定を使用した場合、解像度(R)は 0 に設定されます。

幅を 200A に設定した場合



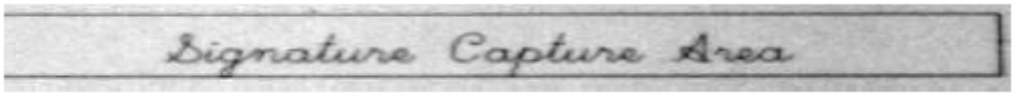
幅を 600A に設定した場合



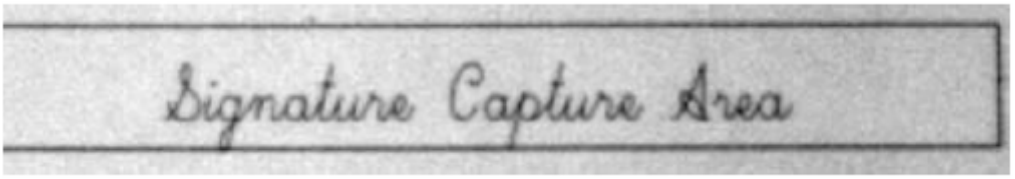
B　　Output Image Height（出力画像の高さ）

この設定は、画像の高さを変えるのに使用します。この設定を使用した場合、解像度(R)は 0 に設定されます。

高さを 50B に設定した場合



高さを 100B に設定した場合



D　　Pixel Depth（ピクセル濃度）
送信画像のピクセルあたりのビット数を示し、グレースケールか白黒かを設定します。

8D　ピクセルあたり 8 ビット、グレースケール画像

1D　ピクセルあたり 1 ビット、白黒画像

F　　File Format（ファイル形式）
画像を保存するファイル形式を示します。

0F　KIM フォーマット
1F　TIFF バイナリ
2F　TIFF　バイナリグループ 4、圧縮
3F　TIFF グレースケール
4F　非圧縮バイナリ
5F　非圧縮グレースケール
6F　JPEG 画像 (初期設定)
7F　輪郭画像
8F　BMP フォーマット

H　　Height of Signature Capture Area（署名取り込みエリアの高さ）
取り込む領域の高さは 0.01 インチ（約 0.026cm）ごとに測られます。例では、取り込みエリアの高さは 3/8 インチ（約 0.953cm）で、H の値＝.375/0.01 = 37.5 となります。

例：

K　　Gamma Correction（ガンマ補正）
ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを決定します。ガンマ補正を使用すると、画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定を低くすると、それだけ画像が暗くなります。適正設定は 50K です。

0K　ガンマ補正オフ（初期設定）
50K　標準の文書画像を明るくするためにガンマ補正を適用
nK　ガンマ補正の係数 n（n ＝1～255）を適用

ガンマ補正　0K

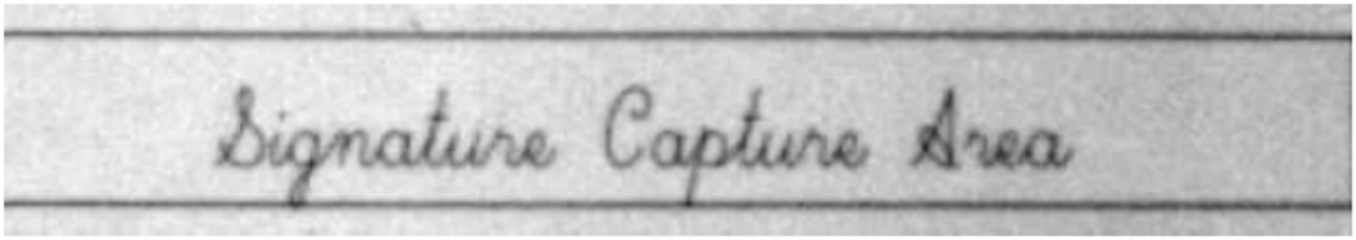
ガンマ補正　50K

ガンマ補正　255K

R **Resolution of Signature Capture Area（署名取り込みエリアの解像度）**
最小単位ごとにスキャナが出力するピクセル数です。R の値を大きくすると画質が良くなりますが、ファイルサイズも大きくなります。値は 1000 からです。スキャナは自動的に、最初の桁と次の桁の間に小数点を挿入します。

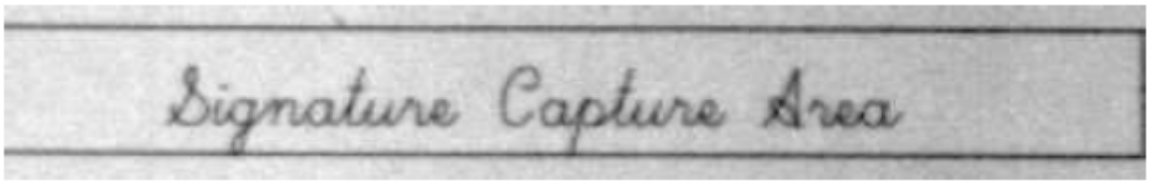
例えば、 解像度 2.5 を指定するには、2500 を用います。A および B のモディファイアを使用するときは、0 に設定します (8-16 ページの出力画像の幅と出力画像高さを参照のこと) 。

解像度設定　0R



解像度設定　1000R

解像度設定　2000R



S **Bar Code Aspect Ratio（バーコード様相比）**
IMGBOX に用いられる寸法はバーコードの最小エレメントサイズの倍数で測られます。**Bar Code Aspect Ratio** ではバーコードの高さとナローエレメントの幅を設定することができます。例えば、ナローエレメントの幅が 0.01 インチ（約 0.026cm）、バーコードの高さが 0.4 インチ（約 1.016cm）の場合、S の値 ＝ 0.4/0.01 ＝ 40 となります。

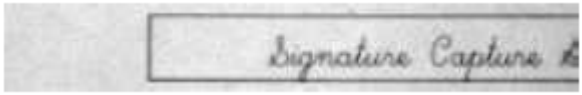
W **Width of Signature Capture Area（署名取り込みエリアの幅）**
取り込むエリア域の高さは 0.01 インチ（約 0.026cm）ごとに測られます。例えば、取り込むエリアの幅が 2.4 インチ（約 6.096cm）の場合、W値＝ 2.4/0.01 = 240 となります（ここでは画像エリアを少し大きめに調節するため、 245 を用います）。

例：

X　　Horizontal Bar Code Offset（水平バーコードオフセット）
署名取り込みエリアの中心を水平方向にずらします。プラス数値は水平中心を　右へ移動させ、マイナス数値は左へ移動させます。数値はバーの最小幅の倍数を用います。

水平バーコードオフセットを 75X に設定した場合

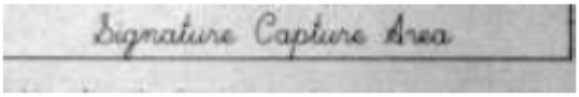
水平バーコードオフセットを-75X に設定した場合



Y　　Vertical Bar Code Offset（縦バーコードオフセット）
署名取り込みエリアの中心を縦方向にずらします。プラス数値は水平中心を上へ移動させ、マイナス数値は下へ移動させます。数値はバーの最小幅の倍数を用います。

縦バーコードオフセット設定：-7Y の場合

縦バーコードオフセット設定：65Y の場合



RF　初期設定のイメージングデバイス

このスキャナはイメージングコマンドプロセス (IMGSHP, IMGSNP, IMG-BOX) に対応しており、 EZConfig-Scanning (10-4 ページ参照) やその他のアプリケーションはスキャナと直接接続されているかのように画像機能を実行することができます。これを行うためには、RF_DID (RF Default Imaging Device)と呼ばれるメニューコマンドを使用します。 RF_DID とは、イメージングコマンドを受け取るスキャナ (BT_NAM) の名称です。

RF_DID の初期設定は「*」で、イメージングコマンドがすべての連結するスキャナに送信されることを示します。特定のスキャナに送るようにするには RF_DIDscanner_name に変更してください。各スキャナのポート、ワークグループ、スキャナ名とアドレスのレポートを作成するには 3-8 ページの 「ページング」の項目を参照 してください。また、各スキャナに固有のネームをつける場合は、3-24 ページの「スキャナ名」の項目を参照してください。

9

インターフェースキー

以下のキーボードファンクションコード、HEX/ASCII 値、Full ASCII「CTRL」+ は、スキャナと用いられるすべてのターミナルで適用されます。2-18 ページ『Control + ASCII 有効化モード』の項目を参照してください。

ファンクションコード	HEX/ASCII 値	Full ASCII “CTRL” +
NUL	00	@
SOH	01	A
STX	02	B
ETX	03	C
EOT	04	D
ENQ	05	E
ACK	06	F
BEL	07	G
BS	08	H
HT	09	I
LF	0A	J
VT	0B	K
FF	0C	L
CR	0D	M
SO	0E	N
SI	0F	O
DLE	10	P
DC1	11	Q
DC2	12	R
DC3	13	S
DC4	14	T
NAK	15	U
SYN	16	V
ETB	17	W
CAN	18	X
EM	19	Y
SUB	1A	Z
ESC	1B	[
FS	1C	\
GS	1D	]
RS	1E	^
US	1F	-

「Full ASCII 「CTRL」+ 」の列にある最後の 5 つのキャラクタ（[\ ] 6 -）は、米国でのみ対応します。次の表は、これらの 5 つのキャラクタの国別の同等キャラクタを示します。

国名	コード				
アメリカ	[	\	]	6	-
ベルギー	[	<	]	6	-
スカンジナビア	8	<	9	6	-
フランス	^	8	$	6	=
ドイツ			+	6	-
イタリア		\	+	6	-
スイス		<	..	6	-
イギリス	[	¢	]	6	-
デンマーク	8	\	9	6	-
ノルウェー	8	\	9	6	-
スペイン	[	\	]	6	-

サポートされるインターフェースキー

ASCII	HEX	IBM AT/XT および PS2 互換機、WYSE PC/ST のサポートキー	アップル Mac/iMac のサポートキー
NUL	00	Reserved	Reserved
SOH	01	Enter (KP)	Enter/Numpad Enter
STX	02	Caps Lock	CAPS
ETX	03	ALT make	ALT make
EOT	04	ALT break	ALT break
ENQ	05	CTRL make	CTRL make
ACK	06	CTRL break	CTRL break
BEL	07	CR/Enter	RETURN
BS	08	Reserved	APPLE make
HT	09	Tab	TAB
LF	0A	Reserved	APPLE break
VT	0B	Tab	TAB
FF	0C	Delete	Del
CR	0D	CR/Enter	RETURN
SO	0E	Insert	Ins Help
SI	1F	Escape	ESC
DLE	10	F11	F11
DC1	11	Home	Home
DC2	12	Print	Prnt Scrn
DC3	13	Back Space	BACKSPACE
DC4	14	Back Tab	LSHIFT TAB
NAK	15	F12	F12
SYN	16	F1	F1
ETB	17	F2	F2
CAN	18	F3	F3
EM	19	F4	F4
SUB	1A	F5	F5
ESC	1B	F6	F6
FS	1C	F7	F7
GS	1D	F8	F8
RS	1E	F9	F9
US	1F	F10	F10
DEL	7F		BACKSPACE

10

ユーティリティ

すべてのシンボル体系へのテストコードID プリフィクス追加

これを選択すると、デコードされたシンボルの前にコード ID を送信することができます。（各シンボルを識別する単独のシンボルキャラクタコードについては、A-1 ページからのシンボルチャートを参照してください。）
ここでは、まず現在のプリフィクスをすべて消去し、その後すべてのシンボルについてコード ID プリフィクスを設定します。これは、電源を入れなおすと削除される一時設定です。

Add Code I.D. Prefix to All Symbologies (Temporary)
（全シンボルへ体系のコード ID プリフィクス追加（一時的設定））

デコーダーの改訂情報の表示

次のバーコードを読み取り、デコーダーの改訂情報を出力します。

Show Decoder Revision
（デコーダーの改訂情報の表示）

ドライバー改訂情報の表示

次のバーコードを読み取り、ドライバーの改訂情報を出力します。ドライバーは画像の取り込みを制御します。

Show Scan Driver Revision
（ドライバーの改訂情報の表示）

ソフトウェアの改訂情報表示

次のバーコードを読み取り、スキャナに関する現在のソフトウェアの改訂情報、シリアルナンバー、およびその他の製品情報を出力します。

Show Revision
（改訂情報表示）

データフォーマットの表示

次のバーコードを読み取り、現在のデータフォーマット設定を表示します。

DFMBK3?.

Data Format Settings
（データフォーマット設定）

テストメニュー

テストメニューの **On** バーコードを読み取り、次に本書のプログラミングコードを読み取ると、スキャナはプログラミングコードの内容を表示します。プログラミングファンクションはまだ存在しますが、それに加えてそのプログラミングコードの内容もターミナルに出力されます。
注意：この機能は、通常のスキャナ操作では使用しないでください。

TSTMNU1.

On
（有効）

TSTMNU0.

*** Off**
（無効）

TotalFreedom（トータルフリーダム）

TotalFreedom（トータルフリーダム）とは、スキャナにプラグインアプリケーションを作成することができる オープンシステムアーキテクチャです。 この TotalFreedom で画像処理、デコード、データフォーマットの三種のアプリケーションの作成が可能です。 TotalFreedom について詳しくは、ウェブサイト（www.honeywellaidc.com.）をご覧ください。

プラグインアプリケーション

以下のバーコードを読み取ることで、プラグインアプリケーションをオン/オフにすることができます。アプリケーションは画像処理、デコード、フォーマットというグループごとに保存されています。以下にあるこれらのグループの **On/Off** バーコードを読み取り、アプリケーションを立ち上げたり、閉じたりすることができます。また、**List Apps** バーコードを読み取ると、すべてのアプリケーションのリストを出力します。

Imaging Apps On
（画像アプリ オン）

Decoding Apps On
（デコードアプリ オン）

Formatting Apps On
（フォーマットアプリ オン）

List Apps
（アプリ一覧）

Imaging Apps Of
f（画像アプリ オフ）

Decoding Apps Off
（デコードアプリ オフ）

Formatting Apps Off
（フォーマットアプリ オフ）

注意：アプリケーションを有効にするためには、デバイスを再起動しなければなりません。
また、ベースユニットに設定を追加する場合は、コマンドの前に「::」を付加してください。*

EZConfig について

EZConfig は PC の COM ポートにスキャナを接続することにより、多様な PC ベースのプログラミング機能を提供することができます。EZConfig を用いると、スキャナのアップグレードの為にファームウェアをダウンロードしたり、設定済みのパラメータを変更したり、プログラミングバーコードを作成して印刷することができます。さらに、スキャナのプログラミングパラメータを保存したり開いたりすることもできます。この保存ファイルは電子メールで送信でき、必要であれば、カスタマイズされたプログラミングパラメータをすべて含む単一のバーコードを作成し、どこへでもメールやファックスで送信することができます。他の場所にいるユーザーは、そのバーコードを読み取り、カスタマイズされたプログラミングに組み込むことができます。

スキャナとの通信のため、EZConfig ではコンピュータに少なくとも 1 つの空きシリアル通信ポートか、または物理的な USB ポートを使用したシリアルポートのエミュレーションが必要です。シリアルポートと RS-232 ケーブルをご使用の場合は、外部電源が必要です。USB シリアルポートのエミュレーションを使用している場合は、USB ケーブルのみ必要です。

EZConfig の操作

EZConfig ソフトウェアでは、以下の操作を実行します。

Scan Data (データ読み取り)

バーコードを読み取って、ウィンドウにバーコードデータを表示することができます。また、シリアルコマンドをスキャナに送信したり、スキャナからの応答を受信したりでき、Scan Data ウィンドウでこれらを確認することができます。Scan Data ウィンドウに表示されるデータは、ファイルに保存したり、印刷することもできます。

Configure (環境設定)

環境設定は、スキャナのプログラミングと環境設定データを表示します。スキャナのプログラミングと環境設定データは、異なるカテゴリに分類されます。各カテゴリは、アプリケーションエクスプローラの「Configure」ツリーノードの下にツリーアイテムとして表示されます。これらのツリーノードのうちの 1 つをクリックすると、その特定のカテゴリに所属するパラメータが右側に表示されます。
「Configure」ツリーオプションには、スキャナ用に指定したプログラミングと環境設定パラメータのすべてが含まれています。これらのパラメータは、必要に応じて設定または変更できます。後で、変更した設定値をスキャナに書き込んだり、dcf ファイルに保存したりできます。

Imaging（画像取り込み）

ここでは、2 次元イメージャーが持つ、画像関連機能すべてを調節することができます。現行設定のまま画像の撮影を行なうこともでき、その画像は画像ウィンドウに表示されます。スキャナが撮影した画像は、様々な画像形式で保存することが可能です。変更した画像設定を INI ファイルに保存すれば、後ほど新しい画像を撮影する際にその設定をロードすることも可能です。また、お使いのスキャナから画像を連続して見る事もできます。

ウェブサイトからの EZConfig のインストール

注意 : EZConfig には .NET ソフトウェアが必要です。お使いの PC に .NET がインストールされていない場合、EZConfig のインストール時に .NET のインストールを促すメッセージが表示されます。

1. www.honeywellaidc.com からハネウェルのウェブサイトにアクセスします。
2. Downloads（ダウンロード）タブをクリックし、Software（ソフトウェア）を選択します。
3. ドロップダウンメニューから Select Product Number（型番を選択）をクリックし、製品番号を選択します。
4. EZConfig のリストをクリックします。画面に表示されるセキュリティ手順に従ってください。
5. 指示が出たら、Save（保存）を選択し、ファイルを c: \windows\temp ディレクトリに保存します。
6. ファイルのダウンロードが終了したらウェブサイトを閉じます。
7. エクスプローラを使用し、c:\windows\temp のファイルに進みます。
8. EZConfig Setup.exe ファイルをダブルクリックします。画面の指示に従って EZConfig プログラムをインストールします。
9. インストール時にデフォルトを選択した場合は、Start Menu-All Programs-Honeywell-EZConfig をクリックしてください。

11

シリアルプログラミングコマンド

シリアルプログラミングコマンドをプログラミングバーコードの代わりに使用できます。シリアルコマンドとプログラミングバーコードは、どちらもスキャナをプログラム設定します。各シリアルプログラミングコマンドの解説と例については、本書の対応するプログラミングバーコードを参照してください。

機器を RS-232 インターフェース用に設定する必要があります（2-1 ページを参照）。下記のコマンドは、ターミナルエミュレーションソフトを用いて PC COM 経由で送信できます。

記述上の語句

メニューと質問コマンドの記述には、以下の取り決めが用いられています。

Parameter	コマンドの一部として送信する実際の値
[option]	コマンドのオプション部分
{Data}	コマンド内の選択肢
Bold	画面に表示されるメニュー名、メニューコマンド、ボタン、ダイアログボックス、およびウィンドウ

メニューコマンドシンタックス（構文）

メニューコマンドのシンタックスは以下のとおりです。（スペースを用いているのは、単にわかりやすくするためです。）

Prefix [:Name:] Tag SubTag {Data} [, SubTag {Data}] [; Tag SubTag {Data}] […]Storage

Prefix	3 つの ASCII のキャラクタ：SYN M CR (ASCII 22、77、13)
:Name:	「：Voyager：」を用いて、情報をスキャナに送信する（ホストに連結したベースとともに）。工場出荷時の Voyager スキャナの初期設定は Voyager スキャナです。ネームがわからない場合は、「*」 を:*:の形で用います。

注意：ベースはすべてのワークグループの設定を保存し、それらと接続されるとすぐにスキャナに転送します。変更はベースに対してのみ行われ、スキャナには行われません。

Tag	メニューコマンドグループを識別する大文字小文字の区別が無い 3 キャラクタのフィールド。例えば、RS232 の環境設定は、すべて 232 という Tag で識別されます。
SubTag	タググループの中のメニューコマンドグループを識別する大文字・小文字の区別がない 3 キャラクタのフィールド。例えば、RS232 ボーレートの SubTag は BAD になります。
Data	メニュー設定の新規値。Tag と SubTag で識別されます。
Storage	コマンドを適用するストレージテーブルを指定する 1 つのキャラクタ。感嘆符（!）は、機器の一時的なメモリ上でのコマンド操作を実行します。ピリオド（.）の場合は、機器の不揮発性メモリ上でコマンド操作を実行します。不揮発性メモリ上は、始動時に保存したい半恒久的な変更の場合だけに使用します。

質問コマンド

設定について機器から返答を得るためのいくつかの特殊キャラクタを使用できます。

^	設定の初期値
?	機器の現在の設定値
*	設定で可能な範囲（機器のレスポンスでは、ダッシュ (-) で値の連続範囲を示し、パイプ (|) で不連続値の一覧の項目を区切ります。

:Name: フィールドの使い方 (オプション)

このコマンドを用いると、スキャンからの質問情報を返送します。

Tag フィールドの使い方

Tag フィールドに代わって質問を使用すると、コマンドの Storage フィールドで示された特定のストレージテーブルで使用可能なコマンドのセット全体に質問します。この場合、器には無視されるため、SubTag および Data フィールドは使用しないでください。

SubTag フィールドの使い方

SubTag フィールドに代わって質問を使用すると、Tag フィールドに一致する使用可能なコマンドのサブセットだけに質問します。この場合、機器には無視されるので Data フィールドは使用しないでください。

Data フィールドの使い方

Data フィールドに代わって質問を使用すると、Tag および SubTag フィールドで識別される特定コマンドだけに質問します。

複数コマンドの連結機能

複数のコマンドを 1 つの Prefix/Storage シーケンス内で使用できます。シーケンスのコマンドごとに繰り返す必要があるのは、Tag、SubTag、および Data フィールドだけです。同じ Tag でコマンドを追加する場合は、新しいコマンドシーケンスをコンマ (,) で区切り、追加コマンドの SubTag および Data フィールドだけを記述します。追加コマンドで異なる Tag フィールドが必要な場合は、そのコマンドをセミコロン (;) で前のコマンドと区切ります。

レスポンス

機器は、次の 3 つのレスポンスの 1 つによってシリアルコマンドに応答します。

ACK	正しくコマンドを実行した。
ENQ	Tag または SubTag コマンドが無効。
NAK	コマンドは正しいが、Data フィールドの入力がこの Tag および SubTag 組み合わせの許容範囲外。例えば、フィールドが 2 キャラクタしか受け付けないときに最小読み取り桁数の入力が 100 になっている場合。

応答の際、機器はコマンドの各句読点（ピリオド、感嘆符、コンマ、またはセミコロン）の直前にステータスキャラクタを挿入したコマンドシーケンスを返します。

質問コマンドの例

以下の例では、角カッコ [ ] は非表示レスポンスを示します。

例： Codabar Coding Enable で可能な値の範囲は?

入力：cbrena*.
レスポンス：CBRENA0-1[ACK]

Codabar Coding Enable (CBRENA)の値の範囲が 0〜1（オフとオン）であることを示します。

例：Codabar Coding Enable のデフォルト値は？

入力：cbrena^.
レスポンス：CBRENA1[ACK]

Codabar Coding Enable（CBRENA）のデフォルト設定が 1 またはオンであることを示しています。

例：Codabar Coding Enable に関する現在の機器設定は？

入力：cbrena?.
レスポンス：CBRENA1[ACK]

機器の Codabar Coding Enable（CBRENA）が 1 またはオンに設定されていることを示します。

例：すべての Codabar 選択項目に対する機器の設定は？

入力：cbr?.
レスポンス：CBRENA1[ACK],
SSX0[ACK],
CK20[ACK],
CCT1[ACK],
MIN2[ACK],
MAX60[ACK],
DFT[ACK].

このレスポンスは、機器の Codabar Coding Enable (CBRENA) が 1 または有効に設定され、スタート/ストップキャラクタ（SSX）は 0、または Don't Transmit に、チェックキャラクタ（CK2）は 0、または Not Required に、連結機能（CCT）は 1、または Enabled に、最小読み取り桁数（MIN）は 2 キャラクタに、最大読み取り桁数（MAX）は 60 キャラクタに、またデフォルト設定（DFT）には値が無いことを示しています。

トリガーコマンド

シリアルトリガーコマンドでスキャナを起動または停止できます。以下のコマンドを送ってボタンを起動/停止してください。

起動する：**SYN T CR**
停止する：**SYN U CR**

スキャナはバーコードが読み取られるか、停止コマンドが送信されるまで読み取りを行います。また、一定の時間が経つと自動的にオフになるよう設定することもできます（以下の読み取りタイムアウトを参照のこと）。

読み取りタイムアウト

スキャナの起動にシリアルコマンドを利用している際にスキャナのボタンのタイムアウト（ミリ秒単位）時間設定を行うために用います。スキャナがタイムアウトした後は、ボタンを押すか、シリアルトリガーコマンドでスキャナを起動できます。**Read Time-Out（読み取りタイムアウト）**バーコードを読み取り、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数値を読み取ることでタイムアウト時間（0～300,000 ミリ秒）を設定した後、**Save（保存）**を読み取ってください。
初期設定= 30,000 ミリ秒

Read Time-Out
（読み取りタイムアウト）

標準の製品初期設定へのリセット

スキャナに設定されているプログラミングオプションが不明の場合、またはオプション変更を行い、出荷時初期設定を復元したい場合は、下の **Standard Product Default Settings（標準製品初期設定）**バーコードを読み取ってください。

Standard Product Default Settings
（標準製品初期設定）

注意：コードレスシステムを使用している場合、上記のバーコードを読むとスキャナとベースの間の通信が初期化され、未接続状態になります。スキャナをベースに置いて、通信を再度確立してください。詳しくは、3-1 ページのコードレスシステムの操作を参照してください。

次ページ以降のチャートは、各メニューコマンド（プログラミングページ上アスタリスク（*）で表示）の標準の工場出荷時設定一覧です。

メニューコマンド表

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
製品初期設定			
カスタムデフォルト	カスタムデフォルト	MNUCDP	1-7
	カスタムデフォルトの保存	MNUCDS	1-7
	カスタムデフォルトに戻す	DEFALT	1-8
工場出荷時設定に戻す： コードレススキャナ	カスタムデフォルトの削除	DEFOVR	1-8
	デフォルトに戻す	DEFALT	1-8
	工場出荷時の設定に戻す： すべてのアプリケーショングループ	PAPDFT&	3-26
カスタムデフォルトに戻す： コードレススキャナ	カスタムデフォルト設定に戻す： すべてのアプリケーショングループ	PAPDFT	3-27
インターフェースの設定			
プラグ&プレイ： キーボードウェッジ および RS232C	キーボードウェッジ：IBM PC AT および 互換機 （CR サフィックスつき）	PAP_AT	2-1
	ノート型 PC 直接接続（CR サフィックスつき）	PAPLTD	2-1
	RS232 シリアルポート	PAP232	2-2
プラグ&プレイ： RS485	IBM Port 5B インターフェース	PAPP5B	2-2
	IBM Port 9B HHBCR-1 インターフェース	PAP9B1	2-2
	IBM Port 17 インターフェース	PAPP17	2-2
	IBM Port 9B HHBCR-2 インターフェース	PAP9B2	2-2
	RS485 パケットモード　有効	RTLPDF1	2-3
	RS485 パケットモード　無効	RTLPDF0	2-3
	RS485 パケットの長さ (20-256)	RTLMPS	2-3
プラグ&プレイ： IBM SurePOS	USB IBM SurePos ハンドヘルドインターフェース	PAPSPH	2-4
	USB IBM SurePos 卓上インターフェース	PAPSPT	2-4
プラグ&プレイ： USB	PC USB キーボード	PAP124	2-4
	Mac USB キーボード	PAP125	2-4
	USB 日本語キーボード	TRMUSB134	2-4
	USB HID モード	PAP131	2-5
	USB シリアルモード	TRMUSB130	2-5
	CTS/RTS エミュレーション　有効	USBCTS1	2-5
	CTS/RTS エミュレーション　無効	USBCTS0	2-5
	ACK/NAK モード　有効	USBACK1	2-6
	ACK/NAK モード　無効*	USBACK0	2-6
プラグ&プレイ： その他	Verifone Ruby ターミナル	PAPRBY	2-6
	Gilbarco ターミナル	PAPGLB	2-7
	Honeywell 2 面式カウンタースキャナ	PAPBIO	2-7
	Datalogic Magellan 2 面式カウンタースキャナ	PAPMAG	2-7
	NCR 2 面式カウンタースキャナ	PAPNCR	2-8
	Wincor Nixdorf ターミナル	PAPWNX	2-8
	Wincor Nixdorf Beetle	PAPBTL	2-8

設定項目	設定* 初期設定	シリアルコマンド# 数値入力を示す	ページ
国別キーボード	アメリカ*	KBDCTY0	2-9
	アルバニア	KBDCTY35	2-9
	アゼリー (キリル文字)	KBDCTY81	2-9
	アゼリー (ラテン)	KBDCTY80	2-9
	ベラルーシ	KBDCTY82	2-9
	ベルギー	KBDCTY1	2-9
	ボスニア	KBDCTY33	2-9
	ブラジル	KBDCTY16	2-9
	ブラジル（MS）	KBDCTY59	2-10
	ブルガリア (キリル文字)	KBDCTY52	2-10
	ブルガリア（ラテン）	KBDCTY53	2-10
	カナダ（フランス語 Legacy）	KBDCTY54	2-10
	カナダ（フランス語）	KBDCTY18	2-10
	カナダ（多言語）	KBDCTY55	2-10
	クロアチア	KBDCTY32	2-10
	チェコ	KBDCTY15	2-10
	チェコ（プログラマー）	KBDCTY40	2-10
	チェコ (QWERTY)	KBDCTY39	2-10
	チェコ (QWERTZ)	KBDCTY38	2-10
	デンマーク	KBDCTY8	2-10
	オランダ語（オランダ）	KBDCTY11	2-10
	エストニア	KBDCTY41	2-11
	フェロー語	KBDCTY83	2-11
	フィンランド	KBDCTY2	2-11
	フランス	KBDCTY3	2-11
	ゲール語	KBDCTY84	2-11
	ドイツ	KBDCTY4	2-11
	ギリシャ	KBDCTY17	2-11
	ギリシャ (220 ラテン)	KBDCTY64	2-11
	ギリシャ (220)	KBDCTY61	2-11
	ギリシャ (319 ラテン)	KBDCTY65	2-11
	ギリシャ (319)	KBDCTY62	2-11
	ギリシャ (ラテン)	KBDCTY63	2-11
	ギリシャ (MS)	KBDCTY66	2-11
	ギリシャ (Polytonic)	KBDCTY60	2-12
	ヘブライ語	KBDCTY12	2-12
	ハンガリー語 (101 key)	KBDCTY50	2-12
	ハンガリー	KBDCTY19	2-12
	アイスランド	KBDCTY75	2-12
	アイルランド語	KBDCTY73	2-12
	イタリア語 (142)	KBDCTY56	2-12
	イタリア	KBDCTY5	2-12
	日本語 ASCII	KBDCTY28	2-12
	カザフスタン	KBDCTY78	2-12
	キルギス (キリル文字)	KBDCTY79	2-12
	南米	KBDCTY14	2-12
	ラトビア	KBDCTY42	2-12
	ラトビア (QWERTY)	KBDCTY43	2-13
	リトアニア	KBDCTY44	2-13
	リトアニア (IBM)	KBDCTY45	2-13

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
国別キーボード	マケドニア	KBDCTY34	2-13
	マルタ	KBDCTY74	2-13
	モンゴル (キリル文字)	KBDCTY86	2-13
	ノルウェー	KBDCTY9	2-13
	ポーランド	KBDCTY20	2-13
	ポーランド (214)	KBDCTY57	2-13
	ポーランド（プログラマー）	KBDCTY58	2-13
	ポルトガル	KBDCTY13	2-13
	ルーマニア	KBDCTY25	2-13
	ロシア	KBDCTY26	2-13
	ロシア語 (MS)	KBDCTY67	2-14
	ロシア語 (タイプライター)	KBDCTY68	2-14
	SCS	KBDCTY21	2-14
	セルビア (キリル文字)	KBDCTY37	2-14
	セルビア (ラテン)	KBDCTY36	2-14
	スロバキア	KBDCTY22	2-14
	スロバキア (QWERTY)	KBDCTY49	2-14
	スロバキア (QWERTZ)	KBDCTY48	2-14
	スロバにア	KBDCTY31	2-14
	スペイン	KBDCTY10	2-14
	スペイン語（変動）	KBDCTY51	2-14
	スウェーデン	KBDCTY23	2-14
	スイス (フランス語)	KBDCTY29	2-14
	スイス (ドイツ語)	KBDCTY6	2-15
	タタール語	KBDCTY85	2-15
	トルコ F	KBDCTY27	2-15
	トルコ Q	KBDCTY24	2-15
	ウクライナ	KBDCTY76	2-15
	英国	KBDCTY7	2-15
	米国 (Dvorak 右)	KBDCTY89	2-9
	米国 (Dvorak 左)	KBDCTY88	2-9
	米国 (Dvorak)	KBDCTY87	2-9
	米国（インターナショナル）	KBDCTY30	2-9
	ウズベキスタン (キリル文字)	KBDCTY77	2-15
キーボードスタイル	* レギュラー	KBDSTY0	2-16
	Caps Lock	KBDSTY1	2-16
	Shift Lock	KBDSTY2	2-16
	自動 Caps Lock	KBDSTY6	2-16
	外付けキーボードエミュレーション	KBDSTY5	2-17
キーボードの変換	* キーボード変換　無効	KBDCNV0	2-17
	すべてのキャラクタを大文字に変換	KBDCNV1	2-17
	すべてのキャラクタを小文字に変換	KBDCNV2	2-17
制御キャラクタ	* 制御キャラクタ出力　無効	KBDNPE0	2-18
	制御キャラクタ出力　有効	KBDNPE1	2-18
キーボードの設定	*Control + ASCII 無効	KBDCAS0	2-18
	DOS モード Control + ASCII	KBDCAS1	2-18
	Windows モード Control + ASCII	KBDCAS2	2-18
	Windows モード プリフィクス/サフィックス　無効	KBDCAS3	2-18
	* ターボモード　無効	KBDTMD0	2-19
	ターボモード　有効	KBDTMD1	2-19

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
キーボードの設定	* 数字キーパッド　無効	KBDNPS0	2-19
	数字キーパッド　有効	KBDNPS1	2-19
	* 自動直接接続　無効	KBDADC0	2-19
	自動直接接続　有効	KBDADC1	2-19
ボーレート	300	232BAD0	2-20
	600	232BAD1	2-20
	1200	232BAD2	2-20
	2400	232BAD3	2-20
	4800	232BAD4	2-20
	9600	232BAD5	2-20
	19200	232BAD6	2-20
	38400	232BAD7	2-20
	57600	232BAD8	2-20
	*115200	232BAD9	2-20
RS232C ワード長： データビット ストップビット パリティ	7 データビット, 1 ストップビット, パリティ Even	232WRD3	2-21
	7 データビット, 1 ストップビット, パリティなし	232WRD0	2-21
	7 データビット, 1 ストップビット, パリティ Odd	232WRD6	2-21
	7 データビット, 2 ストップビット, パリティ Even	232WRD4	2-21
	7 データビット, 2 ストップビット, パリティなし	232WRD1	2-21
	7 データビット, 2 ストップビット, パリティ Odd	232WRD7	2-21
	8 データビット, 1 ストップビット, パリティ Even	232WRD5	2-21
	*8 データビット, 1 ストップビット, パリティ なし	232WRD2	2-21
	8 データビット, 1 ストップビット, パリティ Odd	232WRD8	2-21
RS232 レシーバータイムアウト	0 - 300	232LPT###	2-22
	* RTS/CTS　無効	232CTS0	2-22
	フロー制御、タイムアウトなし	232CTS1	2-22
	双方向フロー制御	232CTS2	2-22
	フロー制御、タイムアウトあり	232CTS3	2-22
	RS232 タイムアウト	232DEL####	2-23
	*XON/XOFF　無効	232XON0	2-23
	XON/XOFF　有効	232XON1	2-23
	*ACK/NAK　無効	232ACK0	2-23
	ACK/NAK　有効	232ACK1	2-23
2 面式カウンタースキャナ パケットモード	* パケットモード　無効	232PKT0	2-24
	パケットモード　有効	232PKT2	2-24
2 面式カウンタースキャナ ACK/NAK	* 2 面式カウンタースキャナ　ACK/NAK　無効	232NAK0	2-24
	2 面式カウンタースキャナ　ACK/NAK　有効	232NAK1	2-24
	ACK/NAK タイムアウト　* 5100	232DLK#####	2-25

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
コードレスシステムの操作			
ベースユニットパワー/通信インジケーター	* 有効	:*:BASRED1	3-6
	無効	:*:BASRED0	3-6
スキャナのリセット	スキャナのリセット	RESET_	3-7
ベースユニット上での 読み取り	ベースユニット上での読み取り　無効	BT_SIC0	3-7
	* ベースユニット上での読み取り　有効	BT_SIC1	3-7
	ベースユニットでスキャナを シャットダウン	BT_SIC2	3-7
ページングモード	* 有効	BEPPGE1	3-8
	無効	BEPPGE0	3-8
ページングの音程	400 - 900	BEPPFQ####	3-8
	* 低（1000Hz）	BEPPFQ1000.	3-8
	中（3250Hz）	BEPPFQ3250.	3-8
	高（4200Hz）	BEPPFQ4200.	3-8
ブザーの音程： ベースユニットのエラー	* 低（250Hz）	BASFQ2250	3-9
	中（3250Hz）	BASFQ23250	3-9
	高（4200Hz）	BASFQ24200	3-9
ブザーの回数： ベースユニットのエラー	*　1	BASERR3	3-9
	1 - 9	BASERR#	3-9
スキャナレポート	スキャナレポート	RPTSCN	3-10
スキャナアドレス	スキャナのアドレス	BT_LDA	3-10
ベースユニットアドレス	ベースユニットアドレス	:*:BASLDA	3-10
スキャナモード	充電限定モード	:*:BASLNK0	3-11
	* 充電および通信モード	:*:BASLNK1	3-11
	通信固定モード	BASCON0,DNG1	3-12
	* 通信オープンモード	BASCON1,DNG1	3-12
	スキャナとの通信解除	BT_RMV	3-13
	通信固定されたスキャナの上書き	BT_RPL1	3-13
通信範囲外警告	ベースアラームの鳴動時間 * 0 (範囲 1-3000 ミリ秒)	BASORD	3-13
	スキャナアラームの鳴動時間* 0 (範囲 1-3000 ミリ秒)	BT_ORD	3-13
警告ブザーの種類	ベースアラームの種類	BASORW	3-14
	スキャナアラームの種類	BT_ORW	3-14
スキャナパワータイムアウトタイマー	0 秒	BT_LPT0.	3-15
	200 秒	BT_LPT200.	3-15
	400 秒	BT_LPT400.	3-15
	900 秒	BT_LPT900.	3-15
	* 3600 秒	BT_LPT3600.	3-15
	7200 秒	BT_LPT7200.	3-15
フレキシブル パワーマネージメント	* フルパワー	BT_TXP100	3-16
	中 パワー	BT_TXP35	3-16
	中低 パワー	BT_TXP5	3-16
	低 パワー	BT_TXP1	3-16
	ベースユニットのリセット	RESET_	3-17
	スキャナのリセット	:*:RESET_	3-17
バッチモード	* バッチモード　無効	BATENA0	3-17
	バッチモード　有効	BATENA1	3-17
	棚卸モード	BATENA2	3-17
バッチモード：ブザー音	* 有効	BATBEP1	3-18
	無効	BATBEP0	3-18

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
バッチモード：保存形式	* フラッシュメモリに保存	BATNVS1	3-18
	RAM に保存	BATNVS0	3-18
バッチモード：個数	* 無効	BATQTY0	3-19
	有効	BATQTY1	3-19
個数コード	0	BATNUM0	3-20
	*1	BATNUM1	3-20
	2	BATNUM2	3-20
	3	BATNUM3	3-20
	4	BATNUM4	3-20
	5	BATNUM5	3-20
	6	BATNUM6	3-20
	7	BATNUM7	3-20
	8	BATNUM8	3-20
	9	BATNUM9	3-20
バッチモード：出力順序	先入れ先出し	BATLIF0	3-21
	後入れ先出し	BATLIF1	3-21
すべてのコードを削除	すべてのコードを削除	BATCLR	3-21
最後のコードを削除	最後のコードを削除	BATUND	3-21
全てのコードを削除	全てのコードを削除	BATCLR.	3-21
保存したデータを ホストへ送信	保存したデータをホストへ送信	BAT_TX	3-22
バッチモード： 送信ディレー	* 無効	BATDLY0	3-23
	短（ミリ秒）	BATDLY250	3-23
	中（ミリ秒）	BATDLY500	3-23
	長（ミリ秒）	BATDLY1000	3-23
複数スキャナ操作モード	複数スキャナ操作モード	BASCON2,DNG3	3-23
スキャナ名	スキャナ名 1-7	BT_NAM#####	3-24
	リセット	RESET_	3-24
	スキャナ名	BT_NAM	3-24
アプリケーションワーク グループ	* グループ 0	GRPSEL0	3-26
	グループ 1-6	GRPSEL#	3-26
ワークグループの初期設定	すべてのワークグループを工場出荷時設定にリセット	PAPDFT&	3-26
	すべてのワークグループをカスタム初期設定にリセット	PAPDFT	3-27
Bluetooth 通信	Bluetooth HID キーボードとの通信確立	PAPBTH	3-28
	Bluetooth HID キーボードとの通信解除	PAPSPP	3-30
	Bluetooth PC/ノート型 PC シリアルポートとの通信確立	BT_TRM0;BT_DNG1	3-30
	PDA/ハンディターミナル用 Bluetooth 接続	BT_DNG1	3-31
	Bluetooth 暗証コード	BT_PIN	3-31
自動再接続モード	* 自動再接続モード　有効	BT_ACM1	3-32
	自動再接続モード　無効	BT_ACM0	3-32
再接続試行最高限度回数	再接続試行最高限度回数	BT_MLA	3-33
再接続タイムアウト	再接続タイムアウト	BT_RLT	3-33
ホストコマンドの ACK	* ホスト ACK 無効	HSTACK0	3-36
	ホスト ACK 有効	HSTACK1	3-36

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
入力/出力設定			
Power Up Beeper	スキャナ起動ブザー　無効	BEPPWR0	4-1
	* スキャナ起動ブザー　有効	BEPPWR1	4-1
	ベースユニット起動ブザー　無効	BASPWR0	4-1
	ベースユニット起動ブザー　有効	BASPWR1	4-1
BEL ブザー	* BEL ブザー　無効	BELBEP0	4-1
	BEL ブザー　有効	BELBEP1	4-1
トリガークリック音	* 無効	BEPTRG0	4-2
	有効	BEPTRG1	4-2
読み取り成功時ブザー	* 有効	BEPBEP1	4-2
	無効	BEPBEP0	4-2
読み取り成功時ブザー：音量	無効	BEPLVL0	4-3
	小	BEPLVL1	4-3
	中	BEPLVL2	4-3
	* 大	BEPLVL3	4-3
読み取り成功時ブザー：音程	低 (1600Hz)	BEPFQ11600	4-3
	* 中 (2700Hz)	BEPFQ12700	4-3
	高 (4200Hz)	BEPFQ14200	4-3
エラーブザー：音程	* 低 (250Hz)	BEPFQ2250	4-4
	中 (3250Hz)	BEPFQ23250	4-4
	高 (4200Hz)	BEPFQ24200	4-4
読み取り成功時ブザー：長さ	* 通常	BEPBIP0	4-4
	短	BEPBIP1	4-4
読み取り成功時：LED	* 有効	BEPLED1	4-4
	無効	BEPLED0	4-4
読み取り成功時ブザー：回数	*1	BEPRPT1	4-5
	範囲 1～9	BEPRPT#	4-5
エラーブザー：回数	*1	BEPERR3	4-5
	範囲 1～9	BEPERR#	4-5
読み取り成功ディレー	* ディレーなし	DLYGRD0	4-6
	短いディレー(500 ミリ秒)	DLYGRD500	4-6
	中位のディレー (1000 ミリ秒)	DLYGRD1000	4-6
	長いディレー (1500 ミリ秒)	DLYGRD1500	4-6
ユーザー定義の再読み取りディレー	0 - 30,000 ミリ秒	DLYGRD#####	4-6
マニュアル/シリアルトリガーモード	* マニュアルトリガー (標準)	PAPHHF	4-7
	マニュアルトリガー (強化)	PAPHHS	4-7
マニュアルトリガーモード：LED 照明	* 高	PWRNOL150.	4-7
	低	PWRNOL100.	4-7
	無効	PWRNOL0.	4-7
シリアルトリガーモード： 読み取りタイムアウト	読み取りタイムアウト *30,000 (0 - 300,000 ミリ秒)	TRGSTO####	4-8
プレゼンテーションモード	プレゼンテーションモード	TRGMOD3	4-8
プレゼンテーションモード： LED 照明	* 高	PWRLDC150.	4-9
	低	PWRLDC100.	4-9
	無効	PWRLDC0.	4-9
プレゼンテーションモード： デコード後の LED 照明	* 有効	TRGPCK1	4-9
	無効	TRGPCK0	4-9
プレゼンテーション感度	範囲 0-20 (*1)	TRGPMS##	4-10

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
プレゼンテーションセンタリング	プレゼンテーションセンタリング　無効	PDCWIN0.	4-12
	プレゼンテーションセンタリング　有効	PDCWIN1.	4-12
	プレゼンテーションセンタリング ウィンドウ　上	PDCTOP###	4-12
	プレゼンテーションセンタリング ウィンドウ　下	PDCBOT###	4-12
	プレゼンテーションセンタリング ウィンドウ　左	PDCLFT###	4-12
	プレゼンテーションセンタリング ウィンドウ　右	PDCRGT###	4-12
スタンド使用時のセンサーモード	* センサー　有効	TRGSSW1	4-12
	センサー　無効	TRGSSW0	4-12
CodeGate®	* スタンド不使用時 CodeGate ボタン　無効	AOSCGD0.	4-13
	スタンド不使用時 CodeGate ボタン　有効	AOSCGD1.	4-13
ストリーミングプレゼンテーションモード	ストリーミングプレゼンテーション モード　標準	PAPSPN	4-13
	ストリーミングプレゼンテーション モード　強化	PAPSPE	4-13
携帯端末読み取りモード	携帯端末　手持ち読み取り	PAPHHC	4-14
	携帯端末　ハンズフリー読み取り	PAPSPC	4-14
画像撮影と送信	画像撮影と送信	TRGMOD6	4-14
ハンズフリータイムアウト	範囲 0 - 300,000 ミリ秒	TRGPTO######	4-15
再読み取りディレー	短 (500 ms)	DLYRRD500	4-15
	* 中 (750 ms)	DLYRRD750	4-15
	長 (1000 ms)	DLYRRD1000	4-15
	エクストラ (2000 ミリ秒)	DLYRRD2000	4-15
ユーザー定義の再読み取りディレー	範囲 0 - 30,000 (ミリ秒)	DLYRRD#####	4-16
照明設定	* 照明　有効	SCNLED1	4-16
	照明　無効	SCNLED0	4-16
エイマーディレー	200 ミリ秒	SCNDLY200	4-16
	400 ミリ秒	SCNDLY400	4-16
	* 無効（ディレーなし）	SCNDLY0	4-16
ユーザー定義のエイマーディレー	範囲 0 - 4,000 ミリ秒	SCNDLY####	4-17
スキャナタイムアウト	0 - 999,999 ミリ秒	SDRTIM####	4-17
エイマーモード	無効	SCNAIM0	4-17
	* 非同時	SCNAIM2	4-17
センタリングウィンドウ	センタリング　有効	DECWIN1	4-18
	* センタリング　無効	DECWIN0	4-18
	センタリングウィンドウ　左 (*40%)	DECLFT###	4-18
	センタリングウィンドウ　右 (*60%)	DECRGT###	4-18
	センタリングウィンドウ　上 (*40%)	DECTOP###	4-18
	センタリングウィンドウ　左 (*60%)	DECBOT###	4-18
優先シンボル	* 無効	PRFENA0	4-20
	有効	PRFENA1	4-20
	高優先度シンボル	PRFCOD##	4-20
	低優先度シンボル	PRFBLK##	4-21
	優先シンボルタイムアウト *500 ミリ秒 （範囲 100- 3000 ミリ秒）	PRFPTO####	4-21
	優先シンボルのデフォルト	PRFDFT	4-21

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
アウトプットシーケンスエディタ	シーケンスの入力	SEQBLK	4-24
	シーケンスのデフォルト	SEQDFT	4-24
パーティカルシーケンス	パーティカルシーケンスの送信	SEQTTS1	4-25
	* パーティカルシーケンスの放棄	SEQTTS0	4-25
アウトプットシーケンスの要求	* 無効	SEQ_EN0	4-25
	要求する	SEQ_EN2	4-25
	有効、要求しない	SEQ_EN1	4-25
複数シンボル	* 無効	SHOTGN0	4-26
	有効	SHOTGN1	4-26
No Read	* 無効	SHWNRD0	4-26
	有効	SHWNRD1	4-26
ビデオリバース（反転コード）	反転コードのみ	VIDREV1	4-27
	反転コードおよび標準コード	VIDREV2	4-27
	* 反転コード　無効	VIDREV0	4-27
ワーキングオリエンテーション	* 正面	ROTATN0	4-28
	垂直、下から上（反時計回りに 90° 回転）	ROTATN1	4-28
	上下逆さ	ROTATN2	4-28
	垂直、上から下（時計回りに 90° 回転）	ROTATN3	4-28
プリフィクス/サフィックスの設定			
すべてのシンボルに CR サフィックスを付加		VSUFCR	5-3
プリフィクス	プリフィクスの追加	PREBK2##	5-3
	1 つのプリフィクスを削除	PRECL2	5-3
	すべてのプリフィクスを削除	PRECA2	5-3
サフィックス	サフィックスの追加	SUFBK2##	5-4
	1 つのサフィックスを削除	SUFCL2	5-4
	すべてのサフィックスを削除	SUFCA2	5-4
ファンクションコードの送信	* 有効	RMVFNC0	5-4
	無効	RMVFNC1	5-4
キャラクタ間ディレー	範囲 0 - 1000 (5 ミリ秒ごとの設定)	DLYCHR##	5-5
ユーザー定義のキャラクタ間ディレー	範囲 0 - 1000 (5 ミリ秒ごとの設定)	DLYCRX##	5-6
	ディレーを起動するキャラクタ	DLY_XX##	5-6
ファンクション間のディレー	範囲 0 - 1000 (5 ミリ秒ごとの設定)	DLYFNC##	5-7
メッセージ間のディレー	範囲 0 - 1000 (5 ミリ秒ごとの設定)	DLYMSG##	5-7
データフォーマッターの設定			
データフォーマッターの設定	* データフォーマッタの初期化	DFMDF3	6-1
	データフォーマッターの追加	DFMBK3##	6-2
	1 つのデータフォーマッタを削除	DFMCL3	6-3
	すべてのデータフォーマッターを削除	DFMCA3	6-3
	データフォーマッター　無効	DFM_EN0	6-9
	* データフォーマッタ　有効、要求しない プリフィクス/サフィックスあり	DFM_EN1	6-10
	データフォーマッター　要求する、 プリフィクス/サフィックスあり	DFM_EN2	6-10
	データフォーマッター　有効、要求しない、 プリフィクス/サフィックスなし	DFM_EN3	6-10
	データフォーマッター　要求する、 プリフィクス/サフィックスなし	DFM_EN4	6-10

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
データフォーマット非適合エラーブザー	* データフォーマット 非適合エラーブザー　有効	DFMDEC0	6-11
	データフォーマット 非適合エラーブザー　無効	DFMDEC1	6-11
基準/代用データフォーマット	基準データフォーマットの使用	ALTFNM0	6-11
	データフォーマット 1	ALTFNM1	6-11
	データフォーマット 2	ALTFNM2	6-11
	データフォーマット 3	ALTFNM3	6-11
データフォーマットの切り替え	基準データフォーマットへ切り替え	VSAF_0	6-12
	データフォーマット 1 へ切り替え	VSAF_1	6-12
	データフォーマット 2 へ切り替え	VSAF_2	6-12
	データフォーマット 3 へ切り替え	VSAF_3	6-12
読み取りシンボル			
すべてのシンボル	すべてのシンボル　読み取り禁止	ALLENA0	7-2
	すべてのシンボル　読み取り許可	ALLENA1	7-2
Codabar	すべての設定を初期化	CBRDFT	7-3
	無効	CBRENA0	7-3
	*有効	CBRENA1	7-3
Codabar スタート/ストップキャラクタ	* 送信しない	CBRSSX0	7-3
	送信する	CBRSSX1	7-3
Codabar チェックキャラクタ	* チェックキャラクタなし	CBRCK20	7-4
	モジュラス 16 有効、送信しない	CBRCK21	7-4
	モジュラス 16 有効、送信する	CBRCK22	7-4
Codabar の連結	*無効	CBRCCT0	7-5
	有効	CBRCCT1	7-5
	要求する	CBRCCT2	7-5
Codabar 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (2 - 60) *4	CBRMIN##	7-5
	最大読み取り桁数 (2 - 60) * 60	CBRMAX##	7-5
Code 39	すべての設定を初期化	C39DFT	7-6
	無効	C39ENA0	7-6
	*有効	C39ENA1	7-6
Code 39 スタート/ストップキャラクタ	* 送信しない	C39SSX0	7-6
	送信する	C39SSX1	7-6
Code 39 チェックキャラクタ	* チェックキャラクタなし	C39CK20	7-7
	有効、送信しない	C39CK21	7-7
	有効、送信する	C39CK22	7-7
Code 39 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (0 - 48) *0	C39MIN##	7-7
	最大読み取り桁数 (0 - 48) * 48	C39MAX##	7-7
Code 39 の連結	*無効	C39APP0	7-8
	有効	C39APP1	7-8
Code 32 Pharmaceutical （PARAF)	*無効	C39B320	7-8
	有効	C39B321	7-8
Code 39 Full ASCII	*無効	C39ASC0	7-9
	有効	C39ASC1	7-9
	Code 39 コードページ	C39DCP	7-9

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Interleaved 2 of 5　（ITF)	すべての設定を初期化	I25DFT	7-10
	無効	I25ENA0	7-10
	*有効	I25ENA1	7-10
Interleaved 2 of 5 チェックデジット	* チェックキャラクタなし	I25CK20	7-10
	有効、送信しない	I25CK21	7-10
	有効、送信する	I25CK22	7-10
Interleaved 2 of 5 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (2 - 80) *4	I25MIN##	7-11
	最大読み取り桁数 (2 - 80) * 80	I25MAX##	7-11
NEC 2 of 5	すべての設定を初期化	N25DFT	7-12
	無効	N25ENA0	7-12
	*有効	N25ENA1	7-12
NEC 2 of 5 チェックデジット	* チェックキャラクタなし	N25CK20	7-12
	有効、送信しない	N25CK21	7-12
	有効、送信する	N25CK22	7-12
NEC 2 of 5 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (2 - 80) *4	N25MIN##	7-13
	最大読み取り桁数 (2 - 80) * 80	N25MAX##	7-13
Code 93	すべての設定を初期化	C93DFT	7-14
	無効	C93ENA0	7-14
	*有効	C93ENA1	7-14
Code 93 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (0 - 80) *0	C93MIN##	7-14
	最大読み取り桁数 (0 - 80) * 80	C93MAX##	7-14
Code 93 連結	* 無効	C93APP0	7-15
	有効	C93APP1	7-15
Code 93 コードページ	Code 93 コードページ	C93DCP	7-15
Straight 2 of 5 Industrial （3 バースタート/ストップ）	すべての設定を初期化	R25DFT	7-16
	*無効	R25ENA0	7-16
	有効	R25ENA1	7-16
Straight 2 of 5 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1 - 48) *4	R25MIN##	7-16
	最大読み取り桁数 (1 - 48) * 48	R25MAX##	7-16
Straight 2 of 5 IATA （2 バースタート/ストップ）	すべての設定を初期化	A25DFT	7-17
	*無効	A25ENA0	7-17
	有効	A25ENA1	7-17
Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1 - 48) *4	A25MIN##	7-17
	最大読み取り桁数 (1 - 48) * 48	A25MAX##	7-17
Matrix 2 of 5	すべての設定を初期化	X25DFT	7-18
	*無効	X25ENA0	7-18
	有効	X25ENA1	7-18
Matrix 2 of 5 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1 - 80) *4	X25MIN##	7-18
	最大読み取り桁数 (1 - 80) * 80	X25MAX##	7-18
Code 11	すべての設定を初期化	C11DFT	7-19
	*無効	C11ENA0	7-19
	有効	C11ENA1	7-19
Code 11 チェックデジットの要求	1 チェックデジット	C11CK20	7-19
	*2 チェックデジット	C11CK21	7-19
Code 11 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1 - 80) *4	C11MIN##	7-19
	最大読み取り桁数 (1 - 80) * 80	C11MAX##	7-19

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
Code 128	すべての設定を初期化	128DFT	7-20
	無効	128ENA0	7-20
	*有効	128ENA1	7-20
ISBT の連結	*無効	ISBENA0	7-20
	有効	ISBENA1	7-20
Code 128 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (0 - 80) *0	128MIN##	7-21
	最大読み取り桁数 (0 - 80) * 80	128MAX##	7-21
Code 128 連結	* 無効	128APP1	7-21
	有効	128APP2	7-21
Code 128 コードページ	Code 128 コードページ (*2)	128DCP##	7-21
GS1-128	すべての設定を初期化	GS1DFT	7-22
	*有効	GS1ENA1	7-22
	無効	GS1ENA0	7-22
GS1-128 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1 - 80) *1	GS1MIN##	7-22
	最大読み取り桁数 (0 - 80) * 80	GS1MAX##	7-22
Telepen	すべての設定を初期化	TELDFT	7-23
	*無効	TELENA0	7-23
	有効	TELENA1	7-23
Telepen 出力	*AIM Telepen 出力	TELOLD0	7-23
	オリジナル Telepen 出力	TELOLD1	7-23
Telepen 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1 - 60) *1	TELMIN##	7-24
	最大読み取り桁数 (1 - 60) * 60	TELMAX##	7-24
UPC-A	すべての設定を初期化	UPADFT	7-25
	無効	UPAENA0	7-25
	*有効	UPAENA1	7-25
UPC-A チェックデジット	無効	UPACKX0	7-25
	*有効	UPACKX1	7-25
UPC-A システム番号	無効	UPANSX0	7-25
	*有効	UPANSX1	7-25
UPC-A 2 桁のアドオン	*無効	UPAAD20	7-26
	有効	UPAAD21	7-26
UPC-A 5 桁のアドオン	*無効	UPAAD50	7-26
	有効	UPAAD51	7-26
UPC-A アドオンの要求	* 要求しない	UPAARQ0	7-26
	要求する	UPAARQ1	7-26
UPC-A アドオンセパレーター	無効	UPAADS0	7-27
	*有効	UPAADS1	7-27
UPC-A/EAN-13 拡張クーポンコードつき	*無効	CPNENA0	7-27
	連結許可	CPNENA1	7-27
	連結必須	CPNENA2	7-27
クーポン GS1 データバー出力	* GS1 出力　無効	CPNGS10	7-28
	GS1 出力　有効	CPNGS11	7-28
UPC-E0	すべての設定を初期化	UPEDFT	7-29
	無効	UPEEN00	7-29
	*有効	UPEEN01	7-29
UPC-E0 拡張	*無効	UPEEXP0	7-29
	有効	UPEEXP1	7-29

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
UPC-E0 アドオンの要求	要求する	UPEARQ1	7-30
	*要求しない	UPEARQ0	7-30
UPC-E0 アドオンセパレーター	*有効	UPEADS1	7-30
	無効	UPEADS0	7-30
UPC-E0 チェックデジット	無効	UPECKX0	7-30
	*有効	UPECKX1	7-30
UPC-E0 システム番号	無効	UPENSX0	7-31
	*有効	UPENSX1	7-31
UPC-E0 2 桁のアドオン	2 桁のアドオン　有効	UPEAD21	7-31
	* 2 桁のアドオン　無効	UPEAD20	7-31
UPC-E0 5 桁のアドオン	5 桁のアドオン　有効	UPEAD51	7-31
	*5 桁のアドオン　無効	UPEAD50	7-31
UPC-E1	*無効	UPEEN10	7-31
	有効	UPEEN11	7-31
EAN/JAN-13	すべての設定を初期化	E13DFT	7-32
	無効	E13ENA0	7-32
	*有効	E13ENA1	7-32
EAN/JAN-13 チェックデジット	無効	E13CKX0	7-32
	*有効	E13CKX1	7-32
EAN/JAN-13 2 桁のアドオン	2 桁のアドオン　有効	E13AD21	7-33
	* 2 桁のアドオン　無効	E13AD20	7-33
EAN/JAN-13 5 桁のアドオン	5 桁のアドオン　有効	E13AD51	7-33
	*5 桁のアドオン　無効	E13AD50	7-33
EAN/JAN-13 アドオンの要求	*要求しない	E13ARQ0	7-33
	要求する	E13ARQ1	7-33
EAN/JAN-13 アドオンセパレーター	無効	E13ADS0	7-34
	*有効	E13ADS1	7-34
ISBN 変換	*無効	E13ISB0	7-34
	有効	E13ISB1	7-34
EAN/JAN-8	すべての設定を初期化	EA8DFT	7-35
	無効	EA8ENA0	7-35
	*有効	EA8ENA1	7-35
EAN/JAN-8 チェックデジット	無効	EA8CKX0	7-35
	*有効	EA8CKX1	7-35
EAN/JAN-8 2 桁のアドオン	2 桁のアドオン　有効	EA8AD20	7-36
	* 2 桁のアドオン　無効	EA8AD21	7-36
EAN/JAN-8 5 桁のアドオン	5 桁のアドオン　有効	EA8AD50	7-36
	*5 桁のアドオン　無効	EA8AD51	7-36
EAN/JAN-8 アドオンの要求	*要求しない	EA8ARQ0	7-36
	要求する	EA8ARQ1	7-36
EAN/JAN-8 アドオンセパレーター	無効	EA8ADS0	7-36
	*有効	EA8ADS1	7-36
MSI	すべての設定を初期化	MSIDFT	7-37
	*無効	MSIENA0	7-37
	有効	MSIENA1	7-37

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
MSI チェックキャラクタ	* タイプ 10 有効、送信しない	MSICHK0	7-38
	タイプ 10 有効、送信する	MSICHK1	7-38
	タイプ 10 有効、2 キャラクタ、 送信しない	MSICHK2	7-38
	タイプ 10 有効、2 キャラクタ、 送信する	MSICHK3	7-38
	タイプ 10 有効、タイプ 11 有効、 送信しない	MSICHK4	7-38
	タイプ 10 有効、タイプ 11 有効、 送信する	MSICHK5	7-38
	MSI チェックキャラクタ　無効	MSICHK6	7-38
MSI 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (4 - 48) *4	MSIMIN##	7-38
	最大読み取り桁数 (4 - 48) *48	MSIMAX##	7-38
GS1 データバー　標準型	すべての設定を初期化	RSSDFT	7-39
	無効	RSSENA0	7-39
	*有効	RSSENA1	7-39
GS1 データバー　限定型	すべての設定を初期化	RSLDFT	7-39
	無効	RSLENA0	7-39
	*有効	RSLENA1	7-39
GS1 データバー　拡張型	すべての設定を初期化	RSEDFT	7-40
	無効	RSEENA0	7-40
	*有効	RSEENA1	7-40
GS1 データバー：読み取り桁数	最小読み取り桁数 (4 - 74) *4	RSEMIN##	7-40
	最大読み取り桁数 (4 - 74) *74	RSEMAX##	7-40
Trioptic Code	*無効	TRIENA0	7-41
	有効	TRIENA1	7-41
Codablock A	すべての設定を初期化	CBADFT	7-42
	*無効	CBAENA0	7-42
	有効	CBAENA1	7-42
Codablock A 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1 - 600) * 1	CBAMIN####	7-42
	最大読み取り桁数 (1 - 600) * 600	CBAMAX####	7-42
Codablock F	すべての設定を初期化	CBFDFT	7-43
	*無効	CBFENA0	7-43
	有効	CBFENA1	7-43
Codablock F 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1 - 2048) * 1	CBFMIN####	7-43
	最大読み取り桁数 (1 - 2048) * 2048	CBFMAX####	7-43
PDF417	すべての設定を初期化	PDFDFT	7-44
	*有効	PDFENA1	7-44
	無効	PDFENA0	7-44
PDF417 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1-2750) * 1	PDFMIN##	7-44
	最大読み取り桁数 (1-2750) * 2750	PDFMAX##	7-44
MicroPDF417	すべての設定を初期化	MPDDFT	7-45
	有効	MPDENA1	7-45
	*無効	MPDENA0	7-45
MicroPDF417 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1-366) *1	MPDMIN##	7-45
	最大読み取り桁数 (1-366) * 366	MPDMAX##	7-45
GS1 コンポジット	有効	COMENA1	7-45
	*無効	COMENA0	7-45
UPC/EAN バージョン	有効	COMUPC1	7-46
	*無効	COMUPC0	7-46

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
GS1 コンポジット 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1-2435) * 1	COMMIN##	7-46
	最大読み取り桁数 (1-2435) *2435	COMMAX##	7-46
GS1 エミュレーション	GS1-128 エミュレーション	EANEMU1	7-47
	GS1 データバー　エミュレーション	EANEMU2	7-47
	GS1 コード拡張　無効	EANEMU3	7-47
	EAN8 から EAN13 へ変換	EANEMU4	7-47
	*GS1 エミュレーション　無効	EANEMU0	7-47
TCIF Linked Code 39	有効	T39ENA1	7-48
	*無効	T39ENA0	7-48
QR コード	すべての設定を初期化	QRCDFT	7-49
	*有効	QRCENA1	7-49
	無効	QRCENA0	7-49
QR コード 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1-7089) * 1	QRCMIN##	7-50
	最大読み取り桁数 (1-7089) * 7089	QRCMAX##	7-50
QR コード　コードページ	コードページ	QRCDCP	7-50
Data Matrix	すべての設定を初期化	IDMDFT	7-51
	*有効	IDMENA1	7-51
	無効	IDMENA0	7-51
Data Matrix 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1-3116) * 1	IDMMIN##	7-51
	最大読み取り桁数 (1-3116) * 3116	IDMMAX##	7-51
Data Matrix 連結機能	* 有効	IDMAPP1	7-52
	無効	IDMAPP0	7-52
Data Matrix コードページ	コードページ	IDMDCP	7-52
MaxiCode	すべての設定を初期化	MAXDFT	7-53
	*有効	MAXENA1	7-53
	無効	MAXENA0	7-53
MaxiCode 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1-150) *1	MAXMIN##	7-53
	最大読み取り桁数 (1-150) * 150	MAXMAX##	7-53
Aztec コード	すべての設定を初期化	AZTDFT	7-54
	*有効	AZTENA1	7-54
	無効	AZTENA0	7-54
Aztec コード 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1-3832) * 1	AZTMIN##	7-54
	最大読み取り桁数 (1-3832) *3832	AZTMAX##	7-54
Aztec コード　連結機能	* 無効	AZTAPP0	7-55
	有効	AZTAPP1	7-55
Aztec コード　コードページ	コードページ	AZTDCP	7-55
中国郵便コード（漢信コード）	すべての設定を初期化	HX_DFT	7-56
	有効	HX_ENA1	7-56
	*無効	HX_ENA0	7-56
中国郵便コード（漢信コード） 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1-7833) * 1	HX_MIN##	7-56
	最大読み取り桁数 (1-7833) * 7833	HX_MAX##	7-56
2 次元郵便コード			
2 次元郵便コード（単独）	* 無効	POSTAL0	7-57
	オーストラリア郵便　有効	POSTAL1	7-57
	英国郵便　有効	POSTAL7	7-57
	カナダ郵便　有効	POSTAL30	7-57
	インテリジェントメールバーコード　有効	POSTAL10	7-57
	日本郵便　有効	POSTAL3	7-57
	KIX 有効	POSTAL4	7-57

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
2 次元郵便コード			
2 次元郵便コード（単独）	Planet Code　有効	POSTAL5	7-57
	Postal-4i　有効	POSTAL9	7-57
	Postnet　有効	POSTAL6	7-58
	Postnet B および B' フィールドつき 有効	POSTAL11	7-58
	InfoMail　有効	POSTAL2	7-58
2 次元郵便コード（組み合わせ）	InfoMail および 英国郵便　有効	POSTAL8	7-58
	インテリジェントメールバーコード および Postnet B および B' フィールドつき　有効	POSTAL20	7-58
	Postnet および Postal- 4i 有効	POSTAL14	7-58
	Postnet および インテリジェントメール バーコード　有効	POSTAL16	7-58
	Postal-4i および インテリジェントメール バーコード　有効	POSTAL17	7-58
	Postal-4i および Postnet B および B' フィールドつき　有効	POSTAL19	7-58
	Planet および Postnet　有効	POSTAL12	7-58
	Planet および Postnet B および B' フィールドつき　有効	POSTAL18	7-58
	Planet および Postal-4i　有効	POSTAL13	7-59
	Planet および インテリジェントメール バーコード　有効	POSTAL15	7-59
	Planet, Postnet, および Postal-4i　有効	POSTAL21	7-59
	Planet, Postnet, および インテリジェントメールバーコード　有効	POSTAL22	7-59
	Planet, Postal-4i, および インテリジェントメールバーコード　有効	POSTAL23	7-59
	Postnet, Postal-4i, および インテリジェントメールバーコード　有効	POSTAL24	7-59
	Planet, Postal-4i, Postnet B および B' フィールドつき　有効	POSTAL25	7-59
	Planet, インテリジェントメールバーコード, Postnet B および B'　フィールドつき　有効	POSTAL26	7-59
	Postal-4i, インテリジェントメールバーコード, Postnet B および B' フィールドつき　有効	POSTAL27	7-59
	Planet, Postal-4i, インテリジェントメール バーコード, Postnet　有効	POSTAL28	7-59
	Planet, Postal-4i, インテリジェントメール バーコード, Postnet B および B' フィールドつき　有効	POSTAL29	7-59
Planet Code チェックデジット	* 送信しない	PLNCKX0	7-60
	送信する	PLNCKX1	7-60
Postnet チェックデジット	* 送信しない	NETCKX0	7-60
	送信する	NETCKX1	7-60
オーストラリア郵便	バー出力	AUSINT0	7-60
	数字 N テーブル	AUSINT1	7-60
	英数字 C テーブル	AUSINT2	7-60
	N および C の組み合わせ	AUSINT3	7-60
1 次元郵便コード			
中国郵便コード (Hong 2 of 5)	すべての設定を初期化	CPCDFT	7-61
	* 無効	CPCENA0	7-61
	有効	CPCENA1	7-61

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
1 次元郵便コード			
中国郵便コード (Hong 2 of 5) 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (2 - 80) *4	CPCMIN##	7-62
	最大読み取り桁数 (2 - 80) * 80	CPCMAX##	7-62
韓国郵便コード	すべての設定を初期化	KPCDFT	7-63
	* 無効	KPCENA0	7-63
	有効	KPCENA1	7-63
韓国郵便コード 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (2 - 80) *4	KPCMIN##	7-63
	最大読み取り桁数 (2 - 80) * 48	KPCMAX##	7-63
韓国郵便コード チェックデジット	* チェックデジットを送信しない	KPCCHK0	7-63
	チェックデジットを送信する	KPCCHK1	7-63
イメージングコマンド			
画像の撮影	すべての設定を初期化	IMGDFT	8-1
	撮影スタイル：Decoding Style	SNPSTY0	8-2
	* 撮影スタイル：Photo Style	SNPSTY1	8-2
	撮影スタイル：Manual Style	SNPSTY2	8-2
	ブザー　有効	SNPBEP1	8-2
	* ブザー　無効	SNPBEP0	8-2
	* すぐに画像を撮影する	SNPTRG0	8-2
	トリガーが引かれてから画像を撮影する	SNPTRG1	8-2
	* LED オフ	SNPLED0	8-2
	LED オン	SNPLED1	8-2
	露光 (1-7874 ミリ秒)	SNPEXP	8-3
	* ゲインなし	SNPGAN1	8-3
	ゲイン　中	SNPGAN2	8-3
	ゲイン　高	SNPGAN4	8-3
	ゲイン　最大	SNPGAN8	8-3
	ホワイト値 (0-255) * 125	SNPWHT###	8-4
	ホワイト値許容範囲 (0-255) * 25	SNPDEL###	8-4
	アップデートトライ (0-10) * 6	SNPTRY##	8-4
	ターゲットポイント比率 (1-99) * 50	SNPPCT##	8-4
画像の送信	* 無限遠フィルタ　無効	IMGINF0	8-5
	無限遠フィルタ　有効	IMGINF1	8-5
	* 圧縮　無効	IMGCOR0	8-6
	圧縮　有効	IMGCOR1	8-6
	* ピクセル濃度　8bit　グレースケール画像	IMGBPP8	8-6
	ピクセル濃度　1bit　白黒画像	IMGBPP1	8-6
	* 画像をシャープにしない	IMGEDG0	8-7
	画像をシャープにする (1-24)	IMGEDG##	8-7
	* ファイル形式：JPEG	IMGFMT6	8-7
	ファイル形式：KIM	IMGFMT0	8-7
	ファイル形式：TIFF バイナリ	IMGFMT1	8-7
	ファイル形式：TIFF バイナリグループ 4　圧縮	IMGFMT2	8-7
	ファイル形式：TIFF グレースケール画像	IMGFMT3	8-7
	ファイル形式：無圧縮　バイナリ	IMGFMT4	8-7
	ファイル形式：無圧縮　グレースケール	IMGFMT5	8-7
	ファイル形式：BMP	IMGFMT8	8-7
	ファイル形式：TIFF カラー画像　圧縮	IMGFMT10	8-7
	ファイル形式：TIFF カラー画像　無圧縮	IMGFMT11	8-7

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
画像の送信	ファイル形式：JPEG　カラー画像	IMGFMT12	8-7
	ファイル形式：BMP　カラー画像	IMGFMT14	8-7
	ファイル形式：BMP　無圧縮　未加工画像	IMGFMT15	8-7
	* ヒストグラム　ストレッチなし	IMGHIS0	8-8
	ヒストグラム　ストレッチあり	IMGHIS1	8-8
	X 軸に対して画像を上下反転	IMGNVX1	8-8
	Y 軸に対して画像を左右反転	IMGNVY1	8-8
	* ノイズの低減　無効	IMGFSP0	8-9
	ノイズの低減　有効	IMGFSP1	8-9
	画像の回転なし	IMGROT0	8-9
	画像を右に 90° 回転	IMGROT1	8-9
	画像を右に 180° 回転	IMGROT2	8-9
	画像を左に 90° 回転	IMGROT3	8-9
	JPEG 画像品質 (1-100) * 50	IMGJQF###	8-10
	* ガンマ補正　無効	IMGGAM0	8-10
	ガンマ補正　有効 (1-1000)	IMGGAM###	8-10
	画像の切り取り：左 (0-640) * 0	IMGWNL###	8-10
	画像の切り取り：右 (0-640) * 639	IMGWNR###	8-10
	画像の切り取り：上 (0-480）* 0	IMGWNT###	8-10
	画像の切り取り：下 (0-480) * 479	IMGWNB###	8-10
	画像の切り取り：余白 (1-238) * 0	IMGMAR###	8-10
	プロトコルなし(生データ)	IMGXFR0	8-11
	プロトコルなし (USB 初期設定)	IMGXFR2	8-11
	プロトコル (Hmodem 圧縮)	IMGXFR3	8-11
	プロトコル (Hmodem)	IMGXFR4	8-11
	すべてのピクセルを送信	IMGSUB1	8-11
	* 2 ピクセルごとに送信	IMGSUB2	8-11
	3 ピクセルごとに送信	IMGSUB3	8-11
	* 文書画像フィルタ　無効	IMGUSH0	8-12
	文書画像フィルタ　有効 (0-255)	IMGUSH###	8-12
	* ヒストグラムを送信しない	IMGHST0	8-13
	ヒストグラムを送信する	IMGHST1	8-13
画像サイズの互換性	VGA 解像度の強制	IMGVGA1	8-14
	* 元の画像解像度	IMGVGA0	8-14
署名の取り込み	* 最適化　無効	DECBND0	8-14
	最適化　有効	DECBND1	8-14
ユーティリティ			
すべての体系へテストコード ID を追加		PRECA2,BK2995C80!	10-1
デコーダーの改訂情報を表示		REV_DR	10-1
ドライバーの改訂情報を表示		REV_SD	10-1
ソフトウェアの改訂情報を表示		REVINF	10-1
データフォーマットの表示		DFMBK3?	10-2
テストメニュー	* 無効	TSTMNU0	10-2
	有効	TSTMNU1	10-2
プラグイン アプリケーション	画像アプリ　オン	PLGIPE1	10-3
	画像アプリ　オフ	PLGIPE0	10-3
	デコードアプリ　オン	PLGDCE1	10-3
	デコードアプリ　オフ	PLGDCE0	10-3

設定項目	設定 * 初期設定	シリアルコマンド # 数値入力を示す	ページ
ユーティリティ			
プラグイン アプリケーション	フォーマットアプリ　オン	PLGFOE1	10-3
	フォーマットアプリ　オフ	PLGFOE0	10-3
	アプリ一覧の表示	PLGINF	10-3

12

製品仕様

Xenon 1900/1910 スキャナ製品仕様

項　目	仕　様	
外形寸法		
高さ	16cm	
長さ	10.41cm	
幅	7.11cm	
重量	147.42g	
照明 LED		
ピーク時波長	624nm ± 18nm （赤色 LED） IEC 62471: “Exempt Risk Group”	
	442nm, 552nm （白色 LED） IEC 62471: “Exempt Risk Group”	
エイミング		
ピーク時レーザー波長	650nm IEC: 60825-1: “Class 2”	
	624nm ± 18nm IEC 62471: “Exempt Risk Group”	
レーザー光学電力	<1mW	
イメージサイズ	838 x 640 ピクセル	
スキュー角度	± 65°	
ピッチ角度	± 45°	
移動読み取り		
ストリーミングプレゼンテーショントリガー	609.6cm/秒（0.331mm UPC バーコード読み取り時）	
印字コントラスト	Grade 1.0（20% 以上）	
電圧条件	4 – 5.5VDC（入力コネクタ）	
電流引き込み（5VDC）	読み取り時	待機時
モノクロ	470mA, 2.35W	90mA, 0.45W
カラー	490mA, 2.45W	90mA, 0.45W
電力供給ノイズ除去	最大 100mV （最大振幅）, 10 – 100 kHz	
温度範囲		
動作時	0 – 50℃	
保存時	-40 – 70℃	
湿度範囲	0 – 95%（結露無きこと）	
耐衝撃	23℃時　1.83m の高さからコンクリート面に 50 回の落下に耐えること	
耐振動	22 – 300Hz 5G ピークに耐えること	
耐静電気	直接空気の場合、15kV 間接的結合面の場合、8kV	

Xenon 1902 スキャナ製品仕様

項　目	仕　様
外形寸法	
高さ	16cm
長さ	10.41cm
幅	7.11cm
重量	212.62g
照明 LED	
ピーク時波長	624nm ± 18nm （赤色 LED） IEC 62471: “Exempt Risk Group”
	442nm, 552nm （白色 LED） IEC 62471: “Exempt Risk Group”
エイミング	
ピーク時レーザー波長	650nm IEC: 60825-1: “Class 2”
	624nm ± 18nm IEC 62471: “Exempt Risk Group”
レーザー光学電力	<1mW
イメージサイズ	838 x 640 ピクセル
スキュー角度	± 65°
ピッチ角度	± 45°
移動読み取り	
ストリーミングプレゼンテーショントリガー	609.6cm/秒（0.331mm UPC バーコード読み取り時）
印字コントラスト	Grade 1.0（20% 以上）
バッテリー	
リチウムイオン	1800mAHr（最小）
読み取り回数	1 回の完全充電で 5 万回
想定動作時間	14 時間
想定充電時間	4.5 時間
無線	
周波数	2.4 – 2.5 GHz (ISM バンド)　FH 方式　Bluetooth V2.1
範囲	10m（標準）
データレート	1MBps まで
温度範囲	
動作時	0 – 50℃
保存時※	-40 – 70℃
湿度範囲	0 – 95%
耐衝撃	23℃時　1.83m の高さからコンクリート面に 50 回の落下に耐えること
耐振動	22 – 300Hz 5G ピークに耐えること
耐静電気	直接空気の場合、15kV 間接的結合面の場合、8kV
防塵・防滴シールド	IP41

※　保存温度範囲外の温度で保存した場合、バッテリーの寿命に有害な影響をもたらす可能性があります。

CCB01-010BT　チャージャーホームベース製品仕様

項　目	仕　様
外形寸法	
高さ	8.128cm
長さ	13.183cm
幅	10.109cm
重量	179g
電圧	4.5 – 5.5V
電流引き込み	
ホストターミナルポート	500mA
AUX（補助）電力ポート	1A
充電時間	5 時間
無線	
周波数	2.4 – 2.5 GHz (ISM バンド)　FH 方式　Bluetooth V2.1
範囲	10m（標準）
データレート	1MBps まで
温度範囲	
動作時	0 – 50℃
バッテリー充電時	5 – 40℃
保存時	-40 – 70℃
湿度範囲	0 – 95%（結露なきこと）
耐衝撃	1m の高さからコンクリート面に 50 回落下させた衝撃に耐えること
耐振動	22 – 300Hz 5G ピークに耐えること
耐静電気	直接空気の場合、15kV 間接的結合面の場合、8kV

読取深度

モノクロスキャナ　標準性能

焦　点	HD（高分解能）		SR（標準レンジ）		ER（拡張レンジ）	
シンボル	近距離	遠距離	近距離	遠距離	近距離	遠距離
0.127mm　Code39	0mm	104.1mm	27.9mm	134.6mm	94mm	203.2mm
0.331mm　UPC	10.2mm	167.6mm	10.2mm	439.4mm	25.4mm	525.8mm
0.508mm　Code39	10.2mm	233.7mm	12.7mm	584.2mm	25.4mm	596.9mm
0.171mm　PDF417	0mm	109.2mm	10.2mm	154.9mm	71.1mm	233.7mm
0.254mm　Data Matrix	0mm	127mm	12.7mm	190.5mm	63.5mm	287mm
0.508mm　QR コード	10.2mm	190.5mm	15.2mm	383.5mm	17.8mm	482.6mm
解像度：1D, Code39	0.076mm		0.127mm		0.127mm	
解像度：2D, Data Matrix	0.127mm		0.17mm		0.191mm	

モノクロスキャナ　保証性能

焦　点	HD（高分解能）		SR（標準レンジ）		ER（拡張レンジ）	
シンボル	近距離	遠距離	近距離	遠距離	近距離	遠距離
0.127mm　Code39	0mm	91.4mm	43.2mm	127mm	106.7mm	198.1mm
0.331mm　UPC	15.2mm	139.7mm	10.2mm	401.3mm	27.9mm	500.4mm
0.508mm　Code39	15.2mm	208.3mm	12.7mm	462.3mm	38.1mm	635mm
0.171mm　PDF417	0mm	96.5mm	15.2mm	152.4mm	83.8mm	221mm
0.254mm　Data Matrix	0mm	109.2mm	22.9mm	165.1mm	86.4mm	261.6mm
0.508mm　QR コード	20.3mm	170.2mm	17.8mm	353.1mm	22.9mm	457.2mm
解像度：1D, Code39	0.076mm		0.127mm		0.127mm	
解像度：2D, Data Matrix	0.127mm		0.17mm		0.191mm	

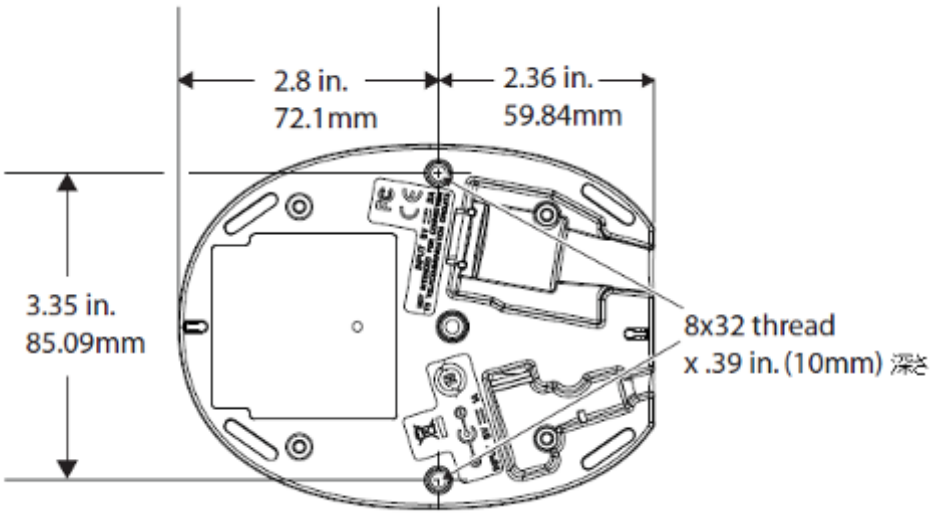
カラースキャナ　標準性能

焦　点	HD（高分解能）		SR（標準レンジ）	
シンボル	近距離	遠距離	近距離	遠距離
0.127mm　Code39	0mm	91.4mm	27.9mm	132.1mm
0.331mm　UPC	10.2mm	149.9mm	10.2mm	411.5mm
0.508mm　Code39	10.2mm	213.4mm	12.7mm	558.8mm
0.171mm　PDF417	0mm	96.5mm	10.2mm	152.4mm
0.254mm　Data Matrix	0mm	106.7mm	12.7mm	177.8mm
0.508mm　QR コード	10.2mm	172.7mm	15.2mm	340.4mm
解像度：1D, Code39	0.076mm		0.127mm	
解像度：2D, Data Matrix	0.127mm		0.17mm	

カラースキャナ　保証性能

焦　点	HD（高分解能）		SR（標準レンジ）	
シンボル	近距離	遠距離	近距離	遠距離
0.127mm　Code39	0mm	83.8mm	43.2mm	124.5mm
0.331mm　UPC	15.2mm	132.1mm	10.2mm	368.3mm
0.508mm　Code39	12.7mm	188mm	12.7mm	444.5mm
0.171mm　PDF417	0mm	86.4mm	12.7mm	144.8mm
0.254mm　Data Matrix	0mm	101.6mm	20.3mm	162.6mm
0.508mm　QR コード	17.8mm	157.5mm	17.8mm	312.4mm
解像度：1D, Code39	0.076mm		0.127mm	
解像度：2D, Data Matrix	0.127mm		0.17mm	

CCB01-010BT 充電ベース取り付け部



標準ケーブルのピン配列

キーボードウェッジ

10 ピンの RJ41 モジュラープラグ
ベースに接続

1. ケーブルシールド
2. ケーブルセレクト
3. 電源グラウンド
4. ターミナルデータ
5. ターミナルクロック
6. キーボードクロック
7. 電源接続　+5V
8. キーボードデータ

注意：ピン配列はハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピン配列のケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

標準ケーブルのピン配列

シリアルアウトプット

10 ピンの RJ41 モジュラープラグ
ベースに接続

1. ケーブルシールド
2. ケーブルセレクト
3. 電源グラウンド
4. データ転送
5. データ受信（スキャナへのシリアルデータ）
6. CTS
7. 電源接続　5V
8. RTS
9.
10.

注意：ピン配列 は ハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピン配列のケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

標準ケーブルのピン配列

RS485 アウトプット

10 ピンの RJ41 モジュラープラグ
ベースに接続

1. ケーブルシールド
2. ケーブルセレクト
3. 電源グラウンド
4. データ転送
5. データ受信（スキャナへのシリアルデータ）
6.
7. 電源接続　5V
8. 送信イネーブル
9.
10.

注意：RS485 の信号変換はケーブル内で行われます。
ピン配列 は ハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピン配列のケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

標準ケーブルのピン配列

USB アウトプット

10 ピンの RJ41 モジュラープラグ
ベースに接続

1. ケーブルシールド
2. ケーブルセレクト
3. 電源グラウンド
4.
5.
6.
7. 電源接続　5V
8.
9. データ＋
10. データ－

注意：ピン配列はハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。
不適切なピン配列のケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。
メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

13

保守

修理

修理、アップグレードはこの製品に付属しておりません。これらのサービスは、かならず正規のサービスセンターで受けてください（14-1 ページの『テクニカルサポート』を参照）。

保守

本機器は、最低限の手入れで確実で効率的な動作を提供します。特別な保守は不要ですが、以下の定期点検によって信頼性の高いスキャナの動作を確保できます。

機器の清掃

スキャナの窓が汚れていると、読み取り性能が低下することがあります。汚れが目立ったり、十分に動作しない場合は、柔らかい布やレンズ用ティッシュを水（または水で薄めた中性洗剤）で軽く濡らして窓を拭いてください。洗剤を使用する場合は、水だけで濡らしたきれいなレンズ用ティッシュで拭き取ってください。スキャナやベースのハウジングも同様に清掃できます。

警告

スキャナを水に浸けないでください。
スキャナのハウジングに耐水性はありません。

研磨剤入りの布やティッシュを使用しないでください。窓を傷つけることがあります。ハウジングや窓には溶剤（アルコールやアセトンなど）を絶対に使用しないでください。表面や窓を傷めることがあります。

ウィンドウの清掃

スキャナのウィンドウの汚れが、スキャナの読み取り性能を低下させる原因になる場合があります。スキャナのウィンドウが明らかに汚れいる、またはスキャナが上手く動作していない場合は、後続の「ヘルスケアハウジングについて」に書かれている洗浄剤を使用してウィンドウを清掃してください。

ヘルスケアハウジング（殺菌洗浄可能ハウジング）について

Xenon シリーズには殺菌洗浄可能ハウジングオプションがあり、医療の現場で使用されている強力な化学物質に耐えるよう、外部のプラスティックハウジングを備えています。化学物質がハウジングをすり抜けて侵入しないよう、プラスティックが透明になっています。

重要!

下記は、Xenon スキャナの殺菌洗浄可能ハウジングの安全洗浄を試験・確証された洗剤の一覧です。このハウジングの洗浄を認められた洗剤は、下記一覧のみとなります。下記に記された洗剤以外の洗剤を使用することによってスキャナが何らかのダメージを負った場合、そのダメージは保証対象外となりますのでご注意ください。

- Sani-Cloth® HB wipes
- Sani-Cloth® Plus wipes
- Super Sani-Cloth® wipes
- Isorophyl Alchole wipes (70%)
- Cavi Wipes™
- Virex ® 256
- 409® Glass and Surfice Cleaner
- Windex® Blue
- Clorox® Bleach (10%)
- Gentle Dish Soap and Water

ケーブルとコネクタの点検

傷みやその他損傷の痕跡が無いかインターフェースケーブルとコネクタを点検してください。ケーブルがひどく傷んでいたりコネクタが損傷していると、スキャナの動作を妨げることがあります。ケーブル交換については、お買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。ケーブルの交換手順は 11-3 ページに記載されています。

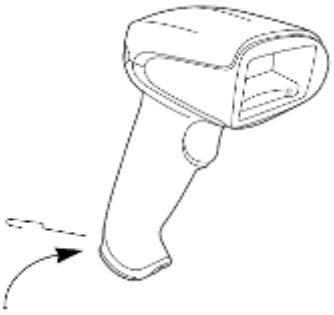
ケーブル交換

標準のインターフェースケーブルが 10 ピンのモジュラコネクタとともに付属しています。適切に設置された場合、コネクタはフレキシブルリテンションタブによってスキャナのハンドルに収まります。インターフェースケーブルは現場で交換できるように設計されています。

- 交換用ケーブルはハネウェル社もしくは正規の販売店よりお求めください。
- 交換用ケーブルご注文の際は、元々のインターフェースケーブルのケーブル部品番号をご指定ください。

スキャナのインターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源を無効にします。
2. スキャナのケーブルをターミナルまたはコンピュータから外します。
3. スキャナのハンドルの裏側にある小さな穴を確認します。これがケーブルリリースです。
4. ペーパークリップの片方の先端を真っ直ぐにします。
5. 真っ直ぐにしたペーパークリップの先端を小さな穴に差し込んで押します。これがリテンションタブを押し、コネクタのロックが解除されます。ペーパークリップを押したままコネクタを引き抜きます。
6. 新しいケーブルと交換します。コネクタを穴に差し込んで確実に押します。コネクタには、一方向だけに入るようにキーが付いています。所定の位置でカチッと音がします。

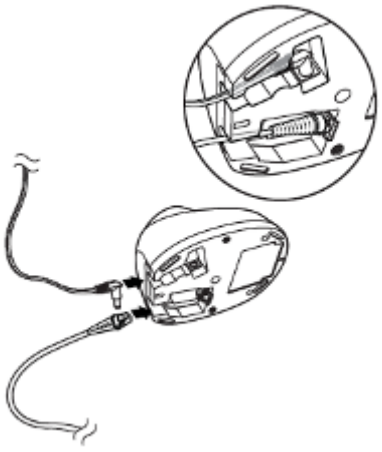


ケーブル
リリース

コードレスシステムのケーブルおよびバッテリーの交換

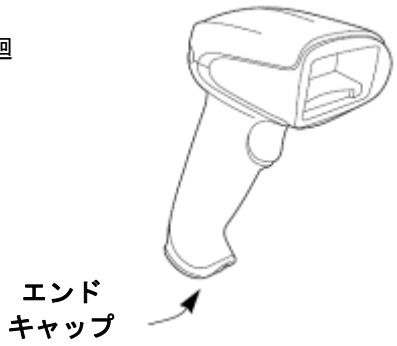
ベースユニットのインターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源を切ってください。
2. ベースユニットのケーブルをホストデバイスから外してください。
3. ベースユニットを裏返しにしてください。
4. ケーブルコネクタのリリースクリップを押しながら、ケーブルをゆっくりと引き抜いてください。
5. 新しいケーブルをベースユニット裏面にある穴に入れて、カチッという音が鳴るまでしっかりと押し込んでください。



スキャナバッテリーの交換

1. スキャナのエンドキャップ（持ち手端部分）にあるスクリューも廻し、緩めてください。
2. バッテリーを持ち手部分からゆっくり引く抜いてください。
3. 新しいバッテリーを同じ箇所に差し込んでください。
4. エンドキャップをかぶせ、スクリューを締めて下さい。



Xenon スキャナのトラブルシューティング

電源を入れると、スキャナはその都度セルフテストを自動的に実行します。お使いのスキャナが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題点を明らかにしてください。

電源が入っていますか？レーザーエイマーがオンになっていますか？

レーザーエイマーが示されない場合は、以下の点をチェックしてください。
- ケーブルが正しく接続されているか。
- ホストシステムの電源がオンになっているか（外部電源を使用しない場合）。
- ボタンが動作するか。

シンボルの読み取りでスキャナに問題がありますか？

シンボルを正しく読み取らない場合は, スキャナウィンドウが汚れていないか、またシンボルについて以下の点をチェックしてください。
- シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- シンボルがスキャナ、またはスキャナが接続されているデコーダーで有効になっているか。

バーコードが表示されても入力されませんか？

バーコードはホスト機器で正常に表示されていますが、入力するためにはまだキーを押す必要があります（Enter/Return キーや Tab キーなど）。
- サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、スキャナはバーコードデータと必要なキー（「CR」など）を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。詳細については、5-1 ページの「プリフィクス/サフィックスの概要」を参照してください。

スキャナがバーコードを間違って読み取っていますか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合は
- スキャナが適切なターミナルインタフェース用に設定されていない可能性があります。
  例えば、「12345」を読み取っても、ホストが「@es%」と表示する場合など。正しいプラグ&プレイバーコードでスキャナを再設定してください。2-1 ページからのインターフェースの設定を参照してください。
- スキャナがバーコードデータを正しく出力するように設定されていない可能性があります。
  例えば、「12345」を読み取ってもホストが「A12345B」と表示する場合など。 正しいシンボルを選択してスキャナを再設定してください。これについては第 7 章を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取らない。

1. 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナがサンプルバーコートを読み取る場合は、お使いのバーコードが読み取り可能か確認してください。お使いのバーコードシンボルが有効になっているか確認してください（第 7 章を参照）。
2. それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、7-1 ページの **AllSymbologies On（すべてのシンボル　有効）**を読み取ってください。

スキャナで設定されているプログラミングオプションが不明の場合、または出荷時初期設定を復元したい場合は、1-8 ページの『カスタムデフォルト設定』を参照してください。

コードレスシステムのトラブルシューティング

ベースユニットのトラブルシューティング

注意：スキャナならびにベースユニットの最新ファームウェアについては、ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) のサービス＆サポートセクションにアクセスください。

お使いのベースが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題点を明らかにしてください。

赤色 LED ライトがつきますか。

赤色 LED ライトがつかない場合は、以下の点をご確認ください。

- 電源ケーブルが正しく接続されており、電源に電気が投入されているか。
- ホストデバイスの電源がオンになっているか （外部電源を使用しない場合）。

緑色 LED ライトがつきますか。

緑色 LED ライトがつかない場合は、以下の点をご確認ください。

- スキャナがベースにきちんと置かれているか。
- 外部電源またはホストデバイスから 12V の電力が供給されているか。
- 充電モードが有効になっているか。（3-5 ページのブザーおよび LED のシーケンスと意味を参照）
- バッテリーに異常がないか、重度の充電不足ではないか。この場合は、スキャナの許容レベルまでバッテリートリクル充電を行い、 その後、一般の充電サイクルに転じます。

コードレススキャナのトラブルシューティング

注意：スキャナのバッテリーが充電されていることをご確認ください。スキャナやベースの最新ファームウェアについては、ウェブサイト(www.honeywellaidc.com) のサービス＆サポートセクションにアクセスください。

スキャナに問題はありませんか？

シンボルを正しく読み取らない場合は、以下の項目を確認してください。

- シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- スキャナと接続されているベースもしくはアクセスポイントが有効か。

バーコードが表示されたものの、入力されませんか？

ホストシステムによっては、バーコードデータを入力するためにキーを押す必要がある場合があります。（Enter/Return キーや Tab キーなど。）

- サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、スキャナはバーコードデータと必要なキー（「CR」など）を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。詳細については、5-1 ページの「プリフィクス/サフィックスについて」を参照してください。

スキャナがバーコードを間違って読み取っていませんか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合はスキャナが適切なターミナルインタフェース用に設定されていない可能性があります。
例えば、「12345」を読み取っても、ホストが「 @es% 」と表示する場合など。正しいプラグ & プレイバーコードでスキャナを再設定してください。2-1 ページからのインターフェースの設定を参照してください。

- スキャナがバーコードデータをベースユニットに正しく出力するように設定されていない可能性があります。
  例えば、「12345」を読み取ってもホストが「A12345B」と表示する場合など、です。 正しいシンボルを選択してベースユニットを再設定してください。これについては第 7 章を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取らない。

1. 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナがサンプルバーコートを読み取る場合は、お使いのバーコードが読み取り可能か確認してください。お使いのバーコードシンボルが有効になっているか確認してください。（第 7 章を参照）
2. それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、7-2 ページの All Symbologies を読み取ってください。

14

カスタマーサポート

テクニカルサポート

インストールやトラブルシューティングに関するサポートが必要な場合は、次の販売店または最寄りのテクニカルサポート無効ィスにご連絡ください。

北アメリカ／カナダ
TEL: (800) 782-4263
E-mail: hsmnasupport@honeywell.com

ラテンアメリカ
TEL: (803) 835-8000
TEL: (800) 782-4263
E-mail: hsmlasupport@honeywell.com

ブラジル
TEL: +55 (11) 5185-8222
Fax: +55 (11) 5185-8225
E-mail: brsuporte@honeywell.com

メキシコ
TEL: 01-800-HONEYWELL (01-800-466-3993)
E-mail: soporte.hsm@honeywell.com

ヨーロッパ、中東、アフリカ
TEL: +31 (0) 40 7999 393
Fax: +31 (0) 40 2425 672
E-mail: hsmeurosupport@honeywell.com

香港
TEL: +852-29536436
Fax: +852-2511-3557
E-mail: aptechsupport@honeywell.com

シンガポール
TEL: +65-6842-7155
Fax: +65-6842-7166
E-mail: aptechsupport@honeywell.com

中国
TEL: +86 800 828 2803
Fax: +86-512-6762-2560
E-mail: aptechsupport@honeywell.com

日本
TEL: +81-3-6730-7344
Fax: +81-3-6730-7222
E-mail: aptechsupport@honeywell.com

オンラインでのテクニカルサポート

ウェブサイト（www.honeywellaidc.com）からオンラインでのテクニカルサポートがご利用いただけます。

製品のサービスと修理

ハネウェルは世界中のサービスセンターを通して全製品に対するサービスを提供しています。保証内または保証外のサービスを受けられる場合は、返品前に、以下の該当地域事務所に連絡し、RMA（Return Material Authorization）番号を取得してください。

北アメリカ
TEL: (800) 782-4263
E-mail: hsmnaservice@honeywell.com

ラテンアメリカ
TEL: (803) 835-8000
TEL: (800) 782-4263
Fax: (239) 263-9689
E-mail: laservice@honeywell.com

ブラジル
TEL: +55 (11) 5185-8222
Fax: +55 (11) 5185-8225
E-mail: brservice@honeywell.com

メキシコ
TEL: 01-800-HONEYWELL (01-800-466-3993)
Fax: +52 (55) 5531-3672
E-mail: mxservice@honeywell.com

ヨーロッパ、中東、アフリカ
TEL: +31 (0) 40 2901 633
Fax: +31 (0) 40 2901 631
E-mail: euroservice@honeywell.com

香港
TEL: +852-29536436
Fax: +852-2511-3557
E-mail: apservice@honeywell.com

シンガポール
TEL: +65-6842-7155
Fax: +65-6842-7166
E-mail: apservice@honeywell.com

中国
TEL: +86 800 828 2803
Fax: +86-512-6762-2560
E-mail: apservice@honeywell.com

日本
TEL: +81-3-6730-7344
Fax: +81-3-6730-7222
E-mail: apservice@honeywell.com

オンラインでの製品のサービスと修理

ウェブサイト（www.honeywellaidc.com）より製品のサービスならびに修理に関するオンラインサポートをご利用いただけます。

条件付保証

Honeywell International Inc. （以下ハネウェル社）は、出荷時にはその製品の材料および製造品質に欠陥がなく、お買い上げいただいた製品に適用されるハネウェル社の公式な仕様に適合することを保証いたします。だたし、この保証は、以下の場合はハネウェル社の製品であっても対象外となります。（ｉ）設置または使用方法が不適切。ii）正しい保守、サービス、および清掃手順に従わなかった場合を含めた事故や不注意での損傷。または（iii）以下の結果損傷した場合：（A）お客様または第三者が行った変更や改造、（B）インターフェース接続に過大な電圧や電流がかかったり流れたりした。（C）静電気または静電気放電、（D）指定の動作パラメータを超える条件での使用、（E）ハネウェル社または正規代理店以外が行った製品の修理や整備。

この保証期間は、出荷時点から、ご購入時に製品に対してハネウェル社が公式に示した期間（「保証期間」）とします。欠陥品は、点検のために保証期間内にハネウェル社の工場または正規サービスセンターにかならず返却してください（送料はお客様負担となります）。RMA（Return Material Authorization）が無ければ、ハネウェル社はどんな製品も受け付けません。RMA は、ハネウェル社に連絡すれば取得できます。保証期間内にハネウェル社または正規サービスセンターに製品が返却され、材料または製造品質の欠陥によって製品が故障したことを確認した場合、ハネウェル社は自社の選択によって製品を無償で修理または交換いたします。ただし、ハネウェル社への返却送料はご負担ください。

該当する法律によって規定されている場合を除き、上記の保証は、明示的であっても暗黙のものであっても、また口頭であっても書面であっても限定されることなく、特定の目的に対する商品性や適合のあらゆる暗黙の保証を含む他のあらゆる契約に代わるものです。この保証によるハネウェル社の賠償責任とお客様が受けられる唯一の補償は、欠陥品の修理または交換に限られます。いかなる場合も、ハネウェル社は直接的、間接的、あるいは結果的な損害には一切責任を負いません。また、ここでお買い上げいただいた製品に関して生じたハネウェル社の賠償額は（そうした賠償責任が契約、保証、不法行為などに基づく請求によるものであっても関係なく）、その製品のためにハネウェル社にお支払いいただいた実際の金額を限度とします。これらの賠償責任の限度は、そのような、けが、損失、損害などの可能性についてハネウェル社が知らされていた場合であっても有効です。一部の州、地区、あるいは国などでは、偶発的または結果的な損害の除外または制限を認めていません。その場合は、上記の制限または除外が適用にならないことがあります。

この条件付保証項目はすべて区分されており、分離が可能です。つまり、いずれかの条項が無効のまま実施できない場合でも、その決定は他の項目を実施する有効性には関係ありません。この製品の製造者自身が製造または販売していない周辺装置を使用した場合には、この保証は無効になります。この周辺装置には、ケーブル、電源、クレイドル、およびドッキングステーションが含まれます。ハネウェル社は、これらの保証を製品の最初のエンドユーザにのみ適用します。これらの保証は譲渡できません。

Xenon 1900 スキャナの保証期間は、5 年とします。
Xenon 1902 スキャナ および CCB01-010BT ベースユニットの保証期間は、3 年間とします。
Xenon 1902 バッテリーの保証期間は、1 年間とします。

A

付録チャート

シンボルチャート

注意：お使いの機器ですべてのシンボルがサポートされているとは限りません。

シンボル	AIM ID	AIM ID モディファイ(m)	コードID (HEX)
All Symbologies（全シンボル）			(0x99)
Australian Post（オーストラリア郵便）	]X0		A (0x41)
Aztec Code	]zm	0-9, A-C	z (0x7A)
Batch Mode Quantity （バッチモード数量）			5 (0x35)
British Post（英国郵便）	]X0		B (0x42)
Canadian Post（カナダ郵便）	]X0		C (0x43)
China Post（中国郵便）	]X0		Q (0x51)
Chinese Sensible Code（漢信コード）	]X0		H (0x48)
Codabar	]Fm	0-1	a (0x61)
Codablock A	]O6	0, 1, 4, 5, 6	V (0x56)
Codablock F	]Om	0, 1, 4, 5, 6	q (0x71)
Code 11	]H3		h (0x68)
Code 128	]Cm	0, 1, 2, 4	j (0x6A)
GS1-128	]C1		I (0x49)
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	]X0		< (0x3C)
Code 39 (Full ASCII モード対応)	]Am	0, 1, 3, 4, 5, 7	b (0x62)
Code 49	]Tm	0, 1, 2, 4	l (0x6C)
Code 93 and 93i	]Gm	0-9, A-Z, a-m	i (0x69)
Data Matrix	]dm	0-6	w (0x77)
EAN-13 (Bookland EAN を含む)	]E0		d (0x64)
EAN-13 with Add-On（アドオン付き EAN-13）	]E3		d (0x64)
EAN-13 with Extended Coupon Code （拡張クーポンコード付き EAN-13）	]E3		D (0x64)
EAN-8	]E4		D (0x44)
EAN-8 with Add-On（アドオン付き EAN-8）	]E3		D (0x44)
GS1 Composite （GS1 コンポジット）	]em	0-3	y (0x79)
GS1 DataBar （GS1 データバー）	]em	0	y (0x79)
GS1 Limited （GS1 限定型）	]em		{ (0x7B)
GS1 Ominidirectional (GS1 データバー標準型)	]em		y (0x79)
GS1 Expanded (GS1 データバー拡張型)	]em		} (0x7D)

シンボル	AIM ID	AIM ID モディファイ(m)	コード ID (HEX)
InfoMail	]X0		, (0x2c)
Intelligent Mail Barcode	]X0		M (0x4D)
Interleaved 2 of 5 (ITF)	]Im	0, 1, 3	e (0x65)
Japanese Post（日本郵便）	]X0		J (0x4A)
KIX (Netherlands) Post（オランダ郵便）	]X0		K (0x4B)
Korea Post（韓国郵便）	]X0		? (0x3F)
Matrix 2 of 5	]X0		m (0x6D)
MaxiCode	]Um	0-3	x (0x7 8)
MicroPDF417	]Lm	3-5	R (0x52)
MSI	]Mm	0	g (0x67)
NEC 2 of 5	]X0		Y (0x59)
OCR MICR (E 13 B)	]o3		O (0x4F)
OCR SEMI Font	]o3		O (0x4F)
OCR-A	]o1		O (0x4F)
OCR-B	]o2		O (0x4F)
PDF417	]Lm	0-2	r (0x72)
Planet Code	]X0		L (0x4C)
Postal-4i	]X0		N (0x4E)
Postnet	]X0		P (0x50)
QR Code ならびに Micro QR Code	]Qm	0-6	s (0x73)
Straight 2 of 5 IATA	]Rm	0, 1, 3	f (0x66)
Straight 2 of 5 Industrial	]S0		f (0x66)
TCIF Linked Code 39 (TLC39)	]L2		T (0x54)
Telepen	]Bm		t (0x54)
UPC-A	]E0		c (0x63)
UPC-A with Add-On（アドオン付き UPC-A）	]E3		c (0x63)
UPC-A with Extended Coupon Code（拡張コード付き UPC-A）	]E3		c (0x63)
UPC-E	]E0		E (0x45)
UPC-E with Add-On（アドオン付き UPC-E）	]E3		E (0x45)
UPC-E1	]X0		E (0x45)

注意：「m」は、AIM モディファイのキャラクタを示します。AIM モディファイキャラクタの詳細については、「International Technical Specification」の「Symbology Identifiers」を参照してください。

特定のシンボルに対するプリフィクス/サフィックスの入力は、汎用（All Symbologies、99）入力に優先します。

コード ID と AIM ID の使用方法については、5-1 ページからの『データの編集』と 6-1 ページからの『データフォーマット』を参照してください。

ASCII 変換チャート（コードページ 1252）

注意：この表は、米国方式のキーボードに適用されます。特定のキャラクタは、国コード・PC の地域設定によって異なる場合があります。

印刷不可能なキャラクタ					
DEC	HEX	キャラクタ（コード）	DEC	HEX	キャラクタ（コード）
0	0	NULL	16	10	DATA LINK ESCAPE (DLE)
1	1	START OF HEADING (SOH)	17	11	DEVICE CONTROL 1 (DC1)
2	2	START OF TEXT (STX)	18	12	DEVICE CONTROL 2 (DC2)
3	3	END OF TEXT (ETX)	19	13	DEVICE CONTROL 3 (DC3)
4	4	END OF TRANSMISSION (EOT)	20	14	DEVICE CONTROL 4 (DC4)
5	5	END OF QUERY (ENQ)	21	15	NEGATIVE ACKNOWLEDGEMENT (NAK)
6	6	ACKKNOWLEDGE (ACK)	22	16	SYNCRONIZE (SYN)
7	7	BEEP (BEL)	23	17	END OF TRANSMISSION BLOCK (ETB)
8	8	BACKSPACE (BS)	24	18	CANCEL (CAN)
9	9	HORIZONTAL TAB (HT)	25	19	END OF MEDIUM (EM)
10	A	LINE FEED (LF)	26	1A	SUBSTITUTE (SUB)
11	B	VERTICAL TAB (VT)	27	1B	ESCAPE (ESC)
12	C	FORM FEED (FF)	28	1C	FILE SEPARATOR (FS) RIGHT ARROW
13	D	CARRIAGE RETURN (CR)	29	1D	GROUP SEPARATOR (GS) LEFT ARROW
14	E	SHIFT OUT (SO)	30	1E	RECORD SEPARATOR (RS) UP ARROW
15	F	SHIFT IN (SI)	31	1F	UNIT SEPARATOR (US) DOWN ARROW

印刷可能なキャラクタ								
DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ
32	20	SPACE	64	40	@	96	60	‘
33	21	!	65	41	A	97	61	a
34	22	“	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	‘	71	47	G	103	67	g
40	28	(	72	48	H	104	68	h
41	29	)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[	123	7B	{
60	3C	<	92	5C	\	124	7C	|
61	3D	=	93	5D	]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_	127	7F	DEL

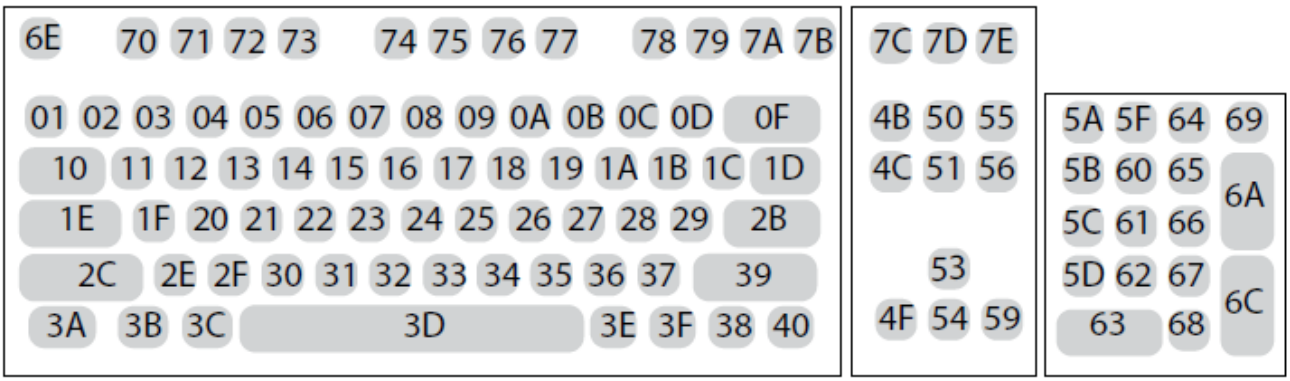
拡張 ASCII キャラクタ								
DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ
128	80	€€	171	AB	«	214	D6	Ö
129	81		172	AC	¬	215	D7	×
130	82	‚	173	AD	-	216	D8	Ø
131	83	ƒ	174	AE	®	217	D9	Ù
132	84	„	175	AF	¯	218	DA	Ú
133	85	…	176	B0	°	219	DB	Û
134	86	†	177	B1	±	220	DC	Ü
135	87	‡	178	B2	²	221	DD	Ý
136	88	ˆ	179	B3	³	222	DE	Þ
137	89	‰	180	B4	´	223	DF	ß
138	8A	Š	181	B5	µ	224	E0	à
139	8B	‹	182	B6	¶	225	E1	á
140	8C	Œ	183	B7	·	226	E2	â
141	8D		184	B8	¸	227	E3	ã
142	8E	Ž	185	B9	¹	228	E4	ä
143	8F		186	BA		229	E5	å
144	90		187	BB	»	230	E6	æ
145	91	‘	188	BC	¼	231	E7	ç
146	92	’	189	BD	½	232	E8	è
147	93	“	190	BE	¾	233	E9	é
148	94	”	191	BF	¿	234	EA	ê
149	95	•	192	C0	À	235	EB	ë
150	96	–	193	C1	Á	236	EC	ì
151	97	—	194	C2	Â	237	ED	í
152	98	˜	195	C3	Ã	238	EE	î
153	99	™	196	C4	Ä	239	EF	ï
154	9A	š	197	C5	Å	240	F0	ð
155	9B	›	198	C6	Æ	241	F1	ñ
156	9C	œ	199	C7	Ç	242	F2	ò
157	9D		200	C8	È	243	F3	ó
158	9E	ž	201	C9	É	244	F4	ô
159	9F	Ÿ	202	CA	Ê	245	F5	õ
160	A0		203	CB	Ë	246	F6	ö
161	A1	¡	204	CC	Ì	247	F7	÷
162	A2	¢	205	CD	Í	248	F8	ø
163	A3	£	206	CE	Î	249	F9	ù
164	A4	¤	207	CF	Ï	250	FA	ú
165	A5	¥	208	D0	Ð	251	FB	û
166	A6	¦	209	D1	Ñ	252	FC	ü
167	A7	§	210	D2	Ò	253	FD	ý
168	A8	¨	211	D3	Ó	254	FE	þ
169	A9	©	212	D4	Ô	255	FF	ÿ
170	AA	ª	213	D5	Õ			

印刷バーコードのコードページマッピング

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストアプリケーションが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、バーコードが作成されたときのコードページを選択してください。データキャラクタが正しく表示されます。

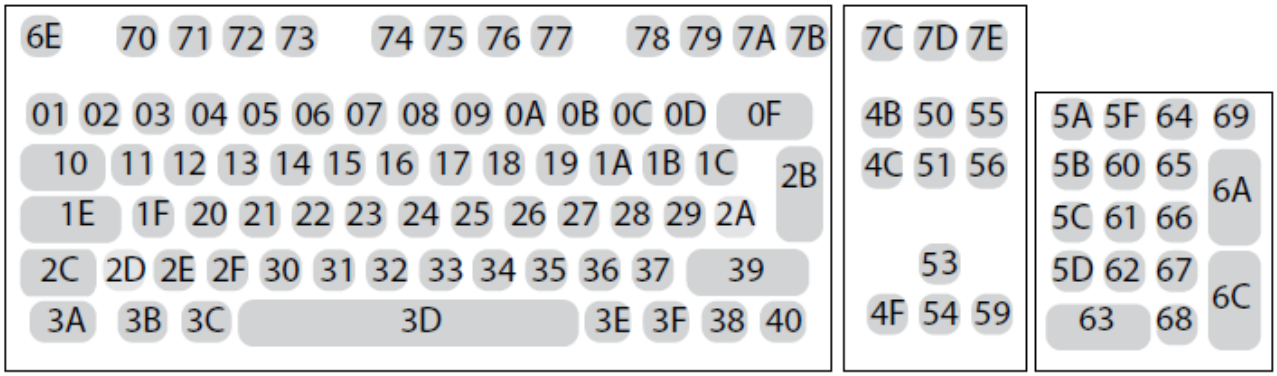
コードページ	標準	内容
1	CP ISO646	
2 （初期設定）	ISO 2022	自動置換キャラクタ
3	CP Binary	
51	ISO 8859 1 5 1	西ヨーロッパ置換キャラクタ
82	ISO 2022 11 Swe	スウェーデン置換キャラクタ
83	ISO 2022 69 Fra	フランス／ベルギー置換キャラクタ
81	ISO 2022 25 Fra	フランス／ベルギー置換キャラクタ
84	ISO 2022 11 Ger	ドイツ置換キャラクタ
85	ISO 2022 11 Ita	イタリア置換キャラクタ
86	ISO 2022 11 Swi	スイス置換キャラクタ
87	ISO 2022 11 UK	イギリス置換キャラクタ
88	ISO 2022 11 Dan	デンマーク置換キャラクタ
89	ISO 2022 11 Nor	ノルウェー置換キャラクタ
90	ISO 2022 11 Spa	スペイン置換キャラクタ
91	ISO 2022 85	スペイン置換キャラクタ
92	ISO 2022 16	ポルトガル置換キャラクタ
93	ISO 2022 84	ポルトガル置換キャラクタ
94	ISO 2022 60	ノルウェー置換キャラクタ

ユニコードキーマップ



104 Key U.S. Style Keyboard

104 アメリカスタイルキーボード

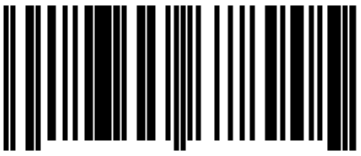


105 Key European Style Keyboard

105 ヨーロッパスタイルキーボード

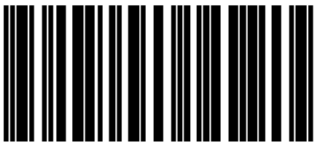
サンプルシンボル

UPC-A



0 123456 7890

Interleaved 2 of 5



1234567890

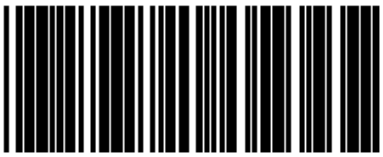
Code 128

Code 128

EAN-13

9 780330 290951

Code 39

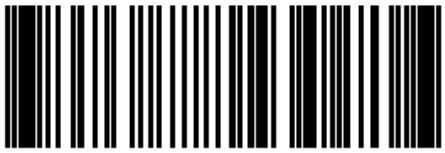


BC321

Codabar

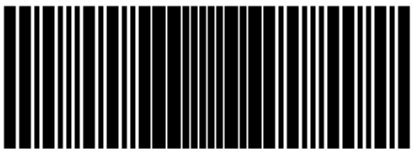
A13579B

Code 93



123456-9$

Straight 2 of 5 Industrial



123456

Matrix 2 of 5

6543210

GS1 DataBar

(01)00123456789012

PDF417

Car Registration

Postnet

Zip Code

QR Code

Numbers

Data Matrix

Test Symbol

4-CB (4-State Customer Bar Code)

01,234,567094,987654321,01234567891

ID-tag (UPU 4-State)

J18CUSA8E6N062315014880T

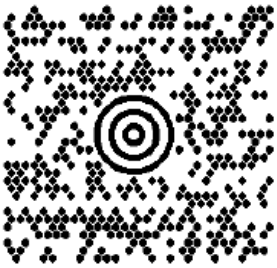
Aztec

Package Label

Micro PDF417

Test Message

MaxiCode



Test Message

プログラミングチャート

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

A

B

C

D

E

F

Save (保存)

Discard（破棄）

*注意：文字または数字（Save を読み取る前に）をスキャンしエラーした場合は、**Discard（破棄）** を読み取り、正確に文字または数字をもう一度スキャンして、**Save（保存）**を読み取ってください。*

Honeywell Scanning & Mobility
9680 Old Bailes Road
Fort Mill, SC 29707

ハネウェルジャパン株式会社
ACS/HSM
ハネウェルスキャニング＆モビリティ
〒105-0022
東京都港区海岸 1-16-1
ニューピア竹芝サウスタワー20 階
TEL: 03-6730-7344㈹
FAX: 03-6730-7222
www.honeywellaidc.com